



2009～10年度のための

地区協議会 記録

2009-10年度RIテーマ



「ロータリーの未来は あなたの手の中に」

目 時 2009年5月10日(日)

場 所 紀南文化会館 他

国際ロータリー第2640地区

ガバナーエレクト 村 上 有 司

ガバナー 勝 野 露 観



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2640

2009－2010年度のための地区協議会 記録

目 次

	プログラム	1
	部門別協議会分担表	2
	地区役員・幹事出席表	3
	地区委員会出席表	4
[全 体 会 議]	開会	5
	村上ガバナーエレクト挨拶と紹介	5
	勝野露観ガバナー挨拶	6
	2009－2010 年度の方針について	7
[部門別協議会]	会長部門	12
	幹事部門	19
	クラブ奉仕部門	
	（会員増強）	26
	（雑誌広報・IT）	34
	職業奉仕部門	40
	社会奉仕部門	44
	新世代部門	50
	国際奉仕部門	59
	財団部門	68
	米山部門	75
[全 体 会 議]	部門別協議会報告と講評	80
[資 料]	2640 地区組織図	88
	地区委員会 組織表	89
	ガバナー補佐一覧	90
	IM開催予定	91
	公式訪問予定	92

2009～10年度のための

地区協議会

日時：2009年5月10日（日）

会場：紀南文化会館他

プログラム

- 9：40～10：30 登録・受付
- 全体会議** 司会 古谷 典子
- 10：30～10：35 開会点鐘 ガバナーエレクト 村上 有司
- 国歌・奉仕の理想 斉唱 ソングリーダー 鎌塚 晋作
- 10：35～10：50 挨拶と来賓紹介 ガバナーエレクト 村上 有司
- ガバナー・パストガバナー・ガバナーノミニー・次期ガバナー補佐
地区委員長他紹介
- 10：50～11：00 ガバナー挨拶 ガバナー 勝野 露観
- 11：00～11：40 2009～10年度の方針について ガバナーエレクト 村上 有司
- 11：40～12：50 9会場へ移動・昼食
- 3委員会はバスにてホテルハナヨへ移動
- 12：50～14：50 **部門別協議会**（9会場）
- 会長部門（ホテルハナヨ 6F）
幹事部門（商工会議所 3F）
クラブ奉仕部門（職業訓練 3F）
職業奉仕部門（文館小ホール）
社会奉仕部門（文館 4F 研修）
新世代部門（ホテルハナヨ 2F）
国際奉仕部門（青少年研修センター）
ロータリー財団部門（ホテルハナヨ 2F）
米山部門（市役所 3F）
- 14：50～15：30 移動 全体会議場へ（紀南文化会館）
- 15：30～17：00 **全体会議** カウンセラー
- 部門別協議会報告と講評 パストガバナー
- 17：00～17：15 手にてつないで ソングリーダー 鎌塚 晋作
- 17：15～17：20 謝辞・閉会点鐘 ガバナーエレクト 村上 有司

地区協議会 部門別協議会分担表

部門	場所	アドバイザー・カウンセラー	ガバナー補佐・委員長
会長部門	ガーデンホテル ハナヨ 6 F	バストガバナー 小島 哲 バストガバナー 平尾 寧章 ガバナーエレクト 村上 有司 ガバナーノミニー 米田真理子	IM 1 組ガバナー補佐 坂口 富茂 IM 8 組ガバナー補佐 山田 義夫 クラブ拡大委員長 豊澤洋太郎
幹 事	商工会議所 3 F	バストガバナー 月山 和男 バストガバナー 中村 幸吉 情報・規定アドバイザー 上野山英樹	IM 2 組ガバナー補佐 沖殿 正博 IM 6 組ガバナー補佐 小西喜代一 情報・規定委員長 西尾 幸祐
クラブ奉仕 (会員増強)	職業訓練 センター 3 F	バストガバナー 成川 守彦 アドバイザー 小林 信夫	IM 7 組ガバナー補佐 榎本 主税 会員増強(退会防止)委員長 倉 保雄
クラブ奉仕 (雑誌・IT)	職業訓練 センター 3 F	バストガバナー 平岡 正巳 アドバイザー 寺下 卓	IM 2 組ガバナー補佐 川村 克人 雑誌・広報委員長 河合 真吾 IT委員長 大村 充
職業奉仕	紀南文化会館 小ホール	バストガバナー 瀬戸 新一 ガバナー 勝野 露観 アドバイザー 角谷 浩二	IM 7 組ガバナー補佐 松生 満 職業奉仕委員長 北岡 満
社会奉仕	紀南文化会館 4 F 研修室	バストガバナー 前田 孝道 バストガバナー 前窪 貫志 アドバイザー 笹島 良雄	IM 3 組ガバナー補佐 神谷 尚孝 IM 5 組ガバナー補佐 辻 知昭 社会奉仕委員長 谷脇 良樹
新 世 代	ガーデンホテル ハナヨ 2 F	バストガバナー 楠 公延 バストガバナー 平原 祥彰 アドバイザー 瀧 成和	IM 5 組ガバナー補佐 山本 正明 青少年・ライラ委員長 丸山 信仁 ローターアクト委員長 中西 秀文 インターアクト委員長 竈 和夫
国際奉仕	青少年研修 センター	バストガバナー 中島治一郎 バストガバナー 大澤 徳平 アドバイザー 京谷 知明 アドバイザー 北島 一樹	IM 4 組ガバナー補佐 西山 利昭 IM 8 組ガバナー補佐 三村 文男 世界社会奉仕委員長 中野 一郎 青少年交換委員長 豊岡 敬 オン・ツウ・モントリオール委員長 田上 雅信
財 団	ガーデンホテル ハナヨ 2 F	バストガバナー 三軒 久義 バストガバナー 亀岡 弘	IM 6 組ガバナー補佐 山本 昇三 ロータリー財団委員長 岩本 行弘 財団奨学金小アドバイザー 吉野 惣太 財団奨学金小委員長 初田 隆生 財団研究グループ交換小委員長 中川 優 財団学友小委員長 高寺 壽
米 山	市役所 3 F	バストガバナー 水田 博史 カウンセラー補佐 松下 光春 アドバイザー 河合 利晴	IM 3 組ガバナー補佐 小門 薫子 IM 8 組ガバナー補佐 山本 久 米山記念奨学委員長 浦口 英尚

09－10年度のための地区協議会 地区役員・幹事出席表

役職	氏名	所属クラブ	出欠
ガバナー	勝 野 露 観	和泉	○
パストガバナー	月 山 和 男	和歌山南	○
パストガバナー	中 島 治一郎	泉大津	○
パストガバナー	平 岡 正 已	羽衣	○
パストガバナー	瀬 戸 新 一	御坊	欠
パストガバナー	大 澤 徳 平	堺	○
パストガバナー	楠 公 延	高野山	欠
パストガバナー	中 村 幸 吉	富田林	○
パストガバナー	亀 岡 弘	泉南	○
パストガバナー	成 川 守 彦	有田	○
パストガバナー	水 田 博 史	岸和田東	○
パストガバナー	前 田 孝 道	和歌山東南	○
パストガバナー	小 島 哲 哲	泉大津	○
パストガバナー	前 窪 貫 志	和歌山南	○
パストガバナー	平 尾 寧 章	海南東	○
パストガバナー	三 軒 久 義	河内長野東	○
直前ガバナー	平 原 祥 彰	粉河	○
ガバナーエレクト	村 上 有 司	田辺	○
ガバナーノミニー	米 田 眞理子	堺フェニックス	○

次期ガバナー補佐	組	氏名	所属クラブ	出欠
	1組			
	1組	坂 口 富 茂	田辺はまゆう	○
	2組	川 村 克 人	有田	○
	2組	沖 殿 正 博	海南	○
	3組	小 門 薫 子	和歌山アゼリア	○
	3組	神 谷 尚 孝	和歌山東南	○
	4組	西 山 利 昭	高野山	○
	5組	山 本 正 明	羽曳野	○
	5組	辻 知 昭	河内長野東	○
	6組	山 本 昇 三	泉南	○
	6組	小 西 喜代一	貝塚	○
	7組	松 生 満	忠岡	○
	7組	樫 本 主 税	大阪金剛	○
	8組	山 田 義 夫	堺	○
	8組	山 本 久	堺南	○
	8組	三 村 文 男	堺フェニックス	○

地区代表幹事	桃 田 隆 彦	和泉	○
ホストクラブ会長	新 井 康 司	田辺	○
地区協議会委員長	辻 啓次郎	田辺	○
地区協議会副委員長	山 本 博 章	田辺	○
次期地区代表幹事	吉 田 透	田辺	○
次期地区副代表幹事	高 橋 武 雄	田辺	○
次期地区副代表幹事	津 村 寛 司	田辺	○
次期地区副代表幹事	坪 井 敏 行	田辺	○
次期地区副代表幹事	廣 本 喜 亮	田辺	○
次期地区副代表幹事	古久保 和 彦	田辺	○
次期地区幹事 (クラブ幹事)	植 田 英 明	田辺	○
次期地区幹事	長 井 保 夫	田辺	○
次期地区幹事	中 松 村 夫	田辺	○
次期地区幹事	市 木 栄之助	田辺	○
次期地区幹事	大 川 敏 彦	田辺	○
次期地区幹事	柴 田 隆 至	田辺	○
次期地区幹事	木 村 勝 次	田辺	○
次期地区幹事	瀬 戸 英 男	田辺	○
次期地区幹事	笹 野 吉 信	田辺	○
次期地区幹事	木 下 幾 雄	田辺	○
次期地区幹事	三 前 剛	田辺	○
次期地区幹事	阪 本 哲 次	田辺	○
次期地区幹事	木 村 頼 文	田辺	○
次期地区幹事	稲 田 太 門	田辺	○

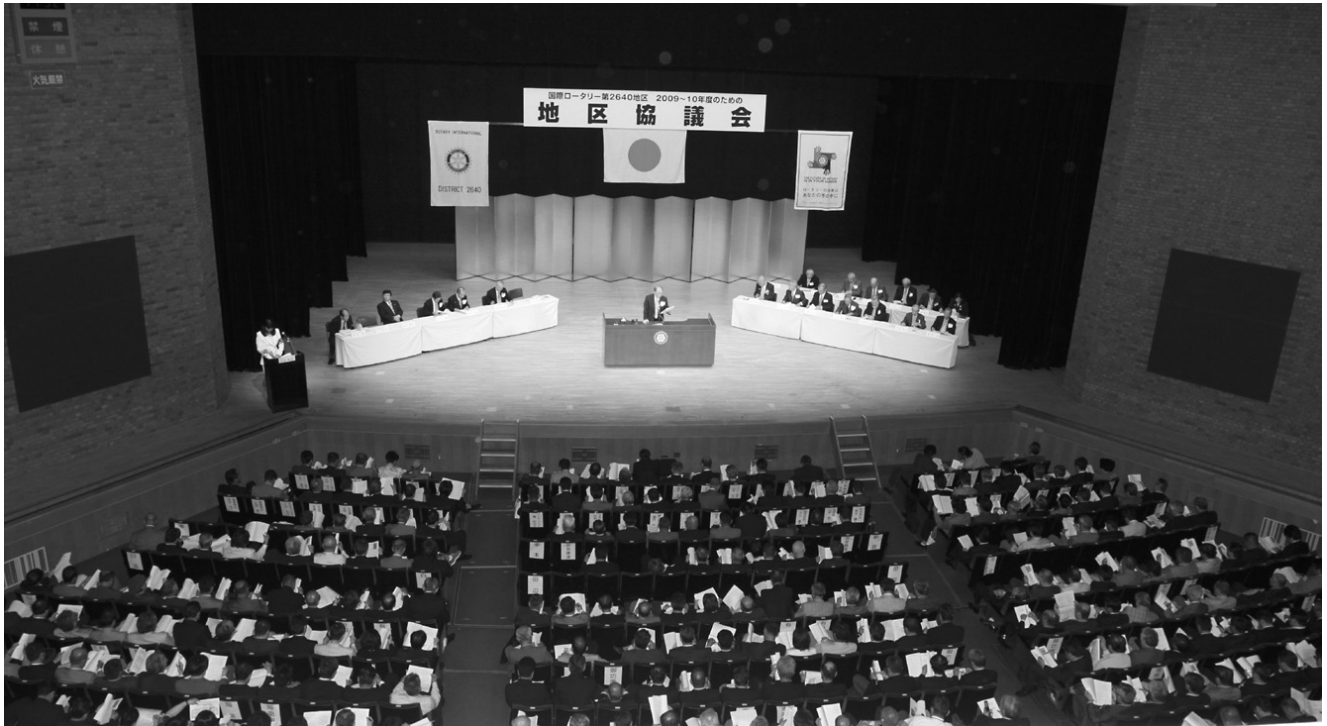
役職	氏名	所属クラブ	出欠
次期地区幹事	横田達夫	田辺	○
次期地区幹事	寒川真典	田辺	○
次期地区幹事	伊賀久記	田辺	○
次期地区幹事	竹内正巳	田辺	○
次期地区幹事	皆瀬正夫	田辺	○
次期地区幹事	大木誠治	田辺	○
次期地区幹事	小川豊介	田辺	○
次期地区幹事	荷稻實	田辺	○
次期地区幹事	鎌塚晋作	田辺	○
次期地区幹事	野村富也	田辺	○
次期地区幹事	矢野好洋	田辺	○
次期地区幹事	古谷典子	田辺	○
次期地区幹事	楠玲子	堺フェニックス	○

09－10年度のための地区協議会 地区委員会出席表

委員会名	氏名	所属クラブ	出欠
会員増強（退会防止）アドバイザー	小林信夫	和泉南	○
“ 委員長	倉保雄	堺	○
雑誌・広報アドバイザー	川村克人	有田	○
“ 委員長	河合真吾	河内長野東	○
“ 委員（ロータリーの友地区委員）	廣本喜亮	田辺	○
ITアドバイザー	寺下卓	海南東	○
“ 委員長	大村充	太子	○
職業奉仕アドバイザー	角谷浩二	泉南	○
“ 委員長	北岡満	富田林	○
“ 委員	辻林俊彦	和泉南	○
社会奉仕アドバイザー	笹島良雄	和歌山東	○
“ 委員長	谷脇良樹	海南東	○
“ 委員	阪口洋一	海南東	○
“ 委員	福岡重弘	粉河	○
“ 委員	福田資人	松原	○
“ 委員	坂東剛	高石	○
“ 委員	本田耕二	田辺東	○
“ 委員	大林久夫	和歌山南	○
青少年ライラアドバイザー	瀧成和	富田林	○
“ 委員長	丸山信仁	御坊	○
ローターアクト委員長	中西秀文	海南東	○
インターアクト委員長	竈和夫	大阪金剛	○
世界社会奉仕アドバイザー	京谷知明	堺フェニックス	○
“ 委員長	中野一郎	堺フェニックス	○
青少年交換アドバイザー	北島一樹	河内長野	○
“ 委員長	豊岡敬	富田林	○
オン・ツウ・モントリオール委員長	田上雅信	田辺	○
ロータリー財団委員長	岩本行弘	富田林南	○
財団奨学金小アドバイザー	吉野惣太	堺泉ヶ丘	○
“ 委員長	初田隆生	和歌山北	○
財団研修グループ交換小委員長	中川優	堺東南	○
“ 副委員長	山本唯二	和歌山東南	○
財団学友小委員長	高寺壽	泉大津	○
“ 委員	川端健夫	太子	○
米山奨学部門カウンセラー補佐	松下光春	泉南	○
米山記念奨学アドバイザー	河合利晴	岸和田東	○
“ 委員長	浦口英尚	和歌山城南	○
クラブ拡大委員長	豊澤洋太郎	和歌山中	○
ロータリー情報・規定アドバイザー	上野山英樹	有田	○
“ 委員長	西尾幸祐	堺おおいずみ	○

国際ロータリー第2640地区 2009-2010年度のための

地区協議会 全体会議



司会／古谷典子：

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まり頂きありがとうございます。ただ今から国際ロータリー第2640地区2009-2010年度のための地区協議会全体会議を開催致します。

本日の進行を努めさせて頂きます私は、田辺ロータリークラブ 古谷と申します。どうぞよろしくお願い致します。

それでは開会の点鐘を村上有司ガバナーエレクト、お願い致します。



村上有司ガバナーエレクト(以下村上GE)：
それではただ今から地区協議会を開会致します。心を込めて点鐘致します。(点鐘)

古谷：

続いて『国歌』、『奉仕の理想』斉唱。どうぞ皆様、ご起立下さい。指揮は田辺ロータリークラブ 鎌塚晋作ソングリーダーにお願いします。(『国歌』斉唱)(『奉仕の理想』斉唱)

次にご挨拶とご来賓のご紹介を、村上ガバナーエレクトより頂きます。

村上GE :

それでは本日、遠路ご出席を頂いておりますまずはパストガバナーの皆様方をご紹介させていただきます。

勝野 露 観 ガバナー
月山 和 男 パストガバナー
中島 治一郎 パストガバナー
平岡 正 己 パストガバナー
大澤 徳 平 パストガバナー
中村 幸 吉 パストガバナー
亀岡 弘 パストガバナー
成川 守 彦 パストガバナー
水田 博 史 パストガバナー
前田 孝 道 パストガバナー
小島 哲 パストガバナー
前窪 貫 志 パストガバナー
平尾 寧 章 パストガバナー
三軒 久 義 パストガバナー
平原 祥 彰 直前ガバナー
米田 眞理子 ガバナーノミニー

続きまして次期ガバナー補佐の皆様をご紹介致します。

坂口 富 茂 ガバナー補佐 (1組)
川村 克 人 ガバナー補佐 (2組)
沖殿 正 博 ガバナー補佐 (2組)
小門 篤 子 ガバナー補佐 (3組)
神谷 尚 孝 ガバナー補佐 (3組)
西山 利 昭 ガバナー補佐 (4組)
山本 正 明 ガバナー補佐 (5組)
辻 知 昭 ガバナー補佐 (5組)
山本 昇 三 ガバナー補佐 (6組)
小西 喜代一 ガバナー補佐 (6組)
松生 満 ガバナー補佐 (7組)
樫本 主 税 ガバナー補佐 (7組)
山田 義 夫 ガバナー補佐 (8組)
山本 久 ガバナー補佐 (8組)
三村 文 男 ガバナー補佐 (8組)

次に、本来ですと地区の委員長、役員の皆様をご紹介することになっておりました

が、何しろ時間の制約がありますので、資料(75ページ)にご出席の皆様のお名前を掲載しておりますのでご覧頂き、ご紹介を省略することの無礼をお許し頂きたいと思えます。どうぞ皆様、その場にてご起立下さい。ありがとうございます。

またホストの田辺ロータリークラブの方々地区協議会のために準備し、本日は50余名のメンバーが運営にあたっております。

辻 啓次郎 地区協議会委員長
新井 康 司 ホストクラブ会長
吉田 透 次期代表幹事

以上、ご紹介をさせていただきました。

古谷 :

ではここで勝野露観ガバナーよりご挨拶を頂戴します。よろしくお願い致します。



勝野露観ガバナー :

おはようございます。早朝より地区協議会にご出席下さり、心から感謝申し上げます。いよいよ2009-2010年度の動きが本格化して参りました。本日は地区の主要な方々、並びにクラブのリーダーの方々にお集まり頂き、次年度に向けてより素晴らしいロータリーを作り上げるためにご協議頂き、ご努力頂く次第です。もうすでに次年度の準備は各クラブにおいてされておりますし、「どのようなターゲットに向けて活動していこうか」、「どのようなリーダーシップを持って導いていこうか」ということで、いろいろなプランを立てて頂いていると思えます。

本日は各部門におきましては、様々な意見を遠慮なく出して頂いて、次年度に素晴らしい活動にして頂きたいと思います。私の年度では「本来のロータリーの原点に戻ろう」ということで、本来のあり方を目指してきた次第です。次年度はその動きをより一層深めて頂きたい。ロータリーのみならず地域社会やまた世界全体において良い流れを構築していかなければ、行く末は非常に不安です。昨今は政治や経済においても、その方向性を見失っており、どう進路をとっていけば良いのかが目に見えていない状況です。皆さんは各界の代表でありまた各業界のリーダーですので、しっかりとした指針を立てて頂いてロータリーと同時に地域においても指導者としての役目を果たして頂きたいと思います。

ご承知の通り次年度のテーマは

『THE FUTURE OF ROTARY IS
IN YOUR HANDS』

です。ロータリーは決して上からのトップダウン方式ではなく、1つひとつのクラブ、1人ひとりの会員がしっかりと意識を持って活動していくことが大切です。ですから実に時を得たテーマだと感じていますし、どうか各人がしっかりと自覚を持って行動して頂きたい。次年度がより素晴らしい2640地区となりますことを心から念ずる次第です。

古谷：

ありがとうございました。続きまして2009-2010年度の方針について村上ガバナーエレクトよりお話を頂戴致します。

村上GE：

本日は、北は堺から南は新宮まで、各地より田辺の地に遠路お運びを頂きまして、本当にありがとうございます。

昨年の11月に次期ガバナー補佐の皆様と第1回目の会合を、12月には各クラブの会長エレクトの皆様方とPETSという

会合を持ちました。年が明けて1月18日からはサンディエゴでの国際協議会にも参加しました。2月には地区チーム研修セミナーと次期ガバナー補佐の皆様との第2回目の会合を持ちました。3月には第2回目のPETSを開催させて頂きました。そして本日の地区協議会となりました。今日の地区協議会が無事に終了すれば、手続要覧に規定されていますガバナーエレクトに対する次年度に向かった公式のイベントが全て終了することになります。いよいよ7月からの新年度の出発となります。

私は機会を通じて、私のロータリーに対する考え方を皆様方に披瀝して参りました。これを受けて地区委員会、また各クラブでは綿密な計画を立てて頂いているようです。今日の昼からは各部門別の会議を十分に時間をとって設定しています。と言いますのも、皆様方が主役であるからです。どうぞ忌憚のない意見を出して頂いて、計画に不備があれば修正を、不足している点があれば補足を、そして確認して頂き間違いがなければ自信を持って次年度に進んで行って頂きたいと思います。本日の地区協議会はその意味で、準備段階の集大成ということになります。

1月18日から開催されたサンディエゴでの国際協議会で、ジョン・ケニーRI会長エレクトは次年度のテーマを

『THE FUTURE OF ROTARY IS
IN YOUR HANDS』

(ロータリーの未来はあなたの手の中に)と発表されました。「未来のロータリーを作り出すのは、RIの事務局のあるエバンストンではありません。皆さんの各ロータリークラブです。」と、世界中のロータリアンに話かけられました。今、世界中には32,000を越えるロータリークラブがあります。皆様方のクラブは1/32,000の存在ではありません。32,000/32,000の存在、すなわち1の存在です。世界中には大きなクラブ、小さなクラブ、歴史の古

いクラブ、新しいクラブといろいろあります。どのクラブ1つをとってみても、かけがえのない存在であり、皆様方のクラブが最終、最高の存在です。たとえRI会長や地区ガバナーであっても、皆様方のクラブに「あぁしろ、こうしろ。」と強制することは出来ない仕組みになっています。したがって、ジョン・ケニーRI会長エレクトが述べたことは、ロータリーの本髄を語るものであって、非常に格調の高いものと言わざるを得ません。しかしこのことを逆説的に考える必要があると、私は思います。皆様方のクラブは確かに存在価値の高いクラブですが、そうである以上、皆様方はそれだけの責任と義務を果たさなければなりません。皆様方が他所からの命令や支配を拒むならば、また他所からの光によって輝くことを嫌うのであるならば、自分のクラブの中に灯りを燈して、その中から世界中に自分たちのクラブをアピールする努力と義務が課せられているということです。ジョン・ケニーRI会長エレクトが次年度テーマを発表した後に「ロータリークラブは自主的に活性化をしなければなりません。」と付け加えたことは忘れてはなりません。

今、ロータリーは少し騒りがみえてきています。これは偏に各クラブの責任であると言っても、過言ではないと思います。ロータリーが騒ってきているということは、皆様方のクラブが騒ってきているということです。各クラブが活性化をして活力を取り

戻して頂かないと、ロータリー全体の活力は湧いてきません。どうすれば各クラブが活力を持てるのか。それはロータリーの神髄を理解する中で、時代に遅れないでマッチしたクラブに生まれ変わって行くことです。言い古された言葉ですが『賢者は歴史に学ぶ』という言葉があります。ロータリーは厳しい時代もありましたが、100余年の輝かしい歴史を持っています。この歴史を今一度、紐解きましてその中から神髄を見つけ出して頂きたいと思います。その上に立って今流の時代に遅れないクラブを作り上げて頂きたい。ポール・ハリスが、「昨日よりも今日、今日よりも明日、新しく生まれ変わらなければならない。」と言った言葉を、我々は肝に銘じなければならないと思います。私は次年度の当地区の活動方針を『歴史に学び、変革と進歩を』としたのは、このような経過を踏まえてのことです。

最近、私はロータリーについて深く考えることがあります。国際ロータリー定款第5条第2節によりますと、ロータリークラブは「社会で一般的に認められた有益な事業または専門職務の方々によって構成する」と書かれています。2007年の規定審議会において、社会奉仕活動をする人も会員として認めることになりましたので、多少の修正はあります。定款の「有益な事業または専門職務」は難しい表現ですが、簡単に言いますと、「現役の経済活動人」であ



ると考えれば良いかと思えます。これらの方々はご自分の事業や職場を守るために日夜ご苦労をされている大変多忙な方々です。その方々が誰に強制されたのでもなく自ら進んでロータリーに参加され、超多忙な中を寸暇をさいてロータリー活動に勤しんでくれています。しかし、その対価を求めている方はおられません。ただ世の中が少しでも良くなれば、というささやかな気持ちからロータリー活動を実行しています。一口にロータリアンと言いましても、その意欲や意識において、もちろん温度差があります。しかしロータリアンと言う以上、我々は今、申し上げた気持ちを無くしてはロータリーバッジを付けていくことが出来ません。我々はロータリーという舟に乗り合わせた仲間であり友達です。この仲間、友達の輪を一層強くして大きくすることによって、我々の目的である久遠の世界平和を追求していくことが出来ます。ロータリアン1人ひとりの力は小さいかもしれませんが、縁を強くして、友情の輪を強くして、そしてそれを一層大きくすることによって些細な力が大きな力となって、目的が実現されるのです。友情はお金や物で手に入れることは出来ません。ロータリー活動の中で心を開いて語り合える本当に良い友達を見つけ、その友達と自分の職業の研鑽や人格の向上を図りながら、その延長線上で社会のために少しでもお役に立つことが出来れば、こんなに愉快的楽しいことはありません。大変お忙しい皆様方がロータリー活動に精力を注いで活動して頂けるということは、この喜びを知った人々であるからだと私は考えます。

1905年2月23日、シカゴでポール・ハリスは3人の友達と薄暗い事務所で話合いました。そこからロータリーが出発するのですが、ポール・ハリスが3人の友達に熱烈に話しかけた最終の目的は、「心を開いて語り合える友達を見つけないだ。」ということだったと言われています。ロー

タリーと縁結び、ロータリーと友達作りというのは、その出発時点から掲げられた目的であったのです。私は次年度の地区の活動キーワードを“縁づくり”としたのはその故からです。7月から始まる2640地区の活動におきましては、楽しく愉快的、そしてその中に実りのある活動にしたいと考えています。

ここで各論について少し触れたいと思います。まず会員増強についてです。当2640地区は1番多い時で3,700人を超える会員を擁していました。しかし今年の2月末では2,350人を切ってきています。こうなってきましたと地区の運営も大変厳しいものがあります。なかなか予算立ても難しい状況です。会員さんの中には「ロータリーは数ではない。」と言われる方もおります。しかし私は、組織においては人的な資源、人は宝だと思っています。会員が減少するクラブにおいて、活性化をしていると豪語することは出来ません。先ほど申しました国際ロータリー定款第5条第2節の条件に反する人々をロータリーに迎えることは出来ませんが、その範囲内であるならば、現在ロータリーについて全く知らない方でも結構です。ロータリーについての勉強は、ロータリーに入会してから皆様方と共に頑張ってもらえば良いと思います。次年度は各クラブで是非とも会員増強に努めて頂きたいと考えています。ジョン・ケニーRI会長エレクトは次年度、各クラブ純増1名と提案されています。しかし当地区では、最近の落ち込み状況から考えれば純増2名でお願いします。そして早いうちに、2,500名まで回復出来るように期待し希望しています。

またジョン・ケニーRI会長エレクトは各地区に新しいクラブを1つ作るようにも提案してきています。現在のような経済状態の中で、新クラブの発足など夢のまた夢だと思われるかもしれませんが、しかし、当地区では本年度、1つのクラブが消滅しま

したし、おそらく近い将来、もう1クラブが無くなります。この2～3年の間に消えたクラブ、また合併して無くなったクラブを併せれば5クラブになります。クラブがどんどん減るのを横目で見ながら何もしないということは、私には出来ません。厳しい経済状況の中で新クラブを作ることは大変無理がありますが、出来れば私の年度で2つのクラブを旗揚げ出来ればと希望しています。今年度から復活しました地区の拡大委員会の皆様方は精力的に動いて頂きます。そこで皆様方をお願いがあります。拡大委員会の活動に対して、既存のクラブから反対があったり協力して頂けないと拡大委員会では悩んでいます。新クラブ発足にあたっては既存クラブの権益は最大限尊重し、影響の少ない方法で進めさせて頂く予定です。新しいクラブができるということは、皆様方の弟や妹ができるということです。拡大委員会の皆様方がお願いに伺った時は、ロータリーの温かい慈悲の心で迎えて頂いて、ご協力を賜りたいと思います。

次に職業奉仕について申し上げます。アメリカ発の経済危機は世界の隅々まで、その悪影響を及ぼしています。特に当地区では中小零細企業の方々が多くおられます。願わないことですが、会員の中には倒産等により退会される方もおります。このような状況においては、人間の弱さとも言いましょうか、何とか自分だけその場を凌いで立ち直りたいと考えるものです。そして「少くならなら倫理に反してもいいだろう。少くなら法律に違反してもいいだろう。」と、泥舟に乗って漕ぎ出すわけです。ロータリアンはそうであってはならないと思います。泥舟に乗ってその場を凌いだとしても、近いうちに人格を否定するような評判と噂の中で地獄を見ることが多くあります。立ち直るには正道を歩まなければなりません。ロータリアンの皆様をお願いしたいのは、もちろんご自分はその選択をしなければなりません、ご自分の近くで誤っ

た選択をしている人を見かけた時には、正しい選択をするよう声がけする勇気を持ち合わせて頂きたいと思います。そしてご自分の身の丈で結構ですので、何か手助けもしてあげて頂きたいと考えています。先日、北岡次年度地区職業奉仕委員長より、各クラブにお願いしたアンケートを見せて頂きました。各クラブにおいては、①四つのテストの唱和、②職場見学、③職業奉仕月間にはスピーカーを招いて卓話を聞いています。等々と書かれていました。職業奉仕のために努力して頂いていることには大変敬意を表します。また今後も続けて頂きたいと思います。このように我々ロータリーは、職業倫理・職業奉仕に力を入れているのに、新聞紙面で皆さんも見られたようなロータリアンが関係する違法な、あるいは職業倫理に反するような事件が多発するのは何故でしょうか。私のクラブでも職業奉仕委員長のリードによって、四つのテストを月1回唱和しています。空念仏という言葉がありますが、そのような感覚を時々持つことがあります。皆さんが唱えている四つのテストは日本語訳されたものです。私は以前から、四つのテストをそのまま実践して本当に商売が出来るのか疑問に思うことがたびたびありました。このようなことを申し上げるとお叱りを受けるかもしれませんが、私が申し上げているのは、四つのテストが悪いということではありません。四つのテストの日本語訳に問題がないのかな、ということです。本日、次期クラブ職業奉仕委員長にも来て頂いています。職業奉仕委員



長は、クラブ理事を兼任されることになっており、大変重要な職務です。次年度は是非とも英文の四つのテストを取り寄せて、日本語訳との対比をお願いします。そして四つのテストの本当の意味をご理解賜りたいと思います。職業奉仕の研究者は多く、文献も出ています。それらを取り寄せて頂いて、四つのテストの真髄はどこにあるのかをまずご自分でご理解頂いた上で、皆様方と話し合ってください、身に沁みた職業倫理の習得に努めて頂きたいと考えています。

米山もロータリー財団も皆様方の浄財をお願いする委員会です。各クラブにおいても現在の経済状況の中、ご苦勞される委員会です。2640 地区は今まで、34 の全国の地区の中でも上位にランクされる献金を維持してきました。しかしここ数年、中間まで下がってきています。どうか今一度、格調の高い地区に回復出来るようお願い申し上げます。米山につきましては寄付金目標を1人当たり2万円、ロータリー財団は年次・恒久プログラム基金の寄付金目標を1人当たり200ドル、従来通り目標設定させてもらいました。どうか目標を達成できるよう、皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

ポリオ・プログラムは20余年前から、ロータリーが最重要項目として取り組んできたのは、皆様ご存知の通りです。ところで、2007年にビル・ゲイツ財団から、「1億ドルを寄付する、そのかわりにロータリーも1億ドルを3年間で用意して下さい。」という“1億ドルチャレンジ”の申し出がありました。単純に計算しますと、現在、全世界中に120万人のロータリアンがいますから、1人当たり90ドルということになります。これを3年間で集めるわけですから、すなわち勝野年度、村上年度、米田年度で集めるわけですから各年度では30ドルということになります。このような考えの下で勝野年度では一部、そのご寄付を頂戴しています。私もその実行を継続す

るように考えていました。ところが今年の国際協議会においてビル・ゲイツが突然に登壇しまして、「以前、ビル・ゲイツ財団から1億ドルを寄付すると言いましたが、あと2億5500万ドルを追加寄付します。」と話されました。「そのかわりにロータリーも同額とは言いませんが、あと追加で1億ドルを2012年6月までに用意して下さい。」という2弾目のチャレンジの申し出がありました。このことについて本日の資料は印刷の関係上、古い資料となっておりますが、3月の諮問委員会において中島パストガバナーより、「当地区のDDFの余裕が約45万ドルあるので、そのうちの30万ドルを提供しませんか。」と提案があり、いろいろと検討しました。そして皆さんの賛同を得るために、先日開催されました地区大会の第1日目の会長幹事会に提案され、全員の拍手を持ってご承認頂きました。これで当地区としましては、第1回目と第2回目のビル・ゲイツから提案のあった特別寄付のチャレンジ分は全て義務を果たしたことになります。しかし今後もポリオ・プログラムはまだまだ続いていくと思いますし、またRIの最重点項目でもありますので、引き続きご協力をお願い致します。

本日の資料に書かれている各部門の内容で、ただ今、説明出来なかった項目につきましても、私自身十分に目を通しまして賛同していますので、それぞれの計画に基づいて実行に移して頂きたいと思います。変革を求められるのは各クラブだけではありません。地区も大いに変革していかなければなりません。次年度も実のある1年となるよう念じていますので、どうか皆様方のご協力、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

古谷：

ありがとうございました。これで午前中の予定は終了致しました。この後、各部門別の会場へご移動下さい。

部門別協議会

会 長 部 門

カウンセラー・アドバイザー

小島 哲 パストガバナー
 平尾 寧章 パストガバナー
 村上 有司 ガバナーエレクト
 米田真理子 ガバナーノミネー

ガバナー補佐・委員長

坂口 富茂 IM1組ガバナー補佐
 山田 義夫 IM8組ガバナー補佐
 豊澤洋太郎 クラブ拡大委員長

SAA:

長井 保夫・中松 村夫

進行:

植田 英明



挨拶

(ガバナーエレクト 村上 有司)

本日が私のガバナーエレクトとしての準備の集大成、最後の仕上げになります。ここにお集まりの皆様は各クラブのトップリーダーですので、皆様方を通じていろいろとお願いすることもあるかと思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

例会はロータリアンにとっては憩いの場所であると同時に、自分自身の人間性を形成するための道場だと言われていています。しかし各クラブの例会は、そのいずれの機能も果たしていないような気がします。いかがでしょうか。マンネリ化していませんか。私は変革を訴えています。クラブの運営についても変革をお願いしたいと思いますが、特に例会の運営については特に尽力して頂きたい。会員の減少によって予算的に無理が出てきた時には、その解決の1つの方法として、いくつかの



近隣のクラブが時々集まって例会を開催するといった合理的な運営を考えれば、面白いものが出来る上がるかもしれません。中には、「例会は決まった場所で、決まった時間に行うものだ。」といったお考えの方もいらっしゃいます。しかし定款・細則を見て頂ければ、事前に理事会の了解を得ればそれらを変更する例会も行うことが出来ます。

公式訪問は8月26日から12月17日の間で行います。基本的には各クラブを訪問する予定ですが、合同での公式訪問をご希望のところはそのように致します。例会開始1時間前くらいに行かせて頂き、会長・幹事さんと親しくお話をさせて頂きたいと思っております。最近はガバナー補佐の皆様へクラブ協議会を事前に行って頂くことになっています。それを受けてガバナーが皆様のクラブを公式訪問する訳ですが、そうするとガバナーが一方向的に話をして終わることになってしまいがちです。したがってご希望がありましたら、例会終了後に30～60分程度の座談会を持ちたいと考えています。

IMは2月、3月頃の開催となると、あまり意味がないと思っておりますので、出来るだけ12月中には開催して頂いて、そこで出てきました問題につきましては、私の年度中に解決したいと思っております。方法は各担当クラブにお任せしますが、各委員会ごとの勉強会、事前会議は是非とも行って下さい。どの委員会が事前会議を行うかはお任せします。本会議の内容や終了後の懇親会の有無もお任せしますが、出来るだけ多くの皆様に最後まで参加して頂けるような面白い企画など、ご配慮頂きたいと思っております。

地区大会は2010年4月17日・18日に白浜のコガノイベイホテル、田辺の紀南文化会館において開催致します。当日は1300～1400名の参加を予定しており、全員参加のつもりで皆様方にもよろしくお願い致します。またゴルフ大会は4月5日に予定しています。

会長としての心得（1）

（パストガバナー 小島 哲）

1985-86のRIテーマは「あなたが鍵です」でした。そして来年度は「ロータリーの未来はあなた方の手中にあります」です。この様に歴代のRI会長さんは皆様のクラブ、そして会員さんがロータリーを発展させる原動力ですとおっしゃっております。RIから言われたことを丸呑みするのではなく（CLPなどが良い例です）、皆様が「どうすればより良きロータリーを創ることができるのか」をお考えになって来年1年をお過ごし下さい。

皆さんは来年度のクラブ会長さんですから、クラブの活動をどの様にするのかを充分にお考え下さってクラブの運用を決めて頂きたいと思っております。この地区には73のクラブがあります。皆さん同じ様な活動ではなく、例えば私のクラブは世界的な奉仕活動はやらないで地域社会に特化して社会奉仕に全力をあげる、とか 米山も財団も奨学生を目玉にしているが、財団よりも米山の方が良いと思われたら財団寄付を人頭分担金のみにして残りは総て米山に寄付する といったクラブがあってもよろしいのではないのでしょうか。

いずれにしても、皆さんご自身がお考えになって効果的なクラブ運営をされることを願っております。

会長としての心得（２）

（パストガバナー 平尾 寧章）

私は水田ガバナー年度の時に会長でした。次の前田ガバナー年度にガバナー補佐を務めました。その時の3月のPETSで前田ガバナーエレクトは「リーダーというのは一に辛抱、二に辛抱、三、四がなくて五に辛抱」と言われました。ポール・ハリスは寛容（トレランス）という言葉を使っていますが、忍耐＝寛容だと私は思います。クラブは多様な皆様の集まりです。いろいろな事柄についても賛成する人も、反対する人もいます。また前田ガバナーエレクトは1番目に、「責任ある地位に就く人は大きな度量を持ちなさい。少々のことで腹を立てたりしてはダメです。何でも受け入れる広い心を持ちなさい。」、2番目に「勇気がないとダメです。難関は必ずあります。それを乗り越えてやろうという勇気を持ちなさい。」、3番目に「迷いがあってははいけません。自分がやりたいと思ったことは何が何でもやってやる、と考えなさい。」と言われました。私は当時、例会のマンネリを何とかしたいと思っていました。特に出席率はどんどん低下していました。たいてい例会では後ろの席から埋まっていきます。私は席替えを行いまして、以前に6テーブルだったのを、前方に3テーブル、後方に2テーブルとしました。クレームもありましたが、ちょっとした勇気だったかと思います。

ロータリーは逆ピラミッドの組織ですが、会長はやはりトップに立って理事会を引っ張っていかねばなりません。ポール・ハリスの“寛容”、前田パストガバナーの“度量・勇気・迷いをなくす”という言葉の肝に銘じて、どうか1年間頑張ってくださいと思います。



拡大について

（次期クラブ拡大委員長 豊澤 洋太郎）

皆さんのクラブで、拡大委員会のあるクラブの方、いらっしゃいますでしょうか？ありがとうございます。私の聞いた範囲では2クラブとお聞きしています。

皆さんのクラブは必ず親クラブがあるはずで、当地区で親クラブないのは1クラブのみです。その親クラブの拡大委員会の方に、皆様のクラブを作って頂いたことになります。通常の方法で出来ました最後のクラブは有田 2000 さんです。1999 年に出来たクラブで、それ以降、新しいクラブはこの地区では出来ていません。企業に例えますと、「費用がないから、研究・開発部門を廃止した。」というのが今の地区の状態だと思います。これで将来はありますでしょうか。そこで次年度の会長さんをお願いですが、増強委員会はほとんどのクラブがお持ちだと思います。そこで増強の後ろに“・拡大”と付けて、新しい委員会は作らないで結構ですので、そういう研究をして頂けるご協力をお願いできませんでしょうか。“増強・拡大委員会”と看板を架け替えて頂き、メンバーもそのまま結構です。そして我々と一緒に研究して頂きたいと思います。今、拡大委員会では拡大委員 1 名で 20 名の会員候補を集めています。無理と言われるかもしれませんが、とにかくやってみようということです。大変ですが不可能ではないと思います。この

委員会は米田さんの年度も続きますので、協力してみようという会長さんがいらっしゃったら是非とも申し出て頂きたいと思います。

いろいろな年度がありますが私の感じたところ、第1回目の理事会に会長、幹事さんが1枚の推薦状を出したクラブはかなりの枚数が出ています。1枚の推薦状を早期に出せるかどうかということです。ですから今からご準備して頂ければ、皆さんのクラブも活性化するのではないかと思います。

午前中にガバナーの話にもありましたが、私共も一生懸命に推薦状を集めています。したがって皆様方のクラブとバッティングすることもあります。その時は紳士協定でお互いに話をしたいと思います。そのような時は拡大委員会まで申し出て下さい。

我々は皆さんが不可能だと思っている夢に向かって走っている委員会です。夢追人かもしれませんが、このような委員会もあるんだということを、皆様の頭の片隅に置いて頂きたいと思います。皆さんのクラブの増強、拡大委員会の看板の架け替え、そして次次年度の会長さんに引き継いで頂きたいのですが、1名の委員会で結構ですので拡大委員長さんをお決め頂ければ幸いです。

地区協議事項

(ガバナーエレクト 村上 有司)

2009—2010 年度地区予算 (案)

クラブ分担金の承認

2007年にビル・ゲイツ財団から1億ドル寄付の申し出がありました。その時の条件として、「同額の1億ドルをロータリーでも2010年12月までの3年の間に集めて下さい。」というものでした。RI理事会はそれを受け入れました。その時にその金額をクラブ単位とするのか、1人当たりとするのか議論がありました。クラブには人数の多いところもあれば少ないクラブもありますので、不公平感があります。全世界中のロータリアンは約120万人ですので1人当たりになれば約90ドルになります。この金額を3年間で用意するとなると1年間に30ドルということになります。当地区ではそのことを諮問委員会で決めまして勝野年度では12月までに30ドルを集め、私の年度と米田年度でも30ドルずつ集めることになっていました。ところが今年の国際協議会で予告なしにビル・ゲイツが登場してきて、1時間あまりポリオに対する情熱的な話をされました。その時に彼は「前に1億ドルを寄付すると言ったけれど、2億5500万ドルを追加寄付します。」という話がありました。その条件として「2億5500万ドルと同額とは言いませんが、2012年6月までに1億ドルを追加で集めて下さい。」ということでした。正直私は、以前にも地区の皆様をお願いしているのに追加でまたお願いすることになるので困ったな、と感じました。またポリオに関してはいろいろな考え方の人がいらっしゃいます。しかしRIでは前向きに進めるということでしたので、いずれかの形で皆様方をお願いしなければならないと考えていました。いろいろと悩んでいたところ、本年度の財団のカウンセラーをされている中島パストガバナーから3月の諮問委員会の席に提案がありました。“現在2640地区にはR財団のDDFが45万ドルあまりあるので、そのうちの30万ドルをポリオの特別寄付に寄付したらどうか”という提案で、そうすると最初のチャレンジの分と今回の2回目の分の全てが終了するということです。

ここでDDFを説明します。R財団の寄付には年次寄付、恒久基金寄付、使途指定寄付があります。R財団に寄付を頂くと日本事務局を通じてアメリカの本部に送られます。恒久基金寄付は元本を使わずに、将来の安全のために溜めておくものです。年次寄付はむこうでそのお金を3年

間運用した後、3年後に当地区から寄付をしたお金のうち半分が地区に戻ってきます。その返ってくるお金のことをDDFと言いますが、現金で返ってくるわけではありません。DDFは教育的プログラムや人道的プログラムに使うことができますが、人道的プログラムに使う場合はRIに対して地区補助金の申請を出す必要があります。我が2640地区は日本の34地区の中で、RIに対して人道的プログラムに使うという申請を出さずにきている唯一の地区です。したがって当地区では奨学生の派遣等の教育的プログラムにしか使っていません。以前に比べ奨学生への申請が減ってきており、また合格しても辞退する人も増えてきました。ですから他地区に比べると人道的プログラムに使っていない分DDFの残りが多くなります。DDFは年々積み立てていくことができます。現在45万ドル余りあります。そのうちの30万ドルをポリオの特別寄付に使っては、というのが中島パストガバナーからの提案です。

また2013年7月からロータリーの財団の制度が“未来の夢計画”という名前のもと大幅に変更になります。それは今年の7月から3年間かけて、内容をいろいろテストしながら変えていきますので、まだ確定はしていません。しかし決まったことが2つあります。2013年7月から“未来の夢計画”を行うということと、その時点で残っているDDFは全てRIに没収となることです。ですからそれまでに何とか使いたいわけです。その上今、DDFを使って寄付をすれば、1ドルにつき50セントのプレミアムが付いています。例えば今、30万ドルを寄付すれば、R財団ではプレミアムが付いて45万ドルを受け取ったことになります。その期限は4月末までということでした。したがって3月の諮問委員会に提案され、先日の地区大会で急遽、会長・幹事に提案し了解を得たわけです。結論としましては、皆様方に最初のチャレンジの1億ドル分と、2回目の1億ドル分の特別寄付を今後頂戴することがなくなりました。ただこれはビル・ゲイツ財団からの申し入れに対する特別寄付についてであって、ポリオ全てに関するものではありません。

次に予算案ですが、前年度とほとんど変わっていませんが、収入の部の地区資金は年々減ってきています。お1人の負担額は変わっていませんが、会員数の減少によるものです。皆様のご努力によって会員増強をお願いしないと、収入不足となりますのでどうぞよろしくお願い致します。田辺で委員会も何回か開催することにしていますが、それによって各委員会の会場費を少しでも削減出来ればと思い、皆様にご協力をお願いしました。先ほども申しましたが、資料の中の“ポリオプラス\$30(1人当たり)”の予算案は消して下さい。各クラブでは、この金額を次年度予算の中に組み入れたと思いますが不要となりました。そこで今日はまだご相談の域を出ませんが、社会奉仕委員会において地区として南海地震に対する活動を考えており、期の途中で1人当たり1,000円程度のご寄付をお願いすることがあるかもしれませんが、その節はどうかご協力よろしくお願い致します。

国際交流及び地区青少年ファンドですが会員1人当たり3,000円から3,500円に、またWCSファンドは2,000円から1,500円に変更しています。どうぞよろしくお願い致します。

<質問>

Q：DDFの45万ドルのうち30万ドルを使うというお話がありましたが、その残りの15万ドルはどうなるのでしょうか？

A：今まだ確定していませんが、使い道はございます。2013年6月に使い残して没収されることのないように検討中です。ただ当地区は寄付を集める時に教育的プログラムに使うということをお断りした上でご寄付頂いていますので、人道的プログラムに使えないこととなります。したがって教育的プログラムで使うことを予定しています。(村上ガバナーエレクト)

A：DDFは皆さんのご寄付の半分を、「どうぞ、あなたの地区で使い道を決めて下さい。」というものです。キャッシュがあればキャッシュでいいのであって、そのDDFでしか出来ないことをやるべきだと考えます。それは奨学生を送り出すことであって、キャッシュがあればすぐに出来るかということそうではありません。私の年度の地区大会での決議事項では、「DDFでしか出来ないことをDDFでやりましょう。」となっています。今回の30万ドルの件ですが、この30万ドルは何かと言いますと、年次寄付で半分をWFに寄付した残りです。60万ドルを寄付して、返ってきた30万ドルを寄付するわけです。ですからポリオに寄付したいと思うのであれば、年次寄付で半分WFに渡ってから残りを寄付するのではなくて、初めからポリオへの使途指定寄付とされた方がはるかに効果的です。今回は2012年6月までの期限もありますので、30万ドルを使うことになりました。

どうか皆さんもDDFでしか出来ないこと、またキャッシュで出来ることの区別を心得て頂いて、各クラブの財団委員会をご指導頂ければと思います。（小島パストガバナー）

Q：初めのビル・ゲイツ財団からのチャレンジでは、3年間で1人当たり90ドルということでしたが、“90ドルを3年に割って集める”、“90ドルを一度に集める”というどちらでも構わないと聞いていました。後者の場合は、どのようになるのでしょうか？

A：仮にすでに90ドルをご寄付頂いたとすると、現時点でご寄付頂いている分はそのままです。（村上ガバナーエレクト）

Q：“WCSで2010年3月頃にRI第3400地区（インドネシア）との間で実施予定”となっていますが、3年前に田辺クラブと新宮クラブでバリ島に給水タンクを設置したのですが、それに併せてその後うまく稼働しているかをチェックしてみたいのですが、そのような予定はないのでしょうか？

A：具体的な予定はまだ何も決まっていますが、今後WCSの委員会と相談しながら決めていきます。（村上ガバナーエレクト）

Q：米山についてですが、現状は中国や韓国の奨学生が多いので、もう少し発展途上国の困っている人々を支援するように出来ないのでしょうか？

A：現在、そのような意見を十分に検討しています。2010-2011年度からまた以前のような現地採用に取り組む方向で進んでいます。（米田ガバナーノミニー）

A：地区の財団の奨学生には何人かの枠があります。その枠の1つを相手国に差し上げて、日本の大学ではなくて現地の大学へ行って頂くのは可能で、方法はあるかと思えます。

（小島パストガバナー）

（村上 ガバナーエレクト）

以上、ご説明させて頂きました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。（拍手にて承認）

総 評

（米田 真理子 ガバナーノミニー）

会長部門に出席させていただき大変有意義な勉強をさせていただきました。地区大会で正式にガバナーノミニーに選任いただいてからお蔭様で準備のほうは順調に進んでおります。

7月1日から ガバナーエレクトとして主催させていただく会議を村上ガバナーエレクト様のご了承を得て別添にてご案内させていただきました。取り敢えずは日時と会場のみのご案内で最低1ヶ月前までには詳細日時とプログラムを関係皆様にご案内させていただきます。各クラブ様の行事ならびにIM等の日程との重複を避けるため地区協議会で早々に発表させていただきました。会長エレクトの皆様には2010-2011年度会長予定の皆様は何卒よろしく御伝達をお願い申し上げます。

7月1日からガバナーエレクトとして本日ご出席の会長になられる皆様には何かと大変お世話になります。よろしくようお願い申し上げます。皆様の益々のご活躍を心より祈念申し上げます。

（坂口 富茂 次期ガバナー補佐）

私は6年前に会長をさせて頂きました。何かやりたいものがなければ、アッという間に終わってしまいます。小島パストガバナーのお話でも、「やりたいようにやればいい。」と言われましたので、皆さんも堅苦しく考えずに、やりたいことを決めて実行して下さい。

“奉仕”と“サービス”は違うということを、皆さんも聞かれたことがあるかと思います。西洋の魂と日本の魂とは違うし、簡単には訳せないのです。いくら解釈しようとしても出来ません。シェルドンの提唱した“service”は“奉仕”という言葉では片付けられませんので、そのあたりも考えていかなければならないと思います。

（山田 義夫 次期ガバナー補佐）

私どもガバナー補佐の役割は、各クラブの皆様と地区が活性化のために、いかにコミュニケーションを図って情報をお伝えしていくかということです。そのために全力を尽くしたいと思っています。『賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ。』はビスマルクの言葉ですが、あえて愚者として一言申し上げます。私は2003-2004年度に会長をさせて頂いて改めてロータリーが好きになりました。ロータリーで人間として大きく育てて頂いたと感謝しています。ロータリーで辛いことや苦しいことは殆どありませんでした。仕事を持った職業人としては辛いことや苦しいことはたくさんあります。ロータリーの例会に行きますと、そのような気持ちが癒されて元気を頂いて職場に帰ることができます。次年度に向けて皆様方と一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。



部門別協議会

幹事部門

カウンセラー・アドバイザー

月山 和男 パストガバナー
 中村 幸吉 パストガバナー
 上野山英樹 情報・規定アドバイザー

ガバナー補佐・委員長

沖殿 正博 IM2組ガバナー補佐
 小西喜代一 IM6組ガバナー補佐
 西尾 幸祐 情報・規定委員長

SAA :

市木栄之助・大川 敏彦

進行 :

津村 寛司



挨拶

(パストガバナー 月山 和男)



私が幹事をやりましたのは33年前のことです。会長は25年前、ガバナーは23年前になります。ロータリーは卒業もなければ定年退職もありません。いつまでも勉強です。また随分と私の時代から変革してきました。私の当時、DLP、CLPやガバナー補佐という制度もありませんでした。クラブ数は47でしたが会員数は3,000名でした。

私の当時とは状況も変わってきていますので、私がお説明する中で間違いがございましたらカウンセラー、アドバイザーの皆様にご訂正して頂けると幸いです。本日はお忙しい中、ロータリーのために時間をとって下さりまして心から感謝申し上げます。

挨拶

(パストガバナー 中村 幸吉)

私が幹事をやりました時、月山パストガバナーの講義を受けました。「クラブの幹事のあり方については、月山パストガバナーに聞け。」と言われたくらい文章化されており、私はそれによって育てられました。

時代の変遷につれて変化があるのは当然ですが、基本的には役職の役目というのは変わるものではありません。事務的な処理は当然、時代の変遷につれて変わりますが、幹事の心得という点では、まず月山パストガバナーのお話に耳を傾けて頂きたい。幹事はいろんな分野のことを知っていなければなりません。次年度のテーマがガバナーの方針も頭の中に入れて頂いて応用して頂きたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

クラブ幹事の心得

(パストガバナー 月山 和男)

まず皆様方の年度のRI会長のお名前をご存知の方、手を挙げて下さい。ガバナーのお名前も当然、覚えておいて下さい。次にRIのテーマ、また村上ガバナーエレクトのテーマも幹事さんは片時も忘れてはいけないと思います。それに沿って各クラブの運営を行って頂きたいと思います。次年度のRI会長は、「ロータリーはトップダウンではなくて、皆様方の1つひとつのクラブの活躍によってロータリーは発展します。」とおっしゃっています。

2回目の幹事をやられる方、拳手お願いします。随分おられますね。以前は他の理事とかは1年交代となっていました。幹事だけは年限が決まられていませんでした。幹事と会長は常にクラブのリーダーシップを担っていくという重大な責務を負っていますから、昔は第1回目のPETSの時にも次期会長・次期幹事セミナーというものを一緒に受けさせられました。第2回目のPETSも同様でした。さらにさかのぼりますと1泊2日でみっちり絞られたことを覚えています。

本日、手続要覧をお持ちの方、手を挙げて下さい。次にクラブの定款・細則をお持ちの方、手を挙げて下さい。次年度、例会場へは手続要覧、定款・細則、幹事要覧は絶えず持って行って下さい。会長はクラブの象徴であって、実務を行うのは幹事です。私はクラブにとっては会長よりも幹事の方が大切な存在だと思っていますので、どうかそのようなつもりで職務を行って下さい。

皆様方のクラブで事務局員がいるところ、手を挙げて下さい。はい、いないクラブはありませんね。私の時代には、事務局員のないクラブや、クラブ事務所のないクラブがありました。そのようなクラブは今ほど煩雑な用件はなかったかもしれませんが、幹事の自宅が事務所で、幹事が全てを行っていました。

これから話を進めますが、それらは全て事務局員任せになっていないか懸念しています。仮に大切な事項を事務局員に任せて、それで失敗して責任問題になった時に、それは全て幹事の責任となりますので、書類等にも必ず目を通して下さい。ですから幹事を1年間やればロータリー歴10年に匹敵します。“ロータリーとは人から依頼されたことは引き受けなければならない”という鉄則があると思います。皆様方もせっかくお引き受けされたわけですから、この1年間ロータリーのために時間を捧げて頂きたいと思います。

クラブ幹事の責務と役割についてですが、(イ) 会員記録を維持する、ということで会員名簿を前年度幹事から引き継がれると思いますので、訂正があれば直して下さい。(ロ) 出席記録と報告、で例会の出席者数を毎月最終例会の後15日までに地区ガバナーに報告しなければなりま

せん。では出席会員とはどういう会員を指すかということですが、例会を用事があるために途中で退出する会員を出席と認めているクラブは手を挙げて下さい。はい、ありがとうございます。本来は例会時間の60パーセント、1時間の例会でしたら40分以上出席していないと出席とはなりません。同じことがメーキャップに来られた方にも言えます。最近は随分と出席の条件が多くなり、例えばクラブの理事会が承認した奉仕活動も認められるようになりました。その条件として少なくとも例会時間の1時間以上でなければ認めるべきではないのかなと、私は思っています。出席率の算定方法はご存知ですか。分母は“出席義務者会員数－出席規定免除会員数－名誉会員”です。分子は“出席した会員＋メーキャップした会員＋出席を認められている会員”です。(ハ) 諸会合の通知、まず理事会ですがその招集は必ず幹事が通知を出すことになっています。またいろんな諸会合の通知を出す必要がありますのでよろしくお願いします。(ニ) 議事録の作成。(ホ) RIに対する報告並びにガバナー事務所に対する報告、でRIに対することで1番必要なことは半期報告です。また一緒に人頭分担金の請求書が来ます。6月末に退会される人もいますので、そのあたりもチェックして下さい。また12月末までに次期の会長、幹事が決まると思っています。RIの公式名簿に記載してもらうために、RIへ報告する必要があります。公式名簿には世界のクラブ名・会長名・幹事名・場所・例会場・例会時間が書かれています。これは必ず幹事に1部、無料で送ってきます。これは会員が外国でのメーキャップする所の相談があった時に活用して頂くものです。別紙で“主要報告書並びに送金先一覧表”をお配りしていますので、会員異動報告、変更届、国際大会信任表証明書等、重要なものがありますのでそれぞれ確認して下さい。皆様方の年度の人頭分担金は24.5ドルを7月と1月に送ることになります。本年度は24ドルです。皆様方の次の年度は25ドルで、それで一旦見直そうということになっています。また3年に1回、規定審議会が行われますが、その開催費用として7月1日に1人当たり1ドルを送ることになっています。したがってこの7月1日には25.5ドルが必要になります。地区資金等のクラブ分担金は、ただ今会長部門で協議して頂いており、承認されなければ徴収出来ません。ロータリー財団への寄付については、種類によって送り先、口座番号、口座人が変わりますので十分ご注意下さい。米山記念奨学会につきましては、任意ですが米山記念館の維持のために1人当たり100円程度の送金をお願いします。

あくまでも幹事は“クラブの要”と言われており、同時にクラブの運命を左右すると言っても過言ではありませんので、そのことは是非、肝に銘じておいて頂きたいと思えます。カレンダーに自分の予定表を作って下さい。皆様方の年度に入るまでには必ずクラブ協議会ないしは新旧合同理事会を開催して頂き、7月からすぐにそれぞれの役割を担えるようにしておいて下さい。



クラブ幹事とは（その魅力とやりがい）

（パストガバナー 中村 幸吉）

次年度のテーマは『ロータリーの未来は、あなたの手の中に』と、ロータリーはクラブの自主性で発展させるものだという事実に良いテーマだと思います。しかし「そう言っておきながら今年の国際協議会ではテーマ発表の翌日、ビル・ゲイツ財団の1億ドルを強制的に徴収するとは何事だ。」と村上ガバナーエレクトからハガキを頂戴しましたが、今日は若干その矛先が和やかになっておりました。皆様方にあまりキツイことを言ってもまずいという判断かと思いますが、私は席に座っていてイライラしました。もう少し私にくれたハガキのようにキツイことを言って頂いても、良かったのではないかと思います。それはクラブ幹事たるもの、そのような気持ち、反骨精神が非常に大切です。

幹事にはクラブのあらゆる情報が入ってきます。情報の交差点と言われるかもしれませんが、そのことを十分認識して下さい。次に、“でしゃばり”と言われても結構ですから、クラブで起こったあらゆることに首を突っ込んで下さい。また最低、週に2回はクラブ事務所に顔を出して下さい。クラブの会合に出席した時は全て議事のメモを取って下さい。これは必ず役に立ちます。クラブの対外的な折衝もありますが、幹事が表に立たない場合でも必ず関与して下さい。そして手続要覧、幹事要覧は熟読して下さい。クラブ細則は案外目を通さないものです。クラブ特有の決め事が後半に出てきますのでよく読んでおいて下さい。クラブにはいろんな書類がきますので、幹事から本人に手渡して下さい。最後に、私は会長よりは幹事の方が面白いと思いますので、どうか頑張ってください。

クラブ幹事とは（その魅力とやりがい）

（次期情報・規定アドバイザー 上野山 英樹）

私はクラブ幹事を1回、そして地区の代表幹事を1回、本年度はクラブ創立50周年の実行委員会幹事と3つの幹事をさせて頂きました。本当に幹事にはいろんな話が入ってきますから、非常に面白い、やりがいのある役職だと思います。会長には副会長という代役がいますが、幹事にはいません。クラブによっては副幹事がいるところもありますが、役員ではありません。幹事はクラブにとって中心的な存在です。私が皆様方をお願いしたいことは、是非とも健康であって頂いて、そしてクラブと会長を支えて頂きたいと思います。

最近のロータリーについて

（次期情報・規定委員長 西尾 幸祐）

手続要覧をお持ちの方はご覧下さい。第7部には『国際ロータリー定款』、『国際ロータリー細則』、『標準ロータリー・クラブ定款』があります。この3つに関して変更のある場合は、来年の4月に開催される規定審議会で賛否をとって変更することになります。この第7部については、全世界のロータリークラブは絶対に守らなければなりません。例えば出席に関してですが、『ロータリー・クラブ定款 第9条 第5節』について、2007年にまた変更になりましたが、病気などにより理事会で出席免除を認められている会員については、出席率を計算する段階では欠席になります。クラブによっては、そのようにされていないところがあるので守って下さい。出席率は幹事の責任で報告して頂くことになります。2010年の規定審議会に提出される案件については、こちらで整理して皆様案内しますので、アンケートの形で賛否を伺う予定にしています。皆様の年度では実際は変更ないですが、次の年度には変更になります。どこが変更になっ

たか解らないと困りますので、皆様も現在の定款・細則を熟読しておいて下さい。ご質問がある方は質疑応答の時間をとりますのでよろしくお願いします。

質疑応答

クラブの例会変更についてですが、本来決まっている例会日の前後1週間を越えて例会を変更することは出来ませんので、理解しておいて下さい。そのあたりも先ほど言いました手続要覧の第7部に載っていますので必ず目を通しておいて下さい。また基本的に細則の変更は年次総会でなくても例会で出来ますので、そのあたりの判断も幹事の仕事になります。事務局員さんがされている仕事は、本来は幹事が行う仕事です。幹事の仕事があまりにも多いので事務局を使うわけです。ですから他の人が事務局を使うのは、本来はおかしいわけです。幹事に言って、幹事が事務局に指示して行うのが本来の形です。

次年度のロータリー情報・規定委員会の事業計画に“2010年度規定審議会案件の整理検討”というのがあります。私が感じていることですが、RIは現在社会奉仕重視型で“ロータリーは社会奉仕団体”と定義しています。そうなってきましたと、“社会奉仕をするのであれば毎週例会をしなくてもいいのではないか”ということで、来年の規定審議会で“2週間に1回”になるような案件が通る可能性もあります。また地区のIT委員会と協力して、地区のHPにロータリー情報の掲載をしようと思っています。多く質問のある事柄に対してその回答を書こうと考えています。CLPについてですが、最近はあまり聞かないように思います。CLPとはクラブを活性化することだと受け取って頂き、それぞれのクラブでお考え下さい。そしてクラブ細則できっちり決めて頂くことになります。ガバナー補佐制度や地区委員会構成に関して、検討するように村上ガバナーエレクトより依頼がありますので検討していきます。CLPをとられているクラブが、例えば地区協議会で部門別に担当委員会がないようなクラブも当然あるかと思っています。そのような時はガバナー事務所や私まで問い合わせして下さい。当委員会はRI、地区、各クラブがそれぞれ決めていることの情報をやり取りする委員会です。例えば市町村合併によって所在地域の変更があった場合にどうすればよいのか。所在地域はロータリークラブの定款の方になります。定款の変更はRI理事会の承認を得る必要があります。当然、承認はされますがRIに提出する書類があり、それを幹事から提出して頂くことになります。どのような質問でも結構ですので、それに対してお返事させて頂きます。幹事さんのお役に立つ委員会と思って頂ければと思います。

(西尾次期情報・規定委員長)

規定審議会とは何かということをお話していきたいと思います。ロータリーの唯一の立法機関です。これは最初からあったわけではありません。ではその間、大切な決め事はどうしたのかと言いますと、全て国際大会で決議されていきました。1971年に初めて独立した立法機関として規定審議会ができました。RI理事会以上の権限を持つ立法機関です。手続要覧の黄色い紙のページで国際ロータリー定款、国際ロータリー細則、ロータリー財団細則、標準クラブ定款の4つは全て規定審議会の決議を得なければ改正出来ないことになっています。決議23-34をなぜRI理事会は単独で廃棄を決めたのか、ということですが、実は決議という言葉が問題です。先ほど申し上げた4つは全て法として制定されたものです。決議23-34は決議だから、当然RI理事会で変更する権利があるだろうということです。その詳しい話は致しませんが、規定審議会の持つ意味を、皆様方にもご理解を頂ければと思います。(上野山次期情報・規定アドバイザー)

総 評

（沖殿 正博 次期ガバナー補佐）

本日は幹事についてのお話をしっかりと聞いて頂けたものと思います。月山パストガバナーにはロータリーの原理・原則・基本をきっちりと話して下さいまして、大変わかりやすかったと思います。また中村パストガバナーのお話を聞きながら、6年前に私も幹事をさせて頂きましたが今思いますと、もうあと一歩二歩踏み込んだところが足らなかったように感じています。どうか皆様方にはさらに一歩二歩と踏み出して頂いて、会長さんと情報交換して頂きながら務めて頂ければ、スムーズな運営が出来るとと思います。

（小西 喜代一 次期ガバナー補佐）

私は6年前に幹事をしましたが、私も事務局員にいろいろ聞きながら進めて行った記憶があります。以前はPETSには会長と幹事が出席していたと聞いて、なるほどそれならば次年度のテーマやキーワードは全部わかると思えました。幹事さんにも資料等は前もって渡されているかと思いますが、おそらく今日、初めて生の言葉で次年度の方針を聞かれたと思います。各クラブによってやり方は違うと思いますが、事務局員に頼りきるのではなくて最低限、手続要覧は見て下さい。もう一度、原点に戻って手続要覧に沿って運営して頂きたいと思います。

（月山和男 パストガバナー）

私も規定審議会の代議員として行かせて頂いたことがあります。日本の代議員は上品でした。席も指定されていません。発展途上国の代議員は非常に団結心が強くて、時には従来の考え方を覆すような意見が出てきます。また開場するとすぐにマイクの近くに集まってその場所を占拠するような感じでした。その時に私は、“ロータリーは昔のロータリーから変わるだろうな”と思えました。案の上、その当時から比べますと随分と変わりました。私と同期の方の中には、今のロータリーには興味がないと言われる方もおります。皆様方のクラブではいかがでしょうか。退会防止委員会がいかに頑張っても、ロータリーの本質を変えることが出来なければ、防ぐのは難しいかもしれません。今度、中村パストガバナーも規定審議会に行かれますが、頑張ってくださいと思います。

たとえ規定審議会で可決されたものであっても、国際大会に再びかけられまして、そこで反対が多ければ採用されないことになっています。先ほども話がありましたが、皆様方の次の年度の幹事さんがクラブの定款と細則を作り直す必要があります。

（中村幸吉 パストガバナー）

私は過去3回、規定審議会に行っています。1回目は何もわからずに行き帰ってきたような次第です。2回目の時には地区を代表する1票の重さを感じていましたので、一通り勉強しました。その時に感じたことは、クラブや地区としての案件を背負って行けば責任感と興味が湧いてくるのではないかと思います。そして初めて行った時の案件を全て調べ直しました。私は理系の人間ですから統計処理をよくやります。1つの事柄には数学的に集中したところが必ずあります。規定審議会について統計処理で探しますと、決議案で出されたもので決議として通った案件については、その次の規定審議会に制定案として出す確立は80パーセント以上で通っていることに気がつきました。当時、定款・細則を見ますと、辞めることはクラブの自由ですが、合併に

つについては何ら規約がありませんでした。私が調べたところ前年度、クラブの合併を許可するという決議案は通っていましたので、これはしめたと思いました。当時の当地区ではクラブの少人数化が始まっていたと思います。いろいろな対応があると思いますが、一番楽な方法は合併です。これを地区に早速図ってみましたところ案件を作れということになり、上野山さんに作って頂きました。この案件を持って行ったところ、500 数名の内の 80 パーセント位の票を得られました。

また、気が付いたところ、クラブ定款の中に四大奉仕というロータリーの綱領に相当する条文はありませんでした。それを理事が見つかり、一緒になって提案することになりました。それにはいろんな情報を集めて、いろんな方々を説得しました。たまたま私はその年度の代表議員団の世話役でしたので、これを絶対に通さないと決議 23-34 は無になってしまうと思い、この案件を担いで行ったところこれも首尾よく通りました。今度、当地区から2件の制定案を出すことにしています。国際ロータリークラブ定款に関係のある条文変更の件です。5月には全部の案件が決まり、10月までにはその案件の日本語が我々の手元に届きます。それを各クラブの幹事さん宛てに配布しますので、必ず〇×を付けて頂き我々の方で集計し、それを背景にして賛否を投票する予定にしています。



部門別協議会

クラブ奉仕部門

(会員増強)

カウンセラー・アドバイザー

成川 守彦 パストガバナー
小林 信夫 アドバイザー

ガバナー補佐・委員長

櫻本 主税 IM7組ガバナー補佐
倉 保雄 会員増強(退会防止)委員長

SAA :

木村 勝次・瀬戸 英男

進行 :

小林 信夫 柴田 隆至



挨拶

(パストガバナー 成川 守彦)

皆さん、なぜ地区協議会に出席するのですか？地区協議会の目的は次に掲げた各項のために、ロータリークラブ指導者に必要とされる技術、知識および動機付け能力を開発することです。＊会員の基盤を保持、増強する。＊地域社会および他国の地域社会のニーズを取り上げた成果に溢れるプロジェクトを実施する。＊プログラムへの参加と資金寄付の両面を通じてロータリー財団を支援する。＊クラブの枠を超えて奉仕できる指導者を育成する。

地区協議会への参加者は、クラブ会長エレクト、次ロータリー年度に指導的役割を果たすように会長エレクトから任命されたロータリークラブ会員です。そして参加者の本日の責務は、A：自由にアイデアを発表すること、B：いずれ役に立つと思われる事項をメモすること、C：協議会の終了まで席を立たないこと、D：委員会委員長に協議会で得た知識を伝えること、E：例会で地区協議会での体験をクラブ会員に発表すること、F：クラブ会報編集者に地区協議会に関する情報を提供すること、です。

皆様方の就任前の責務ですが、①委員会の手引きを読む、②地区協議会に出席する、③委員会の目的に関する情報を含むクラブの細則に目を通す、④職業的技能や個人的な関心に基づいて委

員会委員を人選して集め次年度に向けて準備を整えるよう会長エレクトと協力する、⑤「効果的なロータリークラブとなるための活動計画の指標」を活用し会長エレクトと共にクラブの長期目標と年次目標を見直し策定する、⑥委員会が年次目標を達成するための行動計画を作成する、以上です。

次に就任期間中の責務は、①定期的に委員会会合や活動を計画し実施する、②各委員が引き受けた責務が責任を持って果たされるよう確認する、③委員会の活動や進展について、クラブ会長・理事会・クラブ全体に報告する、以上よろしくお願いします。

会員増強の支援源ですが、①職業分類調査、②クラブ会報、③クラブ概要、④ガバナー月信、⑤「新会員の推薦はいかにするか」、⑥「新会員のためのオリエンテーション」、⑦「ロータリーの基本知識」、⑧「ロータリーのいろは」、⑨「ロータリーとは」、といったものがあります。どうぞよろしくお願い致します。

挨拶

(次期会員増強アドバイザー 小林 信夫)

いよいよ7月より村上年度(2009~2010)がスタートされようと致しております。

昨秋よりの米国サブプライムローン問題に端を発した世界的金融不安が世界各国に飛び火し急激で大幅な景気の落ち込みを来しております。皆様の地域、社会の方はいかがですか。

不確実性の高い時代ではありますが、新しい業種、あまり景気動向に影響のない業種、女性の会員の勧誘など積極的に会員獲得を進め、ロータリークラブの活性化を進めてまいります。現状報告いたします。(2009年4月末)

1. 日本のロータリークラブ(第1~第4ゾーン)

クラブ数 2,318クラブ

会員数 95,095名 内女性 3,934名

1クラブ平均 41名

1. 国際ロータリー第2640地区

クラブ数 73クラブ

会員数 2,342名 内女性 138名

1クラブ平均 32名

内訳

19名以下 … 15クラブ 20名台 …… 25クラブ

30名台 …… 14クラブ 40名台 …… 8クラブ

50名台 …… 6クラブ 60名台 …… 1クラブ(海南東RC)

70名台 …… 2クラブ(堺RC・和歌山RC)

80名台 …… 1クラブ(田辺RC) 90名台 …… 1クラブ(和歌山南RC)

1. 会員の推移

2000年6月末 3,497名 内女性 123名

2009年6月末 2,341名 内女性 138名

約10年間で、1,155名減少をきたしております。

尚、女性会員は15名増加であります。

1. 退会（脱会）防止に関しましては

2008年11月25日付にて、藤井寺ロータリークラブ(会員12名)が脱会なされました。

主な原因は

- ① 地元会員と他所により来た会員の対立
- ② 年齢的な対立
- ③ その他・・・

(元会員より聞き取り)

2009年6月末にて、堺泉北ロータリークラブ(会員10名)が脱会なされます。

原因は

- ① 会員数が少なくなり休会者が多い
- ② 年齢が70歳以上
- ③ 長年に渡り会員増強がなかった

(会長より聞き取り)

全国会員増強セミナーのセッションにおいて主な発言の参考例です。

1. ロータリークラブのブランドアップ、品格を重んじる

1. 死亡、転勤、退会を考えると、クラブ存続、ロータリーの発展には会員増強が必須条件である

1. 例会日を少なくしたり、1業種1名の大原則を緩める等規定緩和が逆効果になっている

1. 安易な言葉で入会を勧めるのではなくロータリーの真の良さを伝える

1. オリエンテーションが大事

1. ロータリーは人間形成のできる所である

1. ロータリーは一般社会でなされている奉仕活動ではなく、ロータリーらしい独自の奉仕活動をすべきである

その他、多数の意見がありました。

次年度活動方針

(次期会員増強委員長 倉 保雄)

ロータリークラブは倫理運動と言われますが、基本は個人になると思います。ですから個人というものは大事で、ロータリーが個人のより高い道德の獲得にあるとすれば、友を求めるのは当然です。会員増強は1番の基本で大切なことだと考えます。ロータリーも組織ですから、ついつい人数が減ると運営的な話になりますが、そのような概念で増強するという話になりますと本来ロータリーの精神面からは少し離れるのではないかと思います。増強の考えの中に、友を求めるという気持ちを持って、そして親睦を深めていくことで退会防止にも繋がるはずで、ぜひ各クラブにおいて、会員増強のあり方について協議して考えてみて下さい。そして入会希望者に対しては、十分にロータリーの目的等を理解して頂けるように時間をかけてお話して下さい。また入会后、さほどアプローチもないような状況では楽しくないと思いますし、退会されると思います。ですから出来るだけ親しくお付き合いし欲しいと考えています。そして女性にも入会を積極的に勧めて頂き、女性会員のおられるクラブでは比率を高めて下さい。私よりも皆様の方が日頃よりご努力されていることと存じますが、是非とも次期は、今期に比べて各クラブとも実増1名の達成に向けてご協力をお願い致します。

ワークショップ

(パストガバナー 成川 守彦)

<成川パストガバナー>

ワークショップ (Workshop) ですが、皆様方はあまり慣れていないと思います。“Shop”とは製品を作っており、“Store”とは品物を売っているだけです。ワークショップとは作業所、工作所のこと、メンバー全員が参加して作品を作り出すことです。そのために目標を決めて、その達成のために参加者全員が有効な議論を行い、一定時間内にある成果を出すという手順で行います。全ての参加者の知識と経験に、リーダーの経験的なアドバイスをプラスして展開していきます。効果的な目標は①全員で決定したものの、②測定可能でありこと、③取り組み甲斐があること、④達成可能であること、⑤時間が定められていること、です。

73クラブ中70クラブの皆様方からアンケートを頂きました。クラブ会員数別に分類して1番多いのは21名~30名が23クラブです。次に11名~20名が17クラブ、31名~40名が13クラブとなっています。男女会員の比率は、女性会員5.6パーセントです。会員平均年齢は高い順に堺西・堺南・有田・有田南・堺で、低い順では有田2000・御坊東・藤井寺しゅら・太子・岩出となっています。会員の在籍年数で1番多いのは5~10年で、約半分の方がそうです。続いて1~3年で26パーセント、3~5年の方は17パーセントで、ほとんどの方は10年以内ということになります。

アンケートを基に、皆さんのクラブの現在の会員状況について、どのように評価されているかご意見を頂戴したいと思います。まず昨年度6月末と現在との差が1番大きいのは-6で堺西RCさんです。-5のクラブは有田2000RC・和泉南RC・貝塚RCさんとなっています。

<堺西RC>

当クラブはお歳を召した会員がとて多いクラブです。昨今の経済状況もあり、比較的年齢の若い方が昨年4名退会されました。

<有田2000RC>

退会される方は60歳以上の方が多く、60歳を過ぎると自由になりたいというお考えのようです。会長経験者は8名中3名が、幹事経験者は8名中2名が退会されています。

<和泉南RC>

新しく入会された会員さんの慰留を続けてきましたが、出席率も悪いために、出席率向上のためにも長らく休まれている会員さんを切らせて頂きました。

<貝塚RC>

-5名中2名は、歩行困難で皆さんに迷惑をかけるということなどの身体的な理由で退会されました。先日30歳代前半の女性会員が入会され頑張っています。

<成川パストガバナー>

次に5年前の6月末と現在との差ですが、-23名が和歌山北RCさん、岸和田RCさんが-19名、貝塚RCさん、粉河RCさんが-16名、有田南RCさんが-13名となっています。

<和歌山北RC>

5年前は70名でしたが現在47名です。昨年から2名減りましたが、1人は弁護士で日弁連副会長に就任されるということで、ほとんど東京での生活になりますので就任中だけ退会されています。もう1人の方は健康上の理由で退会されましたが、健康になれば再入会して頂くことになっています。したがって将来的には心配していません。

<岸和田RC>

以前は120数名おりましたが、現在は50名弱となっています。当クラブは古いクラブで、高齢化が進んでいます。また金融・保険関係の会社の支店長さんも入られていましたが、会社の方針で辞められました。いろんな方策を試みましたが、なかなか入会するまでには至っておりません。

<粉河RC>

あることがあって、若い会員が退会されました。次期は2～3名を増強したいと考えています。

<有田南RC>

13名の退会者のうち、半数ほどはお亡くなりになりました。残りは比較的若い方が退会されました。

<成川パストガバナー>

クラブの会員増強において、成果の上がっている面と難しい面についてご意見を頂戴したいと思えます。

<御坊RC>

私は女性会員ですが、協力を勧められて入会させて頂きました。大変温かく迎えられてその中で勉強させて頂いています。現況に合った会員増強の方策を考えていかなければ、今後に結びついていけないと思えます。

<岸和田東RC>

例会や親睦活動を充実させて退会防止にも努めています。昨年度もいくつかのグループに分けて、そのグループ毎に候補者を挙げて皆で協力し増強に努力していますが、なかなか難しいのが現実です。ロータリークラブの活動や魅力等をしっかりと広報することも重要かと考えますので、地区でもよろしくお願ひします。

<高師浜RC>

ある時、開き直って“去る者は去れ”というところまでいきましたが、その後はどういう訳か細々ながら現状を維持しています。

<和歌山東RC>

地域にはいろいろな団体があって、候補となる方はそういった団体から既にお誘いがあると思えます。昨今の経済状況もあって年会費の高いものは敬遠されますし、また団体のステータスが低下すると切られる原因になると思えます。当クラブではJCの現役会員やOBに入会して頂いて成果は上がっていますが、今後はかなり厳しいかと思われまます。

<和歌山城南RC>

古い会員さんがロータリーに熱心すぎるために新入会員がついていけない、といったところを感じる場合があります。台湾には日本語だけを使っているクラブがあります。また食事も希望者のみにしていますから、経費も安くなると思えます。英語だけを使うクラブを設立しても良いのではないのでしょうか。

<堺フェニックスRC>

当クラブでこの2年間増えているメンバーは、クラブの行事に参加してくれた方です。特にタイのWCSの事業に同行された方を、誘って入会して頂きました。

＜河内長野RC＞

当ロータリークラブは毎年違った事業を行っていますので、勧誘の時、ロータリークラブの説明をやりにくいことがあります。ガバナーや地区から、“良い事業は継続するように”という指導をして頂ければ一般市民には理解して頂き、また候補者にも説明しやすいかと思えます。

クラブで活用し成果のあった方策の中で、次期会長と分かち合いたいと思われるものについて、お聞きしたいと思えます。

＜泉大津RC＞

次年度の会長の方針で会員増強に関連するものとしては、会員になって頂けるような方を例会に招待して、ロータリーをPRしようということになっています。

＜岸和田北RC＞

会員増強について会長とよく話し合いをして、まず会長が先頭に立つて行う必要があると思えます。

＜堺泉ヶ丘RC＞

ロータリー歴的に中間の方が多く退会しましたので、会長経験者と入会歴の浅い方ばかりになってきています。したがってあまり経験のない方が幹事や会長をしなくてはならない状況です。クラブ全体で今一度ロータリーについて勉強し、また新入会員さんにも教育していきたいと思えます。

＜堺清陵RC＞

今年度、現役会員が2名亡くなって、女性会員が3名中2名が退会されました。創立20周年の時に退会された方や物故会員の奥様を招待したり、また2世の方を勧誘して増強に務めています。

＜成川パストガバナー＞

新入会員のための入会式をどのように行っているかですが、①紹介（推薦者）、②贈呈（徽章・会員証・手続要覧・クラブ概況・ロータリー綱領・「四つのテスト」・職業宣言・花束）③自己紹介、などです。また夫人同伴や歓迎会を行っているクラブも多くあります。

新会員のための指導顧問を採用しているクラブは37パーセントです。主に推薦者・R情報委員長・会員増強委員長・パスト会長・パスト幹事・四大奉仕委員長などに任せている場合が多いと思えます。

例会プログラムですが、クラブが現在実施しているプロジェクトや活動と関連づけると効果的です。また年間予定表を効果的に使い、最新のロータリー情報を会員に伝えるプログラムを含めて下さい。時間通りに開始し、終了することも重要ですし、予備の計画を準備しておくことも必要です。

何がロータリアンを意欲的にするかということですが、“他のロータリアンとの親睦活動”、“地元や世界社会への奉仕活動”、“他の専門職業人とのネットワーク作り”、“仲間や地域社会から努力を認められること”などが挙げられます。

ロータリアンであることの意義について、二宮尊徳先生は「あらゆる荒蕪は、人間の心の荒蕪から起こる。」、心を荒れ放題にしないためには心に田んぼ、つまり“心田”を耕さなければならない、とおっしゃっています。ロータリーという人生道場で“心田”を耕し、修業することにより、自分が人間的に成長し、より志の高い人間になると思えます。

『本当に裕福な人とはなにか』、知りたいのならば、どれだけのお金を持っているのかではな

く、どれだけの友人を持っているのかを考えるべきです。この定義によればロータリアンは世界中で最も裕福な人々だと思えます。32,000のRCに所属する120万人の友人が世界中に存在していることになります。ロータリーの良さを知らないで退会してしまうのは本当に残念です。どうか皆様方のご尽力をよろしくお願い致します。

ではこれから、8つのグループに分かれていますので、事例研究について話をまとめて頂いて、後ほどグループ毎に発表して下さい。

【会員増強・退会防止委員会の事例研究】

サン・ビレッジ・ロータリー・クラブは、人口40,000人の町に所在している。サン・ビレッジでは産業や商業が経済の中核をなしており、周りは農場に囲まれている。サン・ビレッジには、同町と近隣地域のための二つの高校と小さなコミュニティ・カレッジがある。近年、いくつかの大企業が事務所を構えたため、若い社会人が地域に集まってくるようになった。

3年前、同クラブには47名の会員がいた。その後、会員の2名が死去し、他にも6名がクラブを退会した。クラブに5名の新会員が加わったものの、そのうちの2名が退会した。現在の会員数は、42名である。会員の平均年齢は62歳で、その大半は15年以上の会員歴を持つ。多くの会員はクラブの業績と奉仕活動を誇りに感じているが、同時に、会員数の減少が今後も続き、サン・ビレッジの地域社会へ十分に奉仕できなくなるのではないかと懸念している。

『このクラブの強みと弱みは何でしょうか？』

<2番テーブル>

- ・新事務所の増大が長所で、今後企業が増えてくると思えます。短所はもともと古い会員の高齢化です。
- ・このクラブの長所は、会員がクラブの業績と奉仕活動を誇りに感じているということだと思えます。
- ・4万人の人口に対してクラブが1つしかないのも長所だと思えます。短所は会員への推薦が少ないことだと思えます。

『このクラブにとって入会后3年以内の新会員が退会するのと、古くからの会員が退会するのではどちらが大きな問題になっていますか？』

- ・会員の増強は若い人を入れていくことが重要だと思えます。

『クラブは地域社会で新会員となる人材をどのように探せばよいですか？』

<6番テーブル>

- ・新しい企業が多く出来てきているということで、増強しやすい環境にあると思えます。特に広報に力を入れてPRすればよいと思えます。

『クラブの会員の退会防止策を検討し、他クラブで成功した方策について学ぶには誰と協力すれば良いですか？』

<7番テーブル>

- ・楽しくなければクラブではないということで、例えばお酒を飲みながらざっくばらんに話をする機会があればよいと思えます。またいろんな同好会を作って親睦を図れば良いと考えます。協力するのはパストガバナー、ガバナー補佐、増強委員長、アドバイザーなどです。

『クラブはどのようにすれば新会員を引き付けることができますか？』

- ・ 奉仕活動は重要だと思います。

『クラブのプロジェクトや活動に関する基本的な情報をどのように社会に提供することができますか？』

<1番テーブル>

- ・ 中学校に職業体験の講演会を開いて、その時にロータリーについての魅力的な話をする。また交換留学生のご両親や回りの方々をお呼びして例会で卓話をして頂いたり、その方々にアプローチしてはどうかと考えます。

<成川パストガバナー>

最近ではRIにおけるロータリーの方向が大きく変わってきました。RIでは奉仕団体とはっきり言っていますが、日本ではそうではありません。先ほども言いましたが“人生の道場”、“職業倫理を大切にすること”ということで、そこに隔たりがあります。ロータリーに入会して多くの皆さんと知り合い、経験することで勉強し、人間的にも成長することがロータリーであると思います。

総 評

(樫本 主税 次期ガバナー補佐)

本日は楽しく、また実り多い時間だったと思います。現状の増強の難しさも拝聴させて頂きましたが、明るい参考になるような事例もありました。増強委員長をされる方は、経験豊富な方が多いのではと思いますので、次年度に向けていろいろ構想を練っていることと存じます。本日の協議会を参考にして頂き、皆様方のご活躍を心から期待しております。



部門別協議会

クラブ奉仕部門

(雑誌広報・IT)

カウンセラー・アドバイザー

平岡正已 パストガバナー
寺下 卓 アドバイザー

ガバナー補佐・委員長

川村 克人 IM2組ガバナー補佐
川村真吾 雑誌・広報委員長
大村 充 IT委員長

SAA :

笹野 吉信・木下 幾雄

進行 :

司会 :

寺下 卓 廣本 喜亮



挨拶

(パストガバナー 平岡 正已)

本日は限られた時間ですが、実りのある協議会にして頂きたいと思います。雑誌・広報、ITはクラブ奉仕部門になりますが、新しい手続要覧では広報部門は非常に重視されています。その意味においても本日は独立して部門を開催されたことと思います。広報はまずクラブから外に向けて、多くの方々にロータリーの活動を知って頂くことは非常に大切です。それにはクラブでの活動を充実していかなければなりません。クラブ内を活性化させるという意味において、広報は非常に大事だと考えます。皆様方にはご苦勞もおかけすると思いますが重責を担っているということを感じて頂くと同時に、会長さんは皆さんを信頼し重要なポストをお願いしたと思いますので、どうか頑張ってください。

挨拶

(次期ITアドバイザー 寺下 卓)

雑誌・広報委員会とIT委員会は過去、非常に密接に連携しながら活動してきました。本年度、サンケイ関西に連載されました新聞、ラジオ放送での記録についても、IT委員会と連携しています。次年度につきましても、“ロータリーの友”や各クラブの活動紹介につきましても連携を図りながら実施する予定です。ITに関しましては外向き内向きの両面で、ホームページをより多くの方に活用して頂きたいと思っております。また本年度から地区のデータベース化にも取り組んでいます。各クラブへのIT支援につきましてもご支援させていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

次年度活動方針

(次期雑誌・広報委員長 河合真吾)

次期、雑誌・広報委員を仰せつかりました、河合です。7月より、1年間よろしく願いいたします。次期の委員会としての活動計画として、本年関空RCが発案され、我々地区の委員会もご協力させていただいた「ロータリー写真展・夢をかたちに」の展示写真を広く活用させていただこうと考えています。この写真については、今期の地区大会でも会議場前に展示されましたので、ご存じの方もいらっしゃると思います。

本日、皆様に見ていただくために2点を選んで持ってきました。他にも非常に素晴らしい出来栄の写真が22点あり、本日持ってきたものをあわせると24点になります。この写真は、ロータリーの活動内容やそれに携わる方々の表情がわかりやすく表現されており、ロータリーの活動を知っていただくには最適なものとなりました。そこで、この写真の展示に関して、各クラブの皆様のご協力を賜りたいと考えています。例えば、周年事業であるとか会場を使用するの奉仕プロジェクトの際に会場の一角を提供いただき写真展を開催したいと考えております。これは、のちほどの意見交換の場でも皆様へお聞きすることになっておりますので、何卒ご協力のほど、よろしくお願い致します。

その他の活動計画については、「友」誌の購読推進であるとか、地区内クラブの活動紹介であるとかを活動計画を記載しておりますが、特に4の「クラブ雑誌・広報委員長との連携強化」について、お話しをさせていただきます。

私たち、地区委員会の役割・責務は上記の「基本姿勢」にも記載してあるとおり、クラブよりもたらされた情報を内外ともに広く発信し、ロータリーとは何か、ロータリーが何をしているかを知ってもらいロータリーの存在感を高めることです。それには、まず各クラブから情報をいただくことが前提となります。

そして、ここにご出席の皆様はクラブ雑誌・広報またはIT委員長として私たち地区委員会とのパイプ役になっていただきたいと考えています。基本的には、地区内73クラブ全部が年1回は、何らかの奉仕プロジェクトを行っていると思います。そして、成し得たプロジェクトを広く知ってもらうため、また理解していただくために広報活動は、ロータリーとして必要不可欠だと思っています。

例えば、クラブで1つの奉仕プロジェクトが成功した場合そこで「良かったな」とか「成功したな」という達成感を持った時点で終わってないでしょうか？そこで、皆様をお願いします。この成し得た活動を広く広報していただきたいと思っております。そして、各委員長さんによってはPCが苦手であるとか、今回の活動を「ロータリーの友」に投稿したいがよくわからない等の理由で

そこでおやめになっているケースも少なくないと思います。そんな時には、お気軽に私たち地区委員会にご連絡を下さい。どんなことでも構いません。今回、クラブでこのような奉仕プロジェクトを行うが、その後地区ホームページに載せたいがどのようにしたらいいであるとか、「ロータリーの友」に投稿したいが等、何でもお気軽に連絡を下さい。私たち、雑誌・広報地区委員会は広報という分野においてクラブの皆様のサポートをするための責務を担っております。その責務を果たすためには、まずクラブの皆様から情報をいただく必要があります。寄せられた情報をここにおられる委員長様とともに広報という場で色づけしていきたいと考えています。

最後に昨日、今期の「ロータリーの友」委員の山口様より4月に行いました。「友」誌についてのアンケート結果のご連絡がありました。集計結果は、後日皆様に書面にしてお渡ししたいと思いますが、一部寄せられたご意見を紹介します。「無駄である」、「読者は1%」「友誌の購読は、ロータリアンとしての義務とは今まで知らなかった」等、「友」誌に関しての後ろ向きなご意見もございました。皆様もご存じのとおり、ロータリーの友の購読は、会費の納入、出席の義務とともにロータリアンの3大義務の1つとして数えられています。

私たちの役割は、たとえそのようなご意見をいただいても様々な方法を講じながら現状を打破していくことだと思えます。本来なすべき役割をいかに行き、それを活性化していくか？そして、合わせて熟成させていくかという意識を持ち続け、7月より1年間皆様とご一緒に悩みまたは喜び、そして楽しみながら広報活動に取り組んでいきたいと思っています。よろしく願いいたします。



次年度活動方針

(次期 I T 委員長 大村 充)

I T 委員会の委員は基本的には各 I M に 1 名いますので、何かありましたらご近所の委員にご相談下さい。

当委員会の大きな仕事の 1 つにホームページの更なる整備があります。2008-2009 年度の当地区のホームページは、ガバナーメッセージ・月信の訴求力向上を第 1 にリニューアルしました。今期も引き続き、整備を行っていきます。また「フレッシュのための Q & A」ページの設置も考えています。初めてロータリーに触れた方やロータリーに入会しようという方のために、また増強の時に“どのようなことを説明すればよいのか？”という場合にホームページで何か出来ないか、と考えました。情報規定委員会さんに話をもっていまして、簡単なところから取り組んでいます。6 月中頃にまず最初のをホームページに載せますので見て頂いて、ご意見を頂戴し、修正しながら良いものにして継続していきたくと思います。

次に、現在、ガバナー事務所には非常にたくさんの紙媒体による地区のデータがあります。これを検索可能なデータとするべく、電子ファイル化を進めたいと考えています。当地区 G S E 委員会で和歌山大学システム工学部の中川教授の協力を仰ぎまして、同学部の学生に春休み中、アルバイトで 10 日間ほど試験的に作業をして頂きました。今後も夏休みを利用して協力して頂こうと思っています。OCR と言いまして、データとして取り込んで、何かのキーワードで検索出来るようにしたいと思います。

またクラブの I T 化支援も行います。2 年前までは地区を 4 つに分けまして、各クラブの事務局に集まって頂き研修を行っていました。しかしこれには非常に大変な労力を要しました。ですから今後、ご要望のあるクラブへ現在の各クラブの実例や地区 I T 委員会の情報をお持ちして、卓話などの形でお伺いし支援させて頂きたいと思っています。

我々 I T 委員会はホームページに掲載するにしても、その情報がなければ掲載することが出来ません。ですから各クラブで何か事業や行事をされた時には、写真と文章を頂戴出来れば非常に助かりますので、どうかご協力をよろしくお願い致します。

質疑・応答

(次期雑誌・広報委員長 河合 真吾)

『「ロータリーの友」の購読率向上を図るためにどのようにすれば良いか』について、歴代のクラブや地区の雑誌・広報委員長がいろんな試みをされてきましたが、なかなか購読率が上がったという実感が見受けられないように思います。来期は今までと違ったことにトライしたいと考えています。そこで皆さんにもご意見を頂戴したいと思っています。

Q：購読率とは購読している率、もしくは雑誌を読んでいる率のどちらのことをおっしゃっているのでしょうか？（関西国際空港 R C）

A：読んでいるかどうか、ということです。（河合次期雑誌・広報委員長）

Q：例会時に雑誌委員長が自分なりにピックアップしたことを、数分でも紹介してはどうでしょうか。また持ち歩いてもらって、「電車の中とか時間のある時に読んで下さい」といった提案をされるのも良いかと思えます。（関西国際空港 R C）

A：「ロータリーの友」については各クラブの第1例会でご紹介頂いています。地区の友の委員さんから月末までにホームページに“読みどころ”ということで載せていますので、是非ご活用下さい。自分のクラブの記事が掲載されれば、1番興味を持って見て頂けると思いますので、「友」への投稿の方法などもお問合せ下さい。(河合次期雑誌・広報委員長)

「ロータリーの友」をお宅のどこでも良いですから、順番にきっちりと並べて置いて下さい。これは立派なロータリー情報です。各活動月間についても必ず特集が組んでありますので、例えば何か執筆しなければならない時があれば、参考にすることが出来ます。まず形からでも結構です、お勧め致します。(平岡パストガバナー)

<富田林RC>

今後ますます情報化社会となるにつれて「友」は重要な資産だと思います。しかしなかなか興味を持って頂いていないように感じます。次年度は一層努力したいと思います。

<羽曳野RC>

以前に公共施設や銀行等をお願いして「友」を置かせて頂きました。それを再度行おうと考えています。

<海南東RC 寺下次期ITアドバイザー>

海南駅構内にロータリーの図書文庫を設けて頂いており、そこに「友」や読み終えた本なども含めて置いて頂いています。

<和歌山南RC>

当クラブでは第2週目の例会で3～5分間ですが、「友」の記事を紹介しています。出来れば「友」に投稿したり、また地区に関係のある記事が多く載れば、興味を持って頂けると思います。

<岸和田北RC>

昨年11月に“友愛の広場”に、私のケーブタウンのロータリークラブでメーキャップした時の投稿が採用されました。私共のクラブでは第1例会で、「友」に関して記憶に残ったことや感銘を受けたことについての3分間スピーチを順番で行っています。先日、私に順番が回ってきてまして、「11月掲載された私の記事を知っていますか？」と尋ねたところ、半分以上の方は知りませんでした。何か良い方法があれば、お教え頂きたいと思います。

熱心な方は隅から隅まで読まれていて、興味のない方は例会場で受け取るだけといった状況かと思えます。「友」のいろいろなコーナーに投稿して頂くとかかれて、少しでも皆さんが興味を持たれるような活動をお願い致します。

またロータリーの写真展も計画しています。例えば周年事業や会場を使用して奉仕活動をされる場合に、その会場の一角をお借りしてロータリー活動の写真の展示をさせて頂きたいと考えていますので、ご協力よろしくお願い致します。

<大村 充 次期IT委員長>

各クラブで地区のIT委員会に具体的に支援して欲しいようなことや要望がありましたら、お聞かせ頂きたいと思います。

<堺北RC>

地区のホームページのマンスリーレターについてですが、目録から直接最後のページにでもいくことが出来るようにして頂ければありがたいです。

事務局のIT研修についてですが、前年度は皆様方からご要望はありませんでしたので開催しませんでした。そうしたところ、皆様からの活動の報告などの情報は減りました。IT研修は多大な労力や経費も必要ですので悩んでいます。

当クラブの約25パーセントの会員だけしか、インターネットはやっていません。まずパソコンの使う側に立っての支援も行って頂ければと思います。

<有田RC>

当地区のホームページなどITは非常に高いレベルだと思います。しかしレベルが上がれば上がるほど、各クラブの雑誌・広報委員会とのギャップが広がってきているようにも感じます。出来ればまた研修会も開催して頂きたいと思います。

<堺東RC>

当クラブでは最初に業者に頼んで、また会員も参画して立ち上げたホームページを持っています。週報については会員以外の配布はペーパーをやめてネット上で流しています。若い方はネットを十分に活用していますから、ロータリーの情報を発信し、若い方の入会に際してもメリットがあると思います。

ドイツにロータリアンの友達がありますが、彼のクラブの入会動機の3~4割はインターネット経由です。また私のクラブでは8割の会員がホームページを見るようになりました。見方さえ教えてあげると、利用して頂けると思います。使って頂き易いものを作るように心がけたいと思います。

<大森次期IT委員>

事務局員さんが新しく替わられたクラブは当委員会まで連絡を下さい。地区とクラブとは現在はインターネットで繋がっています。何でも結構ですので、当委員会をどうぞ活用して下さい。また活動の記事や写真がありましたら送って下さい。それがホームページに載れば、それを宣伝して下さい。

部門別協議会

職業奉仕部門

カウンセラー・アドバイザー

瀬戸 新一 パストガバナー
 勝野 露観 ガバナー
 角谷 浩二 アドバイザー

ガバナー補佐・委員長

松生 満 IM7組ガバナー補佐
 北岡 満 職業奉仕委員長

SAA:

三前 剛・阪本 哲次

進行:

辻林 俊彦



挨拶

(カウンセラー・パストガバナー 勝野 露観)

職業奉仕部門は非常に大切です。我々は各業界の代表者が集まって組織を作っているわけです。ロータリーの目的に沿って自らを高めて職業を通じて社会に奉仕し貢献するのが、本来のロータリーの在り方です。ロータリーは“I SERVE”が原則で、各々の職業によって人々に喜びを与えることが大切です。

素晴らしいロータリアンとして、また素晴らしい職業人として、現在の大変な不況の中でどう生き残っていくか。そのためにも職業奉仕の考え方は大切です。信用に裏付けられたものでなければ、世の中では通用しません。“SERVICE”はただ単に“奉仕”という意味ではなくて、“人に喜びを与える”という意味です。

職業奉仕はよく勉強すればこれほどわかり易い、またロータリアンや職業人にとって大切なものはありません。どうか手続要覧をしっかりと読んで頂いて、勉強して下さい。

次年度活動方針・アンケート結果報告

(次年度職業奉仕委員長 北岡 満)

2009~2010年度地区職業奉仕委員会の委員長を引き受けさせていただきます北岡 満です。皆様と共に2640地区で、職業奉仕委員会の活動を考えてまいりたいと存じます。最初に簡単に私のロータリーでの経歴を申し上げますと、所属クラブは富田林ロータリークラブ、同クラブでの入会は1981年です。

私のような者が地区の職業奉仕委員長を勤めさせていただくのは、本当の偶然で、当初委員長に予定されていた方が急に体を悪くされたため、私が浅学非才を省みずお引き受けさせていただくこととなったものです。

角谷現地区職業奉仕委員長はうわさに轟く名委員長であって、その3年間における業績は、職業奉仕についての著作を含め余人に変えがたいものです。しかし職業奉仕活動を学ぶ者が広く地区には必要と言うことで、私どもに次の委員長をやるようにとバトンが渡されました。身の引き締まる重いです。

村上 2640 地区ガバナーエレクトは、職業奉仕に慧眼な方です。ロータリーにおける職業奉仕の重要性はつとに指摘されておられるところです。私は、村上エレクトに職業奉仕について基礎からご教示いただきながら、皆様と共に次年度職業奉仕について活動したいと考えております。どうぞ1年間皆様と共に職業奉仕について考え、社会の皆様役に役立ち、ロータリーの皆様にも繁栄をもたらす職業奉仕行動をさせていただきたく考えております。各クラブの職業奉仕委員長の皆様のご協力お願いいたします。

以下に具体的な活動を述べさせていただきます。

- 1、ロータリー綱領・四つのテストなどに基づき、当地区の職業奉仕委員会が研鑽し築き上げてきた職業奉仕の理念について、すでに編集された冊子を含めその成果を継承し、新たに就任される各クラブの職業奉仕委員長に理解を求め、各クラブに卓話などで周知してもらう。
- 2、ガバナーエレクトの職業奉仕についてのお考えと、齟齬のないよう意思の疎通に努めたい。
- 3、各クラブ対し、地区委員会からアンケートを出し、次年度において各クラブにおいて、職業奉仕の理念に沿う実践的な活動を地区協議会で提案していただく。
地区委員会としては、今まで各クラブ等で行われてきた職業奉仕の実践活動を例示するとともに、各クラブのロータリアンの職業を通して、各々の職業の価値を高める活動(たとえば各クラブの専門職の方の無料相談など)ができないか、各クラブで検討し提案していただくようにしたい。
又各クラブを超えた、職業人を通じた活動(たとえば障害者などに対する職業支援など)ができないか、いろいろ新たな提案も試みてみたい。
- 4、この未曾有の不況をしたたかに切り抜けておられる実業人を、卓話のスピーカーとして登録していただくなど、会員が互恵精神を持って協力するというプラス思考の活動も取り入れてみたい。

IM 別討論会

IM別討論会結果報告

<IM1組：白浜RC>

英語の「四つのテスト」をきちんと和訳して頂き、それを我々が統一した見解で理解することが大切だと思います。職業倫理については、自分の職業について責任と自信を持つことが大切です。職場見学については各クラブの会員の減少により難しくなってきたのでIM単位や、また各クラブの職業奉仕委員長同士が連携をとって考えてみてはどうかと思います。

<IM2組：御坊RC>

次年度の活動計画について話をしました。企業、事業所見学は全クラブとも行っています。ま

た例会で職業奉仕についての3分間スピーチを行っているクラブもありますし、職業奉仕関係の外部卓話も予定されているようです。学生の職場体験を行っているクラブや、他クラブとの交流も積極的にされているところもあります。四大奉仕部門の活動も大切ですが、会員が減少している状況も踏まえて、やはり親睦も大切かと思えます。

<IM3組：和歌山RC>

“職業奉仕はロータリーの根幹である”といわれるわりには意識が薄いと思います。もう一度、各クラブにおいて見直す必要があると考えます。「四つのテスト」について、正しく訳されたものを教えて頂きたいという意見がありました。当IM内において、もっと情報交換の場があったら良いと思います。表彰については、よりロータリーをPR出来るような方法を考えれば良いのでは、という意見もありました。

<IM4組：粉河RC>

本年度のガバナーは職業奉仕、特に倫理や考え方について強調して話をされていますので、非常に良いと感じています。職業奉仕委員会が事業を行うことはもちろん良いことですが、各クラブにおいて会員に職業倫理を啓蒙することは難しいと思います。ですから職業奉仕委員長が段取りをして、例えば地区から専門的な方に来て頂き、職業奉仕についての考え方の理論を身につける、といったことが大切だと思えます。

<IM5組：松原RC>

次年度の職業奉仕活動について意見を頂きました。職業奉仕についての卓話は多くのクラブがされています。職場見学については遠いところへは1泊で行かれているクラブがありました。職業奉仕についての表彰を行っているクラブでは、小さな会社ではなかなか表彰の機会がない、ということで表彰されています。職場体験学習は地域によって学校からの働きかけがある場合には、会員の企業に募集をかけて行っているようです。私どものクラブでは公開例会を一昨年から実施しており、アンケートでは医療関係の講演会を希望されています。地区への要望ですが、職業奉仕と社会奉仕の違いがわかるようなマニュアルを作成出来ればよろしくをお願いします。

<IM6組：りんくう泉佐野RC>

「四つのテスト」のきちんとした和訳をご提示頂きたいと思えます。角谷アドバイザーが書かれた“職業奉仕とは何か？”という冊子をもとに、勉強会をされたクラブもありました。次年度の計画では本質的なところに立ち返って、職業倫理の勉強をしっかりと行ないたい、という意見もありました。比較的、女性会員の多いクラブからは、まだまだ入会しにくい雰囲気がありますので、女性特有の職業の方の入会を勧め、このことが職業奉仕にも繋がっていくのではないかと、ということでした。

<IM7組：和泉南RC>

次年度の活動計画について話をして頂きました。週報の中に「四つのテスト」の英文を掲載されているクラブがありました。継続的な活動として、「四つのテスト」の唱和、企業の職場見学、職場体験等の報告を例会にて行う、といった意見がありました。

＜IM8組：堺東南RC＞

本年度の勝野ガバナーは「四つのテスト」、綱領の唱和を勧めており、これは非常に良いことだと思います。職場見学は家族会と併せて行っているクラブがありました。学生の職場体験については、頼まれれば今後も行っていきたいと考えています。角谷アドバイザーのお話が非常にわかり易いということで、今後とも卓話等でご指導よろしくお願い致します。

総 評

（勝野 露観 カウンセラー・アドバイザー）

私の年度から「四つのテスト」や職業奉仕を真剣に考えようという動きがございます。「四つのテスト」は職業奉仕の実践版とも言えます。今後は「四つのテスト」の英文も一緒に勉強して頂けるといふことで、大変良いことだと思います。また統一した和訳を地区で考えて欲しい、という要望がありましたのでよろしくお願い致します。

各クラブとも職業倫理をしっかりと勉強しようという気運になって頂き大変嬉しく思います。職業奉仕はロータリーの根幹ですので、しっかり理解をして頂き、素晴らしい方向へと導いて頂きますようお願い致します。

（角谷 浩二 次期職業奉仕アドバイザー）

本年度は12～13クラブから卓話のご依頼があり、『職業奉仕とは何か？』、『23-34とは何か？』、『「四つのテスト」とは何か？』といった話をさせて頂きました。「四つのテスト」関連では、“今の和訳はおかしいのではないか”と感じています。次年度もご依頼がありましたら、卓話させて頂こうと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

（松生 満 次期ガバナー補佐）

一業種一会員の原則が厳守されていたロータリーにおいては、互惠取引という概念も成立しうる可能性はありえます。しかし、歴史的にみれば、批判もあったことは、皆様もすでにご承知のとおりであります。まして、一業種一会員の原則がくずれた現在、職業奉仕の概念に、互惠取引を持ち込むことは、論外です。会員相互の関係が「ぎくしゃく」する原因を作り出します。

ロータリーができた1905年ごろには、まだ経済社会の自由取引は、正常な姿ではなく、数々の不正が横行していた時代でありました。ところが、それから100年以上たった現在、数々の自由主義社会の自由取引は、数々の法則制により広義での不正取引は、禁止されつつあります。そういう観点からみると、職業奉仕が単なる「法令厳守」の問題として、理解されてしまいがちです。しかし、法令の不備をつく、様々の不正が最近目立ってきております。職業奉仕とは、単なる拝金主義ではなく、社会倫理・道徳に基づく取引を意味するものと考えます。

法律の網の目は粗いが、社会道徳・倫理の目は細かいと言うことを、商取引にあたり、私たちは心に留めておくべきです。



部門別協議会

社会奉仕部門

カウンセラー・アドバイザー

前田 孝道 パストガバナー
 前窪 貫志 パストガバナー
 笹島 良雄 アドバイザー

ガバナー補佐・委員長

神谷 尚孝 IM3組ガバナー補佐
 辻 知昭 IM5組ガバナー補佐
 谷脇 良樹 社会奉仕委員長

SAA:

高橋 武雄・稲田 太門

進行:

坂東 剛



挨拶

(カウンセラー・パストガバナー 前田 孝道)

現在、大型の不況が世界を覆っています。ロータリーも影響なしで済まされないとありますが、いかなる難関も乗り越えて行かねばなりません。次年度のRIテーマは『ロータリーの未来は、あなたの手の手に』ですが、“この大きな時代の変革の中であって、自らの手の中にあるロータリーの未来をどのように展開していくか”を真剣に取り組んでいく必要があると思います。また次年度の地区の方針『歴史に学び、変革と進歩を』は“温故知新”の心を持たれていると思います。

次年度の社会奉仕委員会の基本姿勢・活動計画はよく考えられて、示されていると思います。1923年に出された声明は年々改正されながら、今日までできております。手続要覧の83ページから社会奉仕のことが掲載されていますが、23-34については5ページ中4ページを費やして語られています。

本日の協議会が意義あるものとなりますことを心から願っております。

挨拶

(カウンセラー・パストガバナー 前窪 貫志)

手続要覧の 83 ページから 87 ページまでは熟読願いたいと思います。83 ページにはロータリー色はあまり出ていませんが、23-34 の部分はロータリーの哲学から始まって精神論がかなり入ってきています。現実的には皆さんも、じっくりと手続要覧をご覧になったことはないかと思います。ロータリーはその年度に担当になった分野で理解をして、それを積み重ねていくものだと思います。

村上ガバナーエレクトは次年度、“地震”をテーマにした奉仕活動を考えています。各クラブにおいて“地震”という言葉では取り組みにくいかもしれませんが、“安全・安心”という言葉にすれば簡単に取り組めると思います。目にみえないものに関して取り組む団体は少ないですから、ロータリーが取り組んでみても良いかと考えます。

社会奉仕は地区主導やR I 主導では決してありません。ただ示唆や情報提供は出来ますので、次年度のクラブ委員長会議はクラブ相互の情報交換の場と考えて頂き出席して下さい。地区の委員長会議はパストガバナーや地区委員長の時間ではなく、各クラブの委員長の時間です。各地域のニーズを捉える方法も会議で勉強して頂きたいと思います。皆さんが各クラブへ持って帰るものをしっかりと心に問いかけて下さることをお願い申し上げます。

ガバナー補佐よりの一言

(神谷 尚孝 次期ガバナー補佐)

私自身、今日は皆様方と一緒に“社会奉仕は如何にあるべきか”を学びたいと思いますので、どうかよろしくお願い致します。

(辻 知昭 次期ガバナー補佐)

本日の社会奉仕委員会の資料は“今こそ、社会奉仕活動が求められている時はありません。”という言葉で始まっていますが、私どもの河内長野東RCは以前はあまり社会奉仕活動に力を入れていませんでしたが、ここ数年は力を入れています。“情けは人のためならず”と言われますが、地域での社会活動に力を入れますと、クラブに対しても良い影響が返ってきています。最近40~50歳代のメンバーが入会してくれており、実に生き生きと社会奉仕活動をして下さいます。社会奉仕活動はクラブ活性化のためにも非常に効果があると思います。



社会奉仕事業について

(次期社会奉仕委員会 委員長 谷脇 良樹)

皆さん、こんにちは。改めまして本年度に引き続き、地区の社会奉仕委員長を微力ながら勤めさせて頂きます。海南東ロータリークラブの谷脇良樹でございます。何卒よろしくお願いを致します。

ロータリーは、ご承知のように今、カウンセラーの話にもあったように奥が深いもので、次なる一年については、より一層勉強をしなくてはと思うところであり、この深い深い沼を少しでも早く抜け出したいと言う気持ちも、はっきり言ってあります。しかしながら、これから新しい年度にむけて張り切っている各クラブ委員長さん方のよいサポーターとしての仕事を懸命に励みます。

何年か振り、この地にやってきました。かつて、ここに田辺高校があり、向には旅館があった記憶があります。綺麗な、大浜海岸がひろがり、この先から白浜へ行く巡航船が出ていました。今日は、ここに来て子供の頃の思い出が脳裏に鮮明に浮かんで来て、懐かしさで一杯です。

先日、大阪の天満天神繁盛亭へ落語を聴きに行く機会があり、行って来ました。若手からベテランまで色々な落語家が出てきましたが、そのいずれもが、最初「マクラ」といって、少し小話や昨今の時節の話をしてそれから、その反応を基にして本題に入っていきます。10人10色と言うように各々がみんな持ち味を出して観客を話に引き込んでいくところは、流石プロだなあと思うところでありました。笑う門には福来ると言うように皆さん方も、まず持って笑顔で新年度をスタートして下さい。

ここにおられる前窪パストガバナー、笹島アドバイザーとは、休日によくゴルフ場でお顔を拝見する先生方ですが、ゴルフもキャディーさんの言葉をよく聞き、同伴のプレーヤーの行動をよく見てプレーすることがベストプレーに繋がります。

皆様方におかれましても、あまり我を通して一直線に行くよりも硬軟とりまぜて、その使命を果たしてくれることをまず、最初にお願いするところでもあります。地区委員会と言うのはあくまでも「潤滑油」であり、目配り、気配りの存在です。各々のクラブ、皆様方のクラブの委員会が主体であることは言うまでもありません。

昨今問題になっております社会奉仕に関する声明、所謂23-34の決議について、又社会奉仕に対する心構え等々は、先ほどの前窪カウンセラーの話にもあり、それにガバナー月信の4月号の勝野ガバナーによる説明がされております。今日お帰りになりましたら、またご持参していれば是非、一度読んで下さい。私の方は手続要覧のような話は出来ません。

かつては、大学教授や、ロータリーをこよなく愛し、深く研究されている方が、この委員長をしておられ、その時代の議事録等々を拝見して一歩下がった記憶がありますので、肩の凝らない平易な文章で資料を作成しております。まさしく、それでありました。私、前段申し上げましたように奉仕をするのには、笑顔とハートが大切であると思います。この暗いニュースが多い時代に暖かい心を持ってする奉仕活動は世間がわかってくれると思うのです。

3月は識字率の月間でした。毎年のごとく皆様方には暖かいご協力を頂き改めましてお礼申し上げます。次なる年も変わらぬご協力を、この場をお借りしてお願いいたします。



ダメ・ゼッタイ運動、レッドリボン等々のご浄財を頂くことばかりで恐しくしております。ポリオ、エイズ、はたまた新型インフルエンザと気の休まることはありません。でも、その根絶と抑止、予防に我々ロータリーの力は、欠くことの出来ないものだと思います。なお一層のご協力をお願い致します。

ロータリー 100 年の森林、ここに当時のガバナーの前窪カウンセラーもおられますが、この春、高野山の現地を見て参りました。この後、笹島アドバイザーから話もあるのですが、これも、色々工夫を凝らして風化させず進化するように努めねばと思っていますところ。今、話題の環境問題も含めアドバイザーにはよろしくお願ひします。

次年度、村上エレクトの要請といったら語弊があるかも知れませんが、防災問題（地震）について地区でと言う話があり、私どもは、各方面と接触をして色々考えました。県庁、自衛隊、警察等々ですが、これも地域にある各クラブが一番、その土地勘もあり、よく理解しているところであり、地域のリーダーとして、もしもの時の担い手となって、そのために社会奉仕はと言うところなのです。防災に対しての卓話の斡旋やクラブフォーラム開催時の協力等々全面に尽力をするものであります。地域がかかえている問題を含めて、是非ご協力をお願い致します。他にも、この 2640 地区、大阪は大和川から以南、紀伊半島の新宮市まで、約 250 Km の沿線に渡って本当に必要とする対策等々が山積しているはず。その一つ一つをカバーすることは難しいかも知れません。とりあえず、やれることをやってみては！地区社会奉仕委員会は、その原動力の各クラブの委員長さんの後ろ盾として、がんばる所存です。どうかこの一年、ご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願ひして、社会奉仕事業についての話を終わります。

環境保全について

(次期社会奉仕アドバイザー 笹島 良雄)

高野山の「ロータリー 100 年の森林」についてですが、国際ロータリーの 100 周年記念事業として、高野、熊野の世界遺産である「紀伊山地の霊場と参詣道」周辺の森林保護に手を貸し後世に残そうと、2640 地区の有志（66クラブ）が立ち上がりました。

1. テーマ

- ① 高野、熊野の世界遺産の森林保護に手を貸そう。
- ② 世界遺産の荒れた山に美しいロータリー 100 年の森を作ろう。

2. 趣 旨

和歌山県内の「紀伊山地の霊場と参詣道」は「高野山」及び「熊野三山」という二つの霊場と参詣道として「高野山石道」「熊野参詣道」及び「大峯奥駆道」から構成されている。その周辺にはバッファゾーンと呼ばれる地帯が設定されている。「ロータリーの森林(もり)」はこの地帯の周辺を豊かな森林資源を育成し、私達の子供や孫達の為に美しい森を残そうとする。

3. 募金額と植樹数

第1次、2次、3次の合計金額は 2,424 万円

植樹総本数 2,424 本

国有林なので借地面積 3.1 ヘクタール（パートナー 県緑化推進会と協働）

4. 植樹の種類

- ① ヤマザクラ (650本) 春に花が咲く樹種。
- ② コナラ (400本) 夏に昆虫採集が出来る樹。
- ③ クリ (574本) 秋に実が(食用)なる。子供が楽しめる。

- ④ イロハカエデ（450本） 紅葉がきれい。
 ⑤ ケヤキ （200本） 枝張りが良く、冬の落葉の季節がきれい。
 〈会員の皆様が四季折々訪れ、楽しめる様に。〉

5. 管 理

下草刈り、補植、除伐作業等、森林組合と緑化推進委員会と連絡し乍ら実施している。

6. 募金の運用

推進委員会に委託し、定期的に残金のチェックを実施している。

以上です。

提出書類の説明

（次期社会奉仕委員長 谷脇 良樹）

この地区協議会終了後に各クラブ宛てに、“クラブ社会奉仕事業についてのご連絡お願い”という事でアンケートを提出お願いします。過去に行った事業でも結構ですが、クラブで一押しの社会奉仕事業や、次年度に予定されている皆様方に知らせたい事業等を書いて頂きたいと思えます。次に防災対策について、会員意識、地域のニーズ、ロータリーとして行える活動なども記載して下さい。以上、6月30日までにお願いします。それを当委員会で検討し、8月22日のクラブ社会奉仕委員長会議の時に、いくつかのクラブに発表して頂きたいと考えています。

ご意見を頂く時間

（次期社会奉仕委員 坂東 剛）

Q：当クラブは次年度、“チーム マイナス 6パーセント（環境省の外郭団体）”への参加を考えていますが、定款上は問題ないでしょうか？ （御坊東RC）

A：手続要覧の85ページに載っていますが要は、クラブにその意思があればオッケーです。（前窪パストガバナー）

Q：環境保全委員会が地区では無くなったということですが、ご説明をお願いします。（羽衣RC）

A：具体的な経緯は聞いておりませんが、「ロータリー 100年の森林」が軌道に乗って落ち着いたので、当地区では具体的な活動が難しくなり、社会奉仕委員会が統合して行うことになったと思えます。（笹島次期アドバイザー）

Q：「ロータリー 100年の森林」についてですが、勝手に行って栗の実を自由に採っても良いのでしょうか？ （岩出RC）

A：ロータリーのバッジを付けて行って頂くとうよろしいかと思えます。（前窪パストガバナー）

Q：「ロータリー 100年の森林」の維持・管理に掛かる費用は、当時集められた残金で行われているのでしょうか？ （有田 2000RC）

A：補植、伐採等の費用として年間約60万円かかりますが、その費用は当時の寄付金の中から使っています。あと7～8年分は大丈夫かと思えます。（笹島次期アドバイザー）

Q：「ロータリー 100年の森林」に植えられたヤマザクラの種類を教えてくださいたいと思えます。またヤマザクラを多く植えますと回りの木が育たなくなりますので、そのようなことも考慮

されているのでしょうか？

(田辺東RC)

A：今後、調べましてお答え致します。

Q：地区の方ではどのような防災対策をお考えでしょうか？

(和歌山西RC)

A：防災は地域に根ざした対策が大切ですので、それぞれのクラブで出来る防災を考えて頂きたいと思います。

(谷脇次期社会奉仕委員長)

Q：実際に地区内での災害に対して、救助活動等が出来るのか疑問に思いますが、いかがでしょうか？

(和歌山西RC)

A：実際問題として災害時にどのようなケースがあるかはわかりませんので、具体的に計画するのは難しいと思います。しかしまずは地区として防災対策に取り組む意向があることを示したいと考えました。アンケートにお答え頂いて、それを基に次回の委員長会議において発表して頂き、今後の参考にして頂きたいと思います。

(笹島次期アドバイザー)

A：ロータリーでまず取り組めることは、心構えだと思います。そして地域社会に防災意識を浸透させていけるようなアイデアを、皆さんから頂戴出来ればと思います。

(前窪パストガバナー)

A：“稲むらの火”という大地震の被害を未然に防いだ有名な話があります。和歌山の人には東南海・南海地震に対する意識があると思います。したがって地域社会のニーズに対する活動としては、災害に対する心構えに関する専門化の話聞く、といったことだけでも非常に意味があることだと思います。

(前田パストガバナー)

本年度のRIテーマに基づき、今年は子どもたちを対象にスポーツ振興としてロータリーカップを開催しました。

(河内長野東RC)

総 評

(前田 孝道 カウンセラー・アドバイザー)

本日は実りある会合になったと感じています。次年度、皆様方はロータリーの中核にあって大変大事なお仕事を担って頂くこととなりますが、RI会長やガバナーの思いを心として、立派な運営に寄与されますことを心よりご祈念申し上げます。

(前窪 貫志 カウンセラー・パストガバナー)

皆さんにご期待申し上げます。時間が余りましたら委員長に差し上げたいと思います。

(谷脇 良樹 次期職業奉仕委員長)

私どもの意図するところが皆様方に届いているかどうか、説明不足で申し訳ありません。皆様方の住まわれている所で何が必要なのかを考えて頂き、それに対してロータリーがお手伝い出来ることがありましたら進めて頂きたいと思います。この数年はエイズ問題にも取り組んでいますが、変革の時期を迎えているようにも感じています。まだ次年度の活動計画をお作りになっていないクラブもあるかと思っておりますので、本日の内容も踏まえて、実りある1年にして頂ければと思います。

部門別協議会

新 世 代 部 門

カウンセラー・アドバイザー

楠 公延 パストガバナー
 平原 祥彰 パストガバナー
 瀧 成和 アドバイザー

ガバナー補佐・委員長

山本 正明 IM5 組ガバナー補佐
 丸山 信仁 青少年・ライラ委員長
 中西 秀文 ローターアクト委員長
 竈 和夫 インターアクト委員長

S A A :

寒川 真典・伊賀 久記・竹内 正巳

進行 :

丸山 信仁



挨 拶

(カウンセラー・パストガバナー 平原 祥彰)



新世代部門は手間が掛かり、お金も掛かり、道は遠いという噂があるかもしれません。進んで新世代部門の活動を行うクラブは少ないのではないのでしょうか。すでに活動を行っていても撤退したいというところがあるようです。我々の活動で青少年部門はどういう位置づけかということ、“我々の未来は青少年である。”ということが言えます。自分の意見を持った、しっかりとした青少年を育てることが大切です。自分達の子どもの同様に青少年は宝物ですから、ロータリアンとして青少年の育成に関わっていく必要があります。

先日の5月の連休に青少年海洋センターにおきましてライラが開催され、瀧委員長は委員長として獅子奮迅の働きをされました。60名以上の参加者とそれ以上のロータリアンにも参加して頂きました。充実した内容を考え、事故も無く立派な成果を挙げて3日間のプログラムを終了するという事は、そばで見ているよりも実際は大変です。委員長以下、委員の皆様等の熱意が成功に導いたと思います。

本日は皆様方の青少年についての熱心な討論、討議を期待しております。

青少年・ライラについて

(次期青少年・ライラ委員会 委員長 丸山 信仁)

2009－2010 青少年ライラ委員会委員長をします。御坊クラブ丸山信仁と申します。宜しくお願ひします。

4年前に今期地区代表幹事桃田様の時に初めて地区役員（職業奉仕）をさせて頂き3年間職業奉仕の勉強を致しました。今年度青少年・ライラ委員をさせて頂いています。ロータリーに入会して22年立ちますが、この4年間でロータリーの良さを再認識致しました。私は17年間ソフトテニスを指導してきました。そこで感じた青少年の問題を皆様と一緒に1年かけて勉強していきたいと考えていきたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。

皆様に少しご質問を致します。

1. ライラをご存知の方

青少年指導者養成プログラム

2. ライラに参加した事のある方

ライラ研修会ではチームを作り、そのチームの中における自分の存在感を示し、与えられた討論テーマに対して自分の考えをどう表現し反映させるか、を体験させ、討論を通して研修メンバーのリーダーシップを引出す事、そしてチームワークを自然形成させるリーダーが現れ、「役割分担を指導する能力」が発揮される事を期待しています。

3. 皆様のクラブで青少年のプログラムはどのようなものでしょうか

私は青少年の事業にもっと力を入れるべきだと思ひます。

昨年全国青少年育成委員会に参加した時のことですが、ロータリーらしい職人（職種）の素晴らしさを青少年に伝えて頂きたいと思ひます。例えば中学生の職場体験、高校生のインターシップ又出前講座の取り組みなど職業の大切さを青少年に伝えていきたい。

第28回青少年・ライラ研修会を今年度は、5月2日・3日・4日の3日間の日程で大阪府海洋センターにおいて開催致しました。メインテーマは「豊かな人生を築くには」で、研修テーマは地球に優しい生活を考える「エコに生きることで未来の地球を守ろう」でした。米山奨学生・インターアクト・ローターアクトの協力のもと、約80名の研修生で開催致しました。

村上ガバナーエレクトから田辺の地でライラセミナーを開催できないかと言うお言葉を頂き、第29回ライラセミナーは長年使用した大阪海洋センターから離れ、日程も3月20日・21日・22日の3日間で地元田辺市元町目良の元島館で開催予定です。メインテーマは「人生の目標」です。色々なプログラムを委員会で検討しています。詳しくは8月29日（土曜日）紀南文化会館で開催する地区新世代部門委員長会議でご説明させて頂きます。出来るだけ田辺の歴史・風土を感じて頂けるライラセミナーを開催したいと考えています。IM1組のライラキーマンのご協力のもと、より良い研修会を開催致しますのでご参加、ご協力をお願いします。

6月中にアンケートに記入の上、ガバナー事務所へ返信をお願いします。

大阪府内・和歌山県内の「中学生の主張」の大会に協力を行っていききたいと考えています。

ローターアクトについて

(次期ローターアクト委員長 中西 秀文)

本日 73 クラブ中 58 クラブが出席されていますが、この中でローターアクトについてご存知の方は何人おられるでしょうか。

「歴史」

ローターアクトは、その短いながらもダイナミックな歴史の中で急速に発展してきました。1960 年代の初頭、世界各地のロータリークラブが社会奉仕プロジェクトとして大学レベルの青少年グループの提唱を開始しました。1967-68 年度の R I 会長「ルーサ H・ホッジス」氏と R I 理事会は、このクラブ活動に国際性があると考えました。その結果、1968 年、ローターアクトはロータリークラブの公式プログラムとして承認されました。1968 年 3 月 13 日付で最初に承認されたクラブは、アメリカ・ノースカロライナ州のノースシャルロットローターアクトクラブでした。

数十年後、ローターアクトプログラムはローターアクトクラブの強力な国際的組織に発展し、150 カ国以上およそ 7,300 クラブを擁するまでになり、会員数は 14,500 名の会員を有する様になり、その後、クラブ数の増減はありますが、現在に至っています。残念ながら日本ではロータリアンと同様、減少傾向にあります。

2640 地区では、1969 年に有田ローターアクトクラブが最初に誕生しています。(今年で 40 周年を迎えます)

「目的」

ローターアクトはアーターアクションの略語です。ローターアクトクラブは 18 歳~30 歳までの青年男女の集まりで、ロータリークラブによって作られたので、奉仕の精神が共通の理念です。そして次世代を担う若者の自己の知識や能力を高め、地域社会への奉仕や国際的な理解を深めることによって、お互いの親睦を深めて、ひいては世界平和に貢献する団体で、言い換えれば、例会や各クラブ行事、地区行事などを通じて、すなわち専門知識開発、指導力開発、奉仕プロジェクトの 3 つのローターアクトプログラムの力を借りて、若い人々が責任感のある社会の一員となるために必要な手段と技能を身に付けることが出来ます。新世代の若者に、自分自身の力を試し、新しい技能を開発し人生の中で直面する問題に立ち向かうよう促す事、すなわち、ローターアクトプログラムはローターアクトに、将来の世代に伝えることが出来る生き方を教えるものであります。又、同時にローターアクトプログラムにより、ロータリアンは、地域社会と世界平和への奉仕に関心を抱く活動的な若者を指導する機会に恵まれます。その代わり、ローターアクトクラブはロータリークラブに新しい活力をもたらし、奉仕の斬新なアイデアを提供し、プロジェクトの支援を増やしたり、ロータリークラブの将来の会員の育成に繋がります。

ローターアクターは、提唱クラブの奉仕パートナーとして協力し、ロータリーファミリーの重要な一員となっています。

「現状」

現在、日本では、全国でローターアクトクラブ数は 369 クラブ、会員数は約 3,800 名です。2640 地区のローターアクトクラブは会員数 73 名(男性 36 名、女性 37 名)で若干、増減がありますが、去年は約 106 名でしたので、約 33 名の減少です。(10 年前は約 200 名)ク

クラブ数は11クラブで、3つゾーンに分かれています。第1ゾーンは堺RAC・泉大津RAC・岸和田RAC・泉佐野RAC、第2ゾーンは松原RAC・富田林RAC・河内長野RAC、第3ゾーンは和歌山RAC・海南、海南東RAC・有田RAC、御坊RACです。

提唱ロータリークラブは12クラブです。私どもの、海南、海南東RACは1993年創立で、次年度で17年経過することになります。

この16年間、新しいRACは出来ていません。20代の時の自分を振り返ってみると、奉仕活動について考えたことは、殆どなかったと思いますし、一般の若者も殆どそうだと思います。そういう年代にローターアクターは日ごろ「ロータリーファミリー」の一員として、私達の手の届かないところで奉仕活動を通じて世の為、人の為になることを実践しています。例えば、具体的にクラブ行事として、「会員増強パーティー」「市民祭・夏祭への参加」「老人ホームの訪問」「養護施設への行事参加」「養護学校で子供達とのカレー作り」「国道の清掃作業」「盲導犬協会への寄付」「ロータリアンと共同で献血活動」「ロータリークラブと一緒にエイズキャンペーン運動への協力」「留学生との親睦活動」「プルタブを集めて車椅子寄贈」「ペットボトルのキャップを集めて（ポリオへの協力）」「アルミ缶集め」「空き缶の回収」「JCと一緒にイベントに協力」「インターアクターと合同クリスマス会」「高野街道の道標作製」「フリーマーケットへの参加」「海岸の清掃活動」「地元のお祭りに出店とお手伝い」「他クラブとの交流会と合同行事」など、他にも沢山の活動をしています。その活動を見るにつけて、いつも感心していますし、エネルギーをもらっているわけです。また地区行事は後でお話します。

2640地区のガバナーは新世代に力を注ごうということで、非常に理解を頂いて、青少年は全ての人々の未来で若い人たちの為に応援しなければならないということで、いつもバックアップしてくれていますし、新世代の活動はロータリーらしい有意義な活動として評価してくれています。次年度の村上年度では和歌山県南部に新しく、ローターアクトクラブを作ろうと話をしています。本当にありがたいことだと思っています。

次に基本姿勢について、お話ししたいと思います。全国的にローターアクトクラブの減少、クラブの会員数の減少がみられますが、一部の地域を除いて改善・発展に至っていないのが現状です。当地区でも、クラブ数が10クラブとなり、会員も毎年、減少しています。ローターアクト活動について色々と広報活動等、努力していますが、なかなか増強出来ないというのが現状です。ただ、当地区のローターアクターは少ない人員でも日々努力と研鑽を重ね、1年間を通じて地区行事や各クラブで奉仕活動をしています。そばから見ていまして本当に良く頑張っているなあ。というのが実感です。そういう姿を見るにつけ「ローターアクト活動に対するロータリアンの責任と役割」について真剣にディスカッションをして、ローターアクトクラブの活性化に繋がっていきたいと考えています。

また「ロータリー家族」の一員として、私たちの手の届かないこと、世の為・人の為になることを日々実践している次世代を担う若者を育てることが、ロータリーの崇高な理想を実現するためには必要なことであり、ロータリアンの務めだと考えます。当地区のローターアクトクラブは17年間、新しいクラブが誕生していません。今期は新しいクラブが発足するよう努力したいと考えていますので、ご協力のほど、よろしくお願いします。

● 活動計画

リーダーシップフォーラム	7月
全国統一アクトの日	9月13日(日)
地区連絡協議会	1月～2月
全国ローターアクト研修会	3月13～14日(土・日) (ホスト: 2760地区 愛知)
新旧役員エレクト研修会	4月
地区大会	6月
2660地区との交流会	未定
海外研修	未定(地区WCS海外視察と協同実施)
新世代交流会	未定(RAC・IAC・青少年交換・財団奨学生・財団学友 米山奨学生・米山学友)
4地区情報交換交流会	未定(ホスト: 2640地区)

● 活動報告

全国ローターアクト研修会

今年度は2月21日(土)～22日(日)2740地区(佐賀・長崎)ホストで、長崎で開催され、全国から600名以上の参加があり、2640地区からは14名のローターアクターが参加しました。去年は仙台で開催されましたが、今年も会場は以上な熱気に包まれ、彼等のパワーとエネルギーに圧倒され感動します。私は是非、ロータリアンにも、その雰囲気味わってほしいと思います。ローターアクターは、すぐに友達になれますし、彼等にとって最高の情報交換の場であり、お互い頑張っている姿を見て、情熱をかきたてられる場でもあります。

また関西4地区(D.2640、D.2650、D.2660、D.2680)は、全国的にもローターアクト活動が活発な地区で改めて再認識させられました。一番感心したことは、ガバナー事務所から補助なしに大会を運営した事です。

地区大会

来る6月28日(日)河内長野RACホストで開催されます。

30歳で卒業するローターアクターは本当に充実したアクト生活を送っていますので、卒業生のコメントには私どもも、もらい泣きしてしまいます。本当に毎年、感動する地区大会です。是非、皆様に参加してほしいと思います。

海外研修

11月1日(土)～3日(月)韓国ソウルへ海外研修に行ってきました。

約20名参加 ソウル3650地区RACと交流

4地区情報交換交流会

1月25日(月)2650地区ホストで開催されました。

2640地区 2650地区(福井・滋賀・京都・奈良)

2660地区(大阪北部) 2680地区(兵庫)

次年度は2640地区ホストですので、皆様の多数のご出席の程、お願いします。

このようにローターアクトに関わりますと本当に忙しい一年を過ごすわけですが、ローターアク

ターはスピーチを初め人間的にも驚く程、成長しますので、ローターアクト本人の口から、世の為、人の為に何かしたいという言葉が出て来ます。その時、本当に関わってよかったと思う瞬間です。

今後の課題として、会員増強の問題があります。18歳～30歳という年齢制限があるので、必然的に増強しないと自然減になってしまいます。ローターアクトの活動を知ってもらう為に活発に広報活動をし、ロータリアンには活動を今まで以上に知ってもらうことが大事であると考えていますし、次年度は2640地区の各クラブにローターアクトの活動を紹介して、近隣のローターアクトクラブに若者を是非、紹介してほしいと考えていますので、よろしくお願いします。

またローターアクトクラブは、ロータリークラブが作ったということからも親子の関係ですので、無関心というのではなくて、それから皆でどうやって、一生懸命、育てていくかということと、応援していくことが大事であると思っています。今後、益々充実した活動ができるように奉仕のパートナーとして、ご協力の程よろしくお願いします。

インターアクトについて

(次期インターアクト委員長 竈 和夫)

私は以前、堺のローターアクトを立ち上げたメンバーの1人です。その当時は中心になる人が努力してはじめて立ち上げることが出来たと思います。皆さんには地域の活動をもっと知って頂きたい。インターアクトクラブも少子化の影響で減ってきました。また学校法人も教育と経営が合い入れないところもあるかもしれません。大きな大学法人が私学を飲み込むような形で、経営の一体化を進めてきています。大手の大学では中高一貫ではなくて大学へのエスカレーターで、学生を大学の組織の中に組み込もうと考えているようです。幼稚園から大きな大学の傘下に収めるような形になっています。

ロータリーの教育に関する考え方は決して、学校経営と合い入れないものではないと考えています。もっと皆様が地域の中に入って行って頂いて、青少年育成について理解して頂くことが大事だと思います。

次年度の委員会の運営方針を「ロータリーの原点に帰ろう」とさせて頂きました。飛翔館高校が近畿大学の傘下に入り、今3年生の学生が卒業しますとインターアクトクラブは無くなります。初芝富田林高校、初芝堺中学校も立命館大学が経営母体になりました。インターアクト提唱クラブが更に学校法人、先生方の中に入り込んで、ロータリーの青少年育成としてどのようなことが出来るかを示していかなければなりません。

事業計画ですが、インターアクト委員会・顧問会議の中で年間行事予定を作り、担当のインターアクトクラブも決めています。12月の海外研修は新型インフルエンザの問題もありますが、韓国を予定しています。国際交流の始まりは、先ず隣国理解と考え歴史、文化の交流ということでプログラムを進めます。現韓国大統領がソウル市長時代に手がけた事業（清溪川の復元、ソウルの森等）を基に、環境問題についての研修を考えています。また韓国のロータリーとの交流も企画致します。

質疑・応答

Q：私自身、人に物事を教えるなんておこがましいと考えています。ライラを、ロータリアン自らの人生を見直せる機会になるような企画にされたら良いかと思えます。(有田 2000RC)

A：ライラは毎年テーマを掲げています。そのテーマを教えるのではなくて、一緒になって勉強し、討論することが大切です。そして討論の結果を発表して頂くのですが、そこまでに至る経過が大事です。ライラは指導者養成プログラムですが、意見を交換するということを経験してもらいます。その意見交換の場にロータリアンも入って頂いても結構ですし、若い人の中に入ることを味わって頂きたいので、出来るだけ多くのロータリアンにも参加してほしいと思います。

(瀧次期アドバイザー)

Q：インターアクト委員会の事業計画の中の海外研修についてですが、“歴史・文化の交流”とありますが、具体的に教えて下さい。(橋本RC)

A：韓国との歴史の交流には不幸な時代もありました。しかしもっと前からでは、百済との交流では聖徳太子が窓口になり、大陸文化を日本にもたらしました。その時代IIの交流を正直に捉え理解することにより、今後の交流発展に繋げていけるのではないかと考えます。また韓国の教育事情は日本に勝るとも劣らないと思います。韓国のインターアクトとも交流を出来ればと考えています。(亀次期インターアクト委員長)

Q：韓国との交流の中で、日本と韓国の学生とでは歴史認識のギャップが大きいと思えます。そのギャップを埋めないと本当の意味での交流にならないと思えますが、何か試案はありますか？(岩出RC)

A：ギャップは埋める必要はないと感じています。いろんな意見があるとは思いますが、お互いの意見を聞いて話し合うことによって、新しい交流が出来ていくと思います。

(亀次期インターアクト委員長)

A：海外に行くとインターアクト同士、ローターアクト同士にグループを組んで活動してもらっています。過去にも中国・韓国の場合は少し心配もありましたが、私たちが危惧する必要もなく、すぐに仲良くなっていました。日本の過去について日本人の学生が知らなかったことを、逆に教えてもらったりすることもありますし、またいろいろ教えてあげたりもして、私たちが大人目線で考えるよりもずっと早く打ち解け交流しています。(瀧次期アドバイザー)

A：韓国では若い女性でも、「加藤清正、豊臣秀吉はけしからん。」と言います。これは教育によるものだと思いますが、現在の日本と韓国の間で加藤清正や豊臣秀吉を論じてどうなりますか。もっと大切なことがあるはずです。(平原パストガバナー)

Q：私は在日韓国人の3世で、日本で生まれ育ちました。歴史認識の違いは確かにあると思えます。子どもの頃に父親から韓国側から見た日本の本を渡されました。それを読み終えると次に、日本側から見た韓国の本を渡されました。実際に起こったことは1つで、取り方の違いはあるが、自分で確認して自分で考えなさいと教わりました。私もギャップを埋める必要はないと思えます。

ライラセミナーについてですが、先日、息子共々参加させて頂きました。青少年指導者養成プログラムということですが、本当にリーダーを養成するためのものだったのかな、という

思いがあります。まず人として基本的なことを教えてあげる必要があるのかなと感じました。一昨年には娘も参加しています。最初は嫌々参加しましたが、帰ってきてまず私に言ってくれたのは「行かせてくれてありがとう。」という言葉でした。それから娘は積極的になり、変わりました。それで今回も参加しましたが、募集に関してただ人数を集めるのではなくて、面接を行う等の方法は考えられないのかと思います。 (田辺RC)

A：本当はライラの参加者を選考したいと思っています。申込期限を過ぎて、ライラの直前に申込があったり、当日に突然来たりすることもあります。そのような方でもプログラムに参加して、大変素晴らしい意見を述べてくれたりします。全国ライラ研究会に行きますと、前もって約200名を募集して最終的に70名に絞って、ホテルで勉強会を行ったりするところもあります。

“指導者養成プログラム”という日本語訳は、間違いではないかと思っています。“AWARD”には、“審査する。一緒に何かをする。”という意味合いがあります。指導者と言いながらも、家に帰ってから自分で気づき自覚して、新たに何かを考えて頂くための研修と考えています。例えば講演中に態度が悪かった者も、その後の1分間スピーチによると、何か自分なりの成果を見つけていると思います。10年程前の感想文には、「無理やり連れて来られて、無理やり嫌なことをされた。」といった内容が3分の1位ありました。ここ4～5年前からは「貴重な経験をした。」という内容が増えてきました。ライラに参加したからすぐに素晴らしい人になる、ということはないかもしれませんが、長い目で見てあげて頂きたいと思います。 (瀧次期アドバイザー)

A：次年度は今年度よりも厳しいことも考えています。ご意見ありがとうございます。

(丸山次期青少年・ライラ委員長)

Q：瀧委員長は新世代部門の話になると元気になられますが、クラブではいかがでしょうか？

(大阪金剛RC)

A：多くのクラブでは、一生懸命に活動されている方は2割程かと思っています。周年事業の年度になりますと、その2割の割合が8割程になってきます。そして周年事業が終わった翌年はまたパワーダウンしてしまいます。私のクラブには私のように年中パワーがある者がクラブには32人中5～6人おられます。以前は72名でしたが、その当時に比べますと現在の方が地域への奉仕はよく行っていると感じます。 (瀧次期アドバイザー)

Q：ローターアクトについて、4地区情報交流交換会の日程をお教え下さい。当クラブもローターアクトの提唱クラブですが会員の増強に悩んでいますので、ご推薦をお願いします。また予算的にも苦しい状況ですので、ご意見を頂きたいと思います。 (泉大津RC)

A：私のクラブでもローターアクトをお世話しています。昨年は11名がアクティブに活動していましたが、今年は3人です。なかなか増強も難しい状況です。IM単位で協力して努力して頂きたいと思います。 (瀧次期アドバイザー)

A：交換会の日程ですが、次年度は来年になると思いますが現在まだ未定です。

(中西次期ローターアクト委員長)

総 評

(平原 祥彰 カウンセラー・パストガバナー)

3人の委員長のお話を聞いてよくお解りになりましたか？こちらから見ておりますと、よく解らなかったという方もおられるように感じました。しかしこれからですから、結構です。青少年についての活動を、どのように先輩方が関わってこられたかを良く検証して下さい。どうでも良いことならば、無理にやらなくても結構です。しかし“どうしてもやらなければならない”ということならば、我々が置かれている今の状況の中で何が出来るかを考えて下さい。クラブの人数によって出来ることは違います。身の丈に合った活動を行えば良いと思います。また近隣と協力するのも1つの方法です。

皆さんはクラブの代表ですから、この会議で何をしてどのように感じたかを報告して下さい。青少年は我々の宝であり、我々の未来です。皆さんと共に力を合わせて、青少年の未来を開きましよう。



部門別協議会

国際奉仕部門

カウンセラー・アドバイザー

中島治一郎 パストガバナー
 大澤 徳平 パストガバナー
 京谷 知明 アドバイザー
 北島 一樹 アドバイザー

ガバナー補佐・委員長

西山 利昭 IM 4 組ガバナー補佐
 三村 文男 IM 8 組ガバナー補佐
 中野 一郎 世界社会奉仕委員長
 豊岡 敬 青少年交換委員長
 田上 雅信 オン・ツウ・モントリオール委員長

SAA :

新井 康司・大木 誠治

進行 :

中野 一郎



挨拶

(カウンセラー・パストガバナー 中島 治一郎)

国際奉仕の中にはロータリー財団が含まれます。理事会でロータリー財団の問題を取りあげる場合には皆様方が担当者になる、とご認識下さい。国際奉仕の機会を皆様方のクラブの会員さんに届けて頂きたい、というのが1番の願いです。そしてそれを出来るだけ実施するようにご指導頂きたいと思います。ロータリーは唱えるだけではなく、実際に行って感動を味わうことが大切です。私たちは奉仕団体ではなく人づくり団体です。人づくりのためには感動が1番の動機付けになります。どのようにしたら会員を感動させられるかを中心に、考えて頂きたい。

現在をご存知の通り世界大不況です。ロータリー財団への皆様方からのご寄付は3年間活用し、その利益でいろんな経費をまかっています。3年間の運用の後に、全てを奉仕活動に使わせて頂いています。その運用方法は株式です。株での運用には賛否両論ありますが、長い目で見ますとやはりこれまで実績がありました。しかし今回の株の値下がりには異常ですので、かなりの含み損を出しています。地区大会の頃に事務総長から知らせが来まして、2億2200万ドル値が下がっているということでした。しかし今すぐに換金の必要もないので、いずれは元に戻るでしょう」という説明でした。現況を見ますと今後、活用がしにくくなっていることは事実です。従って近い将来に、プログラムの変更もあるかと思えます。明後日、日本の財団担当者と会いますから詳しく聞いてきて、内容によっては事務総長に交渉したいと考えており、きちっとした段階で

皆様方にも連絡させていただきます。皆様方には国際奉仕担当の理事として、これらの問題もご認識頂きたいと思えます。

ロータリー財団はまずプログラムありきです。そのプログラムを行うためにはお金が要りますので、それをご寄付頂くということをお願いしてきました。したがって寄付したお金がプログラムに使われないようなことは、あってはならないと思えます。ですから徹底的に調査して、交渉も行うつもりです。

ロータリー財団と国際奉仕委員会とはCLPでは特にはっきり分けられています。国際奉仕は社会奉仕・職業奉仕と一緒に奉仕プロジェクト委員会に入れられており、これはいけないことだと考えます。はっきり四大奉仕部門に分けられていますから、その部門別にいろいろ考えて努力して頂き、総じてクラブの方針を決めて頂きたいと思えます。日本は島国で国外の情報が入って来にくい状況にありますので、特に国際奉仕ははっきりしておいた方が良く考えます。

国際奉仕部門には世界社会奉仕活動と青少年交換があります。青少年交換を経験されますと皆さん、国際的な視野が広がり非常に成長されます。またそのような方とお付き合いをして頂きたいと思えますし、ただ話を聞くだけでも感動を覚えます。世界社会奉仕は元々は各クラブの会員の方が自分の商用旅行のついでに、発展途上国のロータリークラブでメーキャップし、話をしたところ困っているので何とかしてあげたいと思ひ、帰国して自分のクラブで相談をして手を差し伸べたというものです。その後、良いプログラムだということで世界的に広がり、発展途上国でのニーズのリストが出来てきました。当地区では近隣の発展途上国にチームを組んで行くようになりました。

先日、バングラディッシュの地区大会に行ってきました。そこはニーズでいっぱいでした。識字率は非常に低いし学校もお粗末なものでした。食料も水も十分にありませんし、井戸を掘ってもヒ素が岩石に含まれているため、ほとんど飲めません。地区大会にはロータリアン4,000人中、1,000人が集まりました。著名な講師を招き話を聞き、いろいろな問題について討議して、今後の事業を選んで実施するわけです。私は多くの発展途上国に行きましたが、たいていは日本人の私のところにいろいろと頼みに来るわけですが、バングラディッシュではそのようなことはありませんでした。ねだることなく自分たちで何とか解決しようと、熱心に話を聞き、討議していました。教えに行き、逆に教えられることが多かったという印象がありました。

日本国内の地域社会においても社会奉仕活動として、まだまだやるべき事が多くあります。国際奉仕活動も回りの国には多くのニーズがあります。それぞれのクラブに合ったものを見つけて頂いて実施し、参加して頂き、そして感動して頂きたいと思えます。

世界社会奉仕について

(次期世界社会奉仕委員長 委員長 中野 一郎)

次年度RI会長も強調事項として、水保全・保健と飢餓・識字率向上を掲げています。各クラブでの社会奉仕事業を振り返って頂きたいと思いますが、水問題を考えた場合に例えば水源の保全ということで、河川の清掃活動等に参加されていると思います。保健を考えた場合は、エイズの啓発活動や献血をされていると思います。飢餓については、日本では食べ残しのゴミ問題のほうが深刻です。教育では青少年の健全育成に力を入れていると思います。

一方、世界に目を向けますとバングラディッシュや南インド、スリランカ、フィリピン、カンボジア、ネパール等が水問題で困っています。保健について海外ではエイズが問題になっており、特に南アフリカが深刻です。世界中で約7秒に1人の割合でHIV患者が増え続けています。飢餓の問題ですが現在、8億～10億人の人々が飢えに苦しんでおり、栄養失調で亡くなる人は年間約1,800万人です。世界中の5人に1人が、1日の生活費1ドル未満で暮らしています。そのような発展途上国にあるロータリークラブは、社会奉仕活動として日々活動されています。

世界社会奉仕(WCS)とは、2カ国以上のロータリークラブが協力し、地域の社会奉仕活動を行うものです。RIの強調事項は国際奉仕部門にかかっています。

次年度の当委員会の基本姿勢ですが、水保全・保健と飢餓・教育(識字率向上)を掲げたいと思います。各クラブの自主性を最優先するために、IMまたはクラブ主導型のWCS活動を推奨したいと考えており、その目標を達成する上で必要な情報と支援を提供したいと考えています。WCS活動を通じて各クラブ、会員の国際理解と平和親善をより推進出来ればと思います。

活動計画ですが、クラブ委員長会議を8月1日に開催します。次に、当地区では皆様のWCS活動を支援するために、独自の地区ファンドを持っています。これは会員1人当たり6,000円を上限にした同額補助です。クラブからの申請がありましたら審査を行い、ファンドの適正運用に努めるとともに、皆さんの活動の支援を行いたいと考えています。もし次年度の予定が決まりましたら事前にご相談下さい。

地区ホームページの活用についてですが、IT委員会の協力のもとWCSの項目を設けています。またロータリージャパンのWCSからは、世界中の国々から支援要請が来ているようなプロジェクトを検索出来ますので、次年度のクラブのプログラムを見つけて頂くのも良いと思います。

海外視察ですが、会員の皆様に更なる国際理解を深めて頂くために、実際に支援国に足を運んで頂き、WCSプロジェクトの視察と検証をして頂くように考えています。次年度の予定は、詳細等が決まり次第、各クラブにご案内致します。

IM単位での会議については、各IMにて要請がありましたら、世界社会奉仕についての理解を頂くために会議を催したく考えています。またクラブ単独や数クラブ合同でも喜んで行きますので、ご検討よろしくお願い致します。多くの会員様にWCS活動の理解と参加を賜りたく考え、啓発活動に努めたいと思います。



青少年交換について

(次期青少年交換委員長 豊岡 敬)

青少年交換は、短期及び長期の交換留学プログラムです。まずは長期プログラムのご説明からさせていただきます。

長期プログラムは高校生を対象としたプログラムで、大体8月から7月までの約1年間日本から海外への学生の派遣、そして海外から日本への外国人学生の受け入れを行います。交換学生はそれぞれの国でホームステイをしながら現地の学校に通います。このプログラムに参加して頂く各クラブには、スポンサークラブとして派遣学生のお世話を頂くのと同時にホストクラブとして受け入れ学生のお世話を頂くこととなります。

このプログラムの目的は、感性豊かな若い人たちに外国での生活を通じて外国の文化・習慣・価値観を経験させ国際感覚を身に付けさせて将来の国際相互理解と世界平和の推進の原動力になって頂くことにあります。また、交換学生達は「小さな親善大使」と呼ばれて、日本と外国との間に「友情の架け橋」を築き、派遣国において自国を紹介するという責務も負っております。我々2640地区青少年交換委員会では本年度より近隣の2660地区や2680地区と協力関係を構築致しまして、3地区合同の行事等も開催しております。4月にも3地区合同の2泊3日のバスツアーを開催致しまして、四国・倉敷・広島・姫路等を訪問致しました。近年、国内の各地区共に交換学生数が減少しており、地区単独で行事開催を行う効果やコストの点を考えると、合同で行った方が良からうという趣旨でございます。

今回の旅行で特筆すべきことは、広島にて千羽鶴の奉納を行ったことでもあります。これは、2660地区のアメリカ・ニューヨークから来日している Aubery さんという学生が発案したことで、皆で鶴を折り、平和への願いを込めて奉納しようということでした。各地区で3百数十羽ずつ役割分担することになっていたのですが、各学生ともにコツコツと自宅で折ってきた鶴が沢山あり、全部合わせると3,000羽になっていました。奉納式では広島西ロータリークラブに大変お世話になりました。式典で発案者の Aubery さんが代表でスピーチを行いました。素晴らしい日本語でのスピーチで感動致しました。単に日本語が上手というだけではなく、内容的にも聴く者に平和への想いが十分伝わるものでありました。彼女が訴えたことは、広島で起こった悲劇、その犠牲になった人たちの殆どが非戦闘員で、罪のない一般の市民であったこと。だからこのような悲劇は二度と起こしてはならないということでした。このスピーチを聞きまして、世界平和と国際理解という点で、我々が行っている事業が少しは前進しているという手応えを感じました。

日本語でのスピーチという点におきましては、我々の地区の交換学生も負けてはおりません。来日してから9ヶ月程が経過しましたが、皆かなり上達しました。我々は機会あるごとに受入れ学生に日本語でのスピーチを課しております。オリエンテーションの際には必ず日本語でのスピーチをやって頂いております。7月に最終のオリエンテーションを行います。その時には最も感動的なスピーチが披露されるのではないかと考えております。

一方、派遣学生の方も7月後半から8月にかけて帰国してきます。いつも思うのですが、派遣前にはひ弱な印象の強かった学生さんたちが、非常に逞しくなって戻ってきます。そして、1年間海外で生活できたことを感謝し、本当に良かったと口々に言ってくれます。クラブにおいても、月に1回は例会に呼び、スピーチをさせたり、様々な行事に参加して頂くことによって、クラブが活性化しますし、また若い人たちの成長に貢献していることを実感できる醍醐味があります。

近年日本全体では 350 名程の学生が全世界では 8,000 名程の学生がこのプログラムに参加しております。当地区においては、本年度はアメリカ、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、インドネシアから 5 名の学生の受け入れを行っております。先程申し上げたように、ここ数年は派遣の希望が減少してきております。また本年度は全て大阪府下からの派遣で、和歌山からはゼロになってしまいました。それで、我々も危機感を持ち、和歌山での青少年交換の灯を消してはならないと、和歌山県や和歌山市の教育委員会にも PR に行きました。また、ご当地田辺市出身の村上エレクトのご尽力もありまして、次年度は和歌山 6 名、大阪 4 名の合計 10 名まで回復をし、相手国はアメリカ、ブラジル、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、フランスとなっております。実は海外から日本への希望者は非常に多く、本年度も相手国決定後にも当地区と何とか交換ができないものかと随分とラブコールがありました。

実際に学生さんたちが海外に行っている期間は 1 年弱なのですが、準備から帰国までのワンサイクルは 2 年、ロータリーの年度でいうと 3 ヶ年にわたる長丁場になります。お手元の募集要項をご参照頂きたいのですが、2010-11 年度はこのような内容で募集を募ります。各クラブの地元の高校にて募集を掛けて下さい。派遣希望者に対し 10 月に選考試験を行います。2010-11 年度は十数名程度の派遣を予定しております。合格者に対して、10月・12月・2月・5月・7月と計 5 回の派遣準備のためのオリエンテーションを開催致します。各オリエンテーションにおいては VISA 取得に必要な事務手続きの指導を始め、交換学生としての心構え、日本の文化や歴史に対する理解を深める指導や渡航準備に対する指導等を行っていきます。また毎回のオリエンテーションでは英語もしくは相手国言語によるスピーチをして頂きます。そして 8 月頃に日本を出発し帰国は翌年の 7 月あたりになります。

各クラブと地区の役割分担ですが、相手国との窓口は全て地区青少年交換委員会が対応いたしますし、又派遣学生と受け入れ学生に対するオリエンテーションも地区で行います。クラブの方では、ホストファミリーや受け入れ高校への対応、それに派遣学生と受け入れ学生へのカウンセラーをお願いすることになります。他地区では、地区委員会にて学校での募集・選考を行い、地区で決めた学生さんを各クラブに振り分けていく方法を検討されているところもあります。しかしながら、2640 地区ではロータリーの主体は各クラブにあると考えており、あくまでも青少年交換の趣旨にご賛同頂いたクラブに募集からして頂き、地区委員会はそれを側面からサポートし、足りない部分を補完するといったスタンスをとっております。

次に短期プログラムについてのご説明をさせていただきます。短期プログラムは、大体夏休みの期間を通じて数週間程度の派遣と受け入れを行います。短期プログラムではホームステイが中心で、学校に通うことはありません。ホストファミリーは、派遣を希望されるご家庭にてお願いすることになっております。まず、相手国に数週間行って頂き、相手国の派遣を希望されるご家庭にてホームステイをして頂きます。その後、相手国の交換学生と一緒に日本来て頂き、同じようにホームステイをして頂きます。派遣・受け入れは年度によって順番が変わることがあります。次年度については既に交換学生は決まっておるのですが、当地区はオランダとの交換を予定しております。期間は短いですが、目的は長期と同じで、国際親善と国際理解です。短期プログラムは、受け入れホストファミリーや受け入れ高校を探す必要がありませんので、比較的簡単に取り組むことができます。青少年交換の入門編のように考えて頂ければ結構かと思えます。ですから、過去において一度も青少年交換にトライをされたことが無いようなクラブにはお勧めです。ぜひチャレンジをしてみてください。

それから、青少年交換プログラムは、長期も短期も財団奨学生とは違ってロータリアンの子弟

の参加が可能です。そもそも、1929年にヨーロッパにて始まった青少年交換事業は、当初はロータリアンの子弟同士をお互いに預かり、若いうちに他人の飯を食べる経験を通じて逞しく育てていくといった趣旨でありました。それを、広く一般にも門戸を開いたのが今日の青少年交換であります。ぜひこの機会にご自身のお子さんの参加も含めて積極的なご参加をお願い致します。最後に危機管理についてのご説明をさせていただきます。これは最近RIの方から強く言われていることなのですが、各地区において危機管理に対する対応を十分取るようにとされておりまして、その点が不備な地区はRIから不適格とされて青少年交換プログラムに参加出来なくなってしまいます。日本国内の全ての地区は適格とされておりまして、世界中では不適格とされている地区が少なくない数存在しております。これは、交換学生からホストファミリーや、その他ボランティアからセクハラや虐待を受けたということで、裁判にまで発展したことが起因しております。実際に日本では、セクハラや虐待が発生したことは皆無であり、世界的にも極めてレアケースであります。長い歴史の中でアメリカとオーストラリアであったと聞いております。これに対応する為に、RIからは全てのボランティアから犯罪記録を提出させて、問題のない事を証明するようにとされておりまして、日本では個人情報・個人のプライバシーに係わることであり、実際問題不可能です。それで、日本では全てのボランティアにセクハラ・虐待をしないことの宣誓書を提出して頂くことでこれに代えております。また、日本のガバナー会の方で、セクハラと虐待に関する訴訟を担保する損害保険に加入をしております。青少年関係の危機管理は、決してセクハラ・虐待だけではありません。事故や犯罪に巻き込まれたり、病気や治安の問題といったものもあります。これらに対処するために、地区には危機管理委員会を組織しており、本年度は平尾パストガバナーに委員長をして頂き、私も委員会に名前を連ねております。いざ事が起こった時に、マスコミを始めとして対外的な窓口を危機管理委員会に一元化して対応をしていくことになっております。

現在懸念されることは新型インフルエンザの流行です。幸い当地区ではメキシコとの交換は行っておりませんが、今後どのような事態に推移するか予測できません。我々地区委員会としては、外務省の通達に従い対応をする所存です。ですから、外務省から渡航延期勧告や早期帰国勧告が出た場合には、その対象国との交換は取りやめるということになっております。交換学生の安全を第一に考えてプログラムを進めていく所存です。

オン・ツウ・モンリオールについて (次期オン・ツウ・モンリオール委員長 田上 雅信)

年次国際大会の主たる目的は、国際レベルにおいて、全ロータリアン、特に、次期クラブ会長、ガバナー・エレクト、RIおよびロータリークラブの次期役員を鼓舞、激励し、かつ情報を与えることによって、地区レベルとクラブレベルにおけるロータリーの発展を活発に推進しようとする意欲を起こさせることである、と手続要覧に記載されています。

オン・ツウ・モンリオール！

2009～2010年度、ロータリー世界大会は北米、カナダのモンリオールで開催されます。本日はそのモンリオールのご紹介をさせていただきます。皆さん、モンリオールと聞けば何を思い浮かべるでしょうか。そうです。1976年にオリンピックが開催されております。そこで質問です。1976年モンリオールオリンピックは夏季、冬季どちらの大会だったでしょうか。

正解は夏季大会です。一見、アメリカ大陸の北側でカナディアンロッキーなどを思い浮かべ、冬季大会、と答えたかったところですね。(ちなみにモンリオールの前の夏季オリンピックは

1972年のミュンヘンオリンピック、後は1980年、西側諸国がボイコットしたモスクワオリンピックです。) 実はモントリオールは過ごしやすい気候に恵まれ、夏のオリンピックにぴったりのところだったのです。そんなモントリオール世界大会に、是非参加しましょう。広大な国土をもつカナダの東、ケベック州最大の都市で、カナダ全体でもオンタリオ州トロントに次ぐ規模の都市です。モントリオール都市圏の人口は約350万人で静岡県の人と同じくらいです。面積は約4千km²で滋賀県程度です。

また、住民の大半はフランス系で、第一言語をフランス語としております。(多くの住民は英語も話します。) これはパリについて世界第2の規模を持つフランス語圏の街で「北米のパリ」と言われています。(ちなみに南米のパリはブエノスアイレス、中東のパリはバイルート、東洋のパリはプノンペンといわれています) そんな欧州の面影を街中に感じるモントリオール。旧市街地のフランス風街並み。モントリオール美術館やサン・ジョセフ礼拝堂、世界の女王マリア大聖堂、モントリオールノートルダム聖堂(見事なステンドグラスが有名)など、見所もたくさんあります。もちろん、モントリオールオリンピックスタジアムもあります。

カナダといえば大自然。セント・ローレンス川沿いにケベックシティーまでは、あまりにも有名な「メイプル街道」として、カエデの紅葉を楽しむ観光ルートとなっております。北にはローレンシャン山地があり、夏はキャンプ、冬はスキーでにぎわいます。また、オンタリオ州トロントの近くのナイアガラ・フォールズ市では、世界的に有名なナイアガラの滝が見られます。それから、ルーシー・モード・モンゴメリーの「赤毛のアン」の舞台になった、プリンスエドワード島のキャベンディッシュはモントリオールから飛行機で1時間弱。そんなモントリオール。日本では広島市が1998年に姉妹都市の提携をしました、ほかに韓国プサン、中国上海、英国ロンドン、もちろん仏のパリも姉妹都市になっています。

さあ、2009～2010年度R1世界大会は2010年6月20日(日)～23日(水)です。世界各地から多数のロータリアンが参加するロータリー世界大会。われわれ第2640地区もこそってモントリオール世界大会に参加しようと思います。前夜祭の第2640地区『ジャパンナイト』は国際大会に参加いただいた地区会員とご家族の親睦を深め、会員皆様のご活躍に感謝し、2010年7月よりガバナーに就任されます、米田眞理子ガバナー・ノミニーのお祝いをする事としておりますので、堺フェニックスの皆様始め各クラブの多数の皆様には是非とも参加登録、よろしくお願い致します。

なお、先遣隊として、6月21日から開催される2008～2009年英国バーミンガム世界大会に田辺クラブからも数名参加します。大会会場で再会できることを楽しみにしています。その時は、よろしくお願い致します。

質疑応答

Q: DDF 45万ドルの内の30万ドルをビル・ゲイツ財団から提案のポリオの特別寄付に充てるとの話でしたが、財団奨学生の規模は縮小されますか? また当クラブでは年に1回、ロータリーカレッジという勉強会を行っています。今回は決議23-34について勉強の予定ですが、その現状についてお教え下さい。(有田RC)

A: ポリオの件ですが、ビル・ゲイツから当初提案のあった1億ドルと、国際協議会で提案のあった2億5,500万ドルの寄付について、ロータリーとしては2億ドルを集めることになりました。現在、当地区にはDDFが約455,000ドルあります。最近では財団奨学生への希望

者が減少しており、また合格者が辞退される場合があります。これまでは余れば次年度への繰越しが出来ましたが、2013年以降は出来なくなります。今、DDFから30万ドルを寄付すると、R財団からその半分を出して頂けます。従って30万ドルが45万ドルになるわけです。このことを先日の地区大会におきまして承頂きました。財団奨学生に使われる奨学金がおろそかになることはありません。むしろ今後、奨学生を増やしたいと考えています。

R Iの理事、歴代会長は決議23-34についてほとんど知りません。決議23-34を消すことをR I理事会に提案した人は、国際ポリオプラス委員長でした。決議23-34の第5項にロータリークラブとR Iの関係について定めてあります。ロータリーは各クラブに主権があり、R Iはクラブがしようとするを禁じたり命じたりしてはならない、と書かれています。ポリオプラスのように大きな仕事をしようすると邪魔になるわけです。時には手続要覧から決議23-34が消えてしまったこともあります。日本からクレームをつけて元に戻したりしてきました。ついに2007年11月の理事会で、破棄することが承認されました。しかし日本からまたクレームをつけて、クラブ細則に掲載されました。ところが昨年11月に東京で開催されましたロータリー研究会において、R I会長・副会長・執行委員会委員長が出席され、私は最後の質疑応答の時に決議23-34の扱いについて意見しました。手続要覧には過去の歴史的文献として掲載されることになっていましたが、その時の回答はそうではありませんでした。その後、R I理事会において“歴史的文献として”という文言が削除されましたので、元に戻ったということになります。決議23-34がなぜ大事かと言いますと、ロータリーの哲学に関して解説し、ロータリーとは何か、ロータリークラブは如何あるべきか、ロータリークラブと国際ロータリーの関係は如何あるべきかを説いているからです。

(中島パストガバナー)

総 評

(西山 利昭 次期ガバナー補佐)

午前中は村上ガバナーエレクトの熱い所信表明をお聞き、午後からも委員長会議で勉強させて頂き、私もロータリーに対する熱意が湧いてまいりました。次年度は勉強をやり直して、皆様と共に頑張り悔いの無き一年にしたいと思います。

せっかく頂いたご縁ですので、大切にガバナーエレクトの方針及び考えを正しくお伝えし、各クラブが活性化するようお手伝い出来ればと考えていますので、どうぞ宜しくお願い致します。

(三村 文男 次期ガバナー補佐)

皆さんはロータリー以外の方々からロータリーは「何をしているのか」よく聞かれます。「寄付する団体」か、私のゴルフ仲間からも皮肉って、「大人の幼稚園」行くのか、ともいわれる、その言い訳と反論はまず「国際奉仕事業」の説明で解かってくれます。

ロータリーに入会して思ったことは、国際奉仕事業がなかったらロータリーの説明がつかないとおもいます。今まで海外多くの国に観光など行きました。その国の名所と国の表の良い所の見学でした。

ロータリーに入会後所属クラブがタイ・ルンピニと姉妹クラブ締結し交流が始まり、世界社会奉仕(WCS)事業でその奉仕の達成感を味わいました。

また成川ガバナー年度に中島パストガバナーをリーダーとして、歴代のパストガバナー総勢80名でインド・ムンバイ・スラムへのポリオワクチンの投与に参加しました。また他の年度に

も地区のWCS事業に参加して、その国のロータリアンとの交流により、援助を必要とする人々の生活改善と質を高めることに貢献できた達成感が、私が、今ここに居られるとっております。私はクラブが継続的に国際奉仕に取り組むことはクラブの目標が見え、活性化に繋がり、会員のクラブ退会防止につながると思っております。各クラブの事情はあると思いますが国際ロータリー2640地区が活性化するために少しでも国際奉仕の重要性を共有できたらと思っております。

今日の講評とのことですが、私の感じたことを報告させていただきます。中島パストガバナーのいつものことですが、国際奉仕について分かりやすく説明頂き、また中野委員長他各委員長さんからは地区の方針を、きめ細かく説明頂き、各クラブの委員長にはわかりやすく説明頂いたと思っております。

終わりに、この事業の大切さに「お金と時間」を気にせず、率先して取り組んだ先輩各位に感謝したいと思っております。次年度テーマと、村上ガバナーエレクトの国際奉仕の重要性と「世界の人々との縁づくり」に、取り組むことを引受けてくださった委員長さん他関係の方、クラブの担当者方々に感謝します。そして私も皆様の一員として全力で取り組み、次年度事業の成功を願い、よろしくお願いして私の言葉とします。

（大澤 徳平 カウンセラー・パストガバナー）

本日の会議は非常にわかりやすく説明をされていたので、ほとんどの皆さんはご理解されたことと思っております。その上に中島パストガバナーがこの席にいらっしゃったお陰で、国際ロータリーの考え方や中身までも詳しくご説明頂きましたので、理解が深まったのではないのでしょうか。財団の奨学生はロータリアンの関係者は申込み出来ませんが、青少年交換学生へは申込み出来ます。このようなことを案外ご存知ない方もおられます。どうかお帰りになりましたら7月までの間に、手続要覧の国際奉仕関係のところを読んでみて下さい。そうしますと自分の担当が、非常に重要なクラブの中の国際担当理事になっているということを実感されると思っております。ロータリーは役が付きますと、1年間はその役を十二分に果たして頂き、後悔のない1年を過ごして頂きたいと考えます。

モントリオールは英語圏ではなくフランス語圏です。以前、ケベックRCに行かせて頂いた時は日本語を英語に、英語をフランス語に訳して、自己紹介をさせて頂いた覚えがあります。非常に紳士的な国で、素敵なロータリークラブでした。ロータリーは素晴らしい組織です。話を聞くだけではなくて、それを体験することによって実感しますので、是非とも国際大会のご参加をお勧め致します。



部門別協議会

ロータリー財団部門

カウンセラー・アドバイザー

三軒 久義 パストガバナー
 亀岡 弘 パストガバナー

SAA:

荷稻 實・鎌塚 晋作

進行:

岩本 行弘

ガバナー補佐・委員長

山本 昇三 IM6組ガバナー補佐
 岩本 行弘 ロータリー財団委員長
 吉野 惣太 財団奨学金小アドバイザー
 初田 隆生 財団奨学金小委員長
 中川 優 財団研究グループ
 交換等委員長
 高寺 壽 財団学友委員長



挨拶

(カウンセラー・パストガバナー 三軒 久義)



本日ご出席の亀岡パストガバナーは、ガバナーをされる以前に財団奨学金委員長を経験されております。後ほど詳しく総論についてお話して頂きたいと思っております。また各委員会からご説明頂いた後、皆様方からご意見を頂戴したいと考えています。

ロータリーそのものも変わってきていますが、ロータリー財団も変わりやすいところがあります。従って毎年、変わった部分を学んでいく必要がありますので、財団はよく会議が開催されます。

皆様方からは是非、お考えやご意見を出して頂いて、今後の地区の運営に反映させたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

挨拶

(次期ロータリー財団委員長 岩本 行弘)

平素はロータリー財団に格別なるご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。本日の資料は、昨年11月19日に、東京で開催されたセミナーで使った「ロータリー財団地域セミナー・ハンドブック」を用意いたしました。このハンド・ブックは、大変分かり易く、具体的に解説してありますので、いつも手元において頂き、ロータリー財団の参考書としてご活用ください。また、ロータリー財団につきましても、手続要覧第4部「ロータリー財団」に記載されておりますので、参考にしてください。

本日のプログラムですが、まずロータリー財団全般のお話をしてから、ロータリー財団国際親善奨学金、研究グループ交換、財団学友、寄付金、未来の夢計画、そして最後にまとめと、質疑応答の時間を予定しております。



ロータリー財団について

(カウンセラー・パストガバナー 亀岡 弘)

ガバナーになる以前、財団には10年ほど関与していました。それ以降も変更になる度に勉強してきましたが、最近の変更は特に激しいように感じます。財団を部分的にはご存知でも、全体を掴んでない方は意外と多くおられますので、全体像をкаいつまんでお話をさせていただきます。

ロータリー財団は1917年にアトランタで開催された国際大会におきまして、「全世界的な規模で慈善・教育、その他の社会奉仕の分野でより良きことをするために基金を作ろう」と提案されたことに端を発しています。1928年の国際大会で“ロータリー財団”と名づけられ、1931年に信託組織となり、1983年に非営利財団法人となりました。

ロータリー財団を構成する法人会員は国際ロータリーのみであり、ロータリー財団の正式名称は“国際ロータリーのロータリー財団”です。国際ロータリーと法的に組織は違っても、その目的・使命・活動は両者ともに一体のものです。

ロータリー財団の使命は、ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への使命を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解・親善・平和を達成出来るようにすることです。標語は、『世界で良いことをしよう』です。**優先事項**は、●全てのプログラムと運営を簡素化すること。●プログラムの成果も内容も、未来の夢計画に沿ったものにすること。●地区レベル、クラブレベルにおいてロータリー財団により一層参加し、ロータリー財団を自分達の財団と自覚すること。●プログラムの目標達成のための十分な資金と人材を提供すること。●未来の夢計画を支える効果的な方策を開発すること。となります。

未来の夢計画に基づく新補助金についてですが、①ロータリー財団新地区補助金：現行の地区補助金と似ていますが、多くの点で異なります。またロータリーのない国でも事業を実施出来ます。②ロータリー財団グローバル補助金：平和と紛争予防・紛争解決、疾病予防と治療、水と衛生設備、母子の健康、基本的教育と識字率向上、経済と地域社会の発展、といった6種類の重点分野に実施します。

ロータリー財団のプログラムと財団への寄付金の行方についてお話しします。プログラムは次の3種類に大きく分けることができます。①人道的プログラム（マッチング・グラント、地区補助金、ボランティア奉仕活動補助金、3-H補助金）②教育的プログラム（国際親善奨学金、世界

平和フェローシップ、研究グループ交換、大学教員のためのプログラム、ロータリー平和および紛争解決研究プログラム) ③ポリオ・プラス・プログラム、となります。寄付金も大きく分けて3種類あります。①年次寄付：寄付の基盤であり、使い道を指定することなくロータリー財団に寄付するものです。寄付して3年後に地区の年次寄付総額の50%が地区活動資金(District Designated Fund=DDF)、他方の50%が国際財団活動資金(World Fund=WF)として使われます。年次寄付の認証はポール・ハリス・フェローです。②恒久基金寄付：恒久基金寄付への認証はベネファクターです。③使途指定寄付：あらかじめ使い道を決めて寄付するもので、その代表例はポリオ・プラスです。

寄付金の行方ですが、『第1ゾーン～第4ゾーンA ロータリー財団地域セミナーハンドブック』の“ロータリー財団への寄付の行方”114ページのスキームを参照して下さい。

ポリオ・プラス・プログラムは1985年の国連の40周年に当たるその時、ロータリーは1億2,000万ドルを集めるという声明を発表し、1986年7月からスタートしました。ビル・ゲイツ財団からの訴えもあり、国際ロータリーは“ロータリーの2億ドルのチャレンジ”と銘打って、2012年6月30日までに特別寄付の募金活動を行います。

ロータリー財団への寄付について、国際ロータリー日本事務局の日本ロータリー奨学金委員会に一括20万円以上のご寄付を送金して頂ければ、税制上の優遇措置が受けられます。

簡単に話をしましたので、ご理解頂けなかったところもあるかと思いますが、ハンドブックをご一読して頂きたいと思います。

国際親善奨学金について

(次期財団奨学金小委員会アドバイザー 吉野 惣太)

ロータリー財団は1917年の国際大会において提案されてから、実際に動き出すまで30年近くかかっています。どうして動き出したかと申しますと、1947年にポール・ハリスが逝去した時の電報に「献花のかわりにロータリー財団に寄付をしてほしい。」とポール・ハリスの具体的要請の知らせがあり、それ以来寄付が集まるようになりました。その翌年から財団奨学生を派遣出来るようになりました。

国際親善奨学金の特徴はカウンセラー制度にあります。学生の留学先でロータリアンがカウンセラーとしてお世話しますので、異なる文化にもスムーズに導いてくれますし、トラブルの対応にもお手伝いして頂けます。当地区からは年間約10名の奨学生を出しています。

次年度の内容がまだはっきりとわかっていませんので、本年度の内容でお話させていただきます。当地区の親善奨学金の種類は、①1学年度、②マルチイヤー、③3ヶ月・6ヶ月の文化研修、となっています。応募資格年齢は、30歳代くらいまでとなっており、1学年度で留学される方については、特に留学先国のかなりの語学力が要求されます。ロータリー関係者やその配偶者、子または孫でないことや、クラブ退会后3年間は応募出来ない、といった条件があります。1番大切なことは“親善”を果たせることです。

毎年1月頃から募集を始めており、4月中頃までに地区内のロータリークラブに申込みを行って頂き、面接して頂いてから地区へ申し込んで頂くこととなります。その後、一般常識問題・小論文・語学・面接等の地区の選考試験を受けて頂きます。合格者数は特に決めていませんので、多くの優秀な方を選考したいと考えています。

今後、次年度の具体的な話をさせて頂く機会があると思いますが、今月の5月7日に情報が入りまして、1学年度以外の奨学金は無くなる可能性が出て来ました。この件を含め、より具体的

な内容を、次回9月の財団委員長会議でお伝え致します。

ロータリーは質の高い奨学生を海外に送り出し、草の根的ではありますが、良き想いの人々同士が繋がることで、世界平和に貢献しようと考えています。当地区からも良き人材を送り出したいと考えておりますので、皆様方にもご協力よろしくお願い致します。

国際親善奨学金について

(次期ロータリー財団委員長 岩本 行弘)

皆様方のクラブから奨学生を推薦して頂くわけですが、それに伴う金銭的な負担はございません。奨学生は地区の選考試験に合格されますと、オリエンテーションを受けて頂くこととなりますので、カウンセラーのロータリアンも一緒にご出席下さいますようお願い致します。逆に海外で選考されて日本の大学・大学院・語学学校で学びたいという奨学生もおります。そのリストが送られてきて、3ヶ月間の文化研修が3名、6ヶ月間の文化研修も3名、1学年度が1名来る予定になっています。村上ガバナーから皆様方にカウンセラーをお願いすることになると思います。但し、ホームスティはありませんので、その節はよろしくお願い致します。また国際親善奨学生は、奨学金の限度を越えた費用は自己負担になっていますので、金銭的な負担もございません。

財団研究グループ交換について

(次期財団研究グループ交換小委員会副委員長 山本 唯二)

当地区では2年に1回、財団研究グループ交換を行っています。本年度は次年度に向けての準備を行い、次年度は交換を実施し、そのGSE相手地区は北米の7150地区になりました。相手地区の地区大会に合わせて訪問することになっていますので、スケジュールを逆算し、団員の募集を行いました。本年度は多くの団員のご推薦を頂き、団長以下4名の団員を決定しました。出発は9月19日で、相手国で4週間滞在する予定です。受け入れは当地区の地区大会に合わせて来ることとなりますので、来年の3月25日に関西空港着となっており、4週間滞在することとなります。その担当をして頂くのは、今度は奇数のIMとなっています。また高野山へ行きたいとの要望がいつもありますので、毎回、高野山ロータリークラブさんには大変お世話になっております。滞在中はホームスティが主となっています。そして帰国後は帰国報告会や報告書の作成などの作業があります。

次年度はいろいろとご協力をお願いするかと思いますが、よろしくお願い致します。



財団学友について

(次期財団学友小委員会委員 川端 健夫)

まず運営方針についてですが、当委員会は財団学友会を支援・協力するのが主な活動です。財団学友会とは、元財団国際親善奨学生、元GSE参加者により構成される組織で、財団国際親善奨学生並びにGSE団員は帰国後、自動的に財団学友会会員となります。

財団学友は将来有望な人達であり、ロータリーの良き理解者でもあります。ロータリーにとっても学友にとっても、お互いの関係は大きな財産です。また学友は将来のロータリアン候補者でもあり、温かく見守っていきたいと思います。

学友委員会は、財団学友とロータリアンの良好な関係を維持するとともに、学友会の発展拡充を支援していきます。またスポンサークラブと学友の関係維持にも協力していきます。

事業計画は以下の通りです。

- ①帰国報告会の開催：毎年9月に開催されるクラブ財団委員長会議で、帰国奨学生による『帰国報告会』を開催します。
- ②財団国際親善奨学生のオリエンテーションに協力：委員による学友の義務等のレクチャー並びに学友による体験報告及び相談を行います。
- ③帰国奨学生が義務付けられている講演等の完了に協力：各クラブより要請のある卓話の斡旋・調整他を行います。
- ④IM等での会議に出席：学友委員会・学友会を理解して頂くための活動等を説明します。
- ⑤学友を地区大会等に招待：学友に地区大会等の会議に参加を要請します。
- ⑥学友会の定期的開催に協力：地区大会時に学友同窓会の開催支援、その他学友懇親会等の開催を支援します。また学友会の組織拡充支援を行い、ロータリーとの関係を維持強化し、将来のロータリー会員候補への道筋を保ちます。
- ⑦冊子「がくゆう」の発行：留学等の報告書、学友名簿など学友記録を最新のものに編集して年度末に発行します。

その後、推薦クラブは学友と連絡を取り合って頂き、変更等があった場合にはご連絡下さいますよう、よろしくお願い致します。

財団寄付について

(次期ロータリー財団委員長 岩本 行弘)

ロータリー財団への寄付金はなぜ必要なのでしょうか。答は簡単です。ロータリー財団への寄付（財源）がなければ、国際ロータリーの色々な奉仕活動は何も出来ないからであります。

私達は、7月と1月の2度に分けて、国際ロータリーに人頭分担金48ドルを支払っております。これは国際ロータリーの管理・運営するための会員の負担額で、国際ロータリーの職員の費用、出版物、維持管理費を賄っております。

そして色々な奉仕活動の補助金は、全てロータリー財団から出ているのです。

寄付金は大きく分けて、3種類あります。①年次寄付 ②恒久基金 ③使途指定寄付の3つです。それらの違いを意識して寄付される人は意外と少ないように思います。寄付される人の意思に沿った寄付金にして頂くために、会員の皆様によくご説明頂きたいと思います。

2001年の規定審議会で、ロータリー財団では、毎年1人当たりの寄付額を100ドル（年次寄付）にするという決議が採択されました。これは、当地区の目標額の半分です。しかし、ロータリー加盟国や地域によって、経済環境・社会事情はそれぞれ大きく違って、同じ100ド

ルに対する価値観も異なります。寄付金の多い地区も、少ない地区も平等にロータリー奉仕活動ができるように、国際活動資金（WF）が存在します。例えば、寄付金が全くない地区でも、GSEの交換費用はWFから出ますので、GSEプログラムに参加できます。またWFからマッチング・グラント補助金を受けることによって、平和プロジェクトを提唱して実行出来るようになります。

私達 2640 地区は、他の地区より多くロータリー財団寄付をしておりますが、それによって国際ロータリーの奉仕活動の推進に大きく貢献していることが、お分かり頂けたのではないかと思います。

●ポリオ・プラスの2億ドルチャレンジ寄付について

ポリオ撲滅運動は最終段階に入っております。あと数カ国のポリオを撲滅させると、世界的な偉業が達成されるのです。そこで、ビル・ゲイツ財団からの1億ドルの支援を受けて、2008年7月から、3年間の最初のチャレンジが始まりましたが、今年1月の国際協議会において、さらにビル・ゲイツ財団より、2億5,500万ドルの追加寄付が約束されました。それに応じて、ロータリーで2億ドル（1億ドル2回分）の寄付をすることになりました。

1人当たり合計200ドル程度の寄付が必要となったのです。まだ、最初の寄付金を分割で始まったばかりですので、さらにご負担をお願いするのは大変心苦しく、苦慮しておりました。3月に「ロータリーの2億ドルのチャレンジ委員長」から、DDFを活用してほしい旨の要請書がきましたので、DDFから拠出することを検討して、先日の地区大会第1日目の会長・幹事会の席上で、中島PGより説明があり、30万ドル拠出することで了承されました。現在、特別に50%のマッチング資金が出るようになっておりますので、45万ドルの有効活用ができました。したがって、当地区では次年度からのポリオ・プラスへの特別寄付キャンペーンは、しないことになりました。

●国際親善奨学生の受け入れについて

国際親善奨学生は、派遣だけではなく、逆に他の国から日本に来て、勉強する奨学生もおります。

3ヶ月文化研修生	台湾	2名、	米国	1名	（和歌山外国語学校）
6ヶ月文化研修生	台湾	1名、	韓国	1名	スイス 1名
1学年度	韓国	1名	（大阪芸術大学）		

合計7名の奨学生のホスト・クラブをお願いすることになりますが、そのときはご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

●2009-10年度のクラブにおける取り組み方

■財団奨学金

◎2010-11年度国際親善奨学生のカウンセラー（顧問ロータリアン）は、5回のオリエンテーションに奨学生と一緒に出席する。帰国するまでカウンセラーを務める。

◎2011-12年度国際親善奨学生の募集と推薦に協力。

◎受入奨学生のホスト・クラブとホスト・カウンセラーを引き受け。

■研究グループ交換

◎2009-10年度のGSE 団員派遣とニューヨーク州（7150地区）からの受入に協力。

■財団学友

◎クラブから推薦した財団学友との連絡を密にして、連絡先を把握する。

■ 寄付金

◎年次寄付、恒久基金、使途指定寄付の違いをよく理解して、寄付者の意向に沿った寄付をお願いします。

■ マッチング・グラント

◎海外のプロジェクトを支援して、マッチング・グラントを活用する場合、内容をよく検討して（人道的、緊急、RIの方針に沿ったもの）、綿密な資金計画を作成して、出来るだけ早く申請書を提出して承認を受ける。

WFのマッチング・グラントの枠が無くなれば、期の途中でも終了する。

以上のようなことを次年度の皆様方の計画書に入れて頂きたいと思います。

質疑応答

（次期ロータリー財団委員長 岩本 行弘）

Q：ロータリー財団はサブプライム問題でかなり損失を受けたと聞いていますが、どのくらいの金額を運用して、どのくらいの損失が出ているのか教えてください。

A：具体的な数字は、次の報告書に掲載されますので現時点ではわかりません。

Q：なぜ“ポリオ・プラス”という言葉を使っているのか分からなかったのですが、最近は意味合いが変わって来てるように思います。ハンドブックP77の「現在は、世界的なポリオ撲滅運動がもたらした遺産のことを指しています。」とありますが、“遺産”とは具体的にどういう意味ですか？

A：当時はポリオ以外に5つをプラスしてポリオ・プラスと呼んでいましたが、現在は実際にはポリオしか指していないと思います。

講 評

（三軒 久義 カウンセラー・パストガバナー）

最近はたくさん寄付を集めて、いろんな奉仕団体に負けないようにしようというのが、本部の意向になってきているように感じます。当地区はその方針に反対しています。ロータリー財団はその手段に過ぎないのに、どうも目的化しているように思います。手段であるということを頭に置いて頂いて、ロータリー財団の活動にご協力頂ければ幸いです。

難しい言葉や、ややこしい細かな点もありますので、何なりとお聞き頂きたいと思います。



部門別協議会

米 山 部 門

カウンセラー・アドバイザー

水田 博史 パストガバナー
 松下 光春 カウンセラー補佐
 河合 利晴 アドバイザー

ガバナー補佐・委員長

小門 薫子 IM3組ガバナー補佐
 山本 久 IM8組ガバナー補佐
 浦口 英尚 米山記念奨学委員長

SAA :

古久保和彦・矢野 好洋

進行 :

浦口 英尚



挨拶

(カウンセラー・パストガバナー 水田 博史)

「米山奨学事業」について

去る4月19日にカウンセラーと奨学生とのオリエンテーションがありました。お世話頂くクラブには、どうかお力添えをよろしくお願い致します。米山奨学会の財源は全て、皆様方ロータリアンからご寄付頂いているものです。本当に有難いですし、大きな力だと思います。しかし会員の減少に伴い寄付金も減少しており、現在の奨学生は約800名です。厳しい状況の中ではありますが、村上ガバナーエレクトは寄付の目標額を2万円とされていますので、強制は出来ませんが、今後ともご支援をよろしくお願い致します。

世話クラブになられていないクラブにおきましても、米山奨学生を見守って頂きたいと思ひますし、ご寄付も併せてお願い致します。世話クラブでは、是非、毎月1回は例会に招いて下さい。奨学金の渡し方にはいろいろな意見はあるかと思ひますが、その時に奨学金を渡して頂ければ良いと思ひます。

ただ単にお金だけのことではなく、米山奨学金の特徴は、世話クラブやカウンセラーがあり、奨学生の状況や今後の社会での貢献等について、心の問題まで考えているところだと思ひます。皆様方のクラブでの奉仕活動にも是非参加をするように促して下さい。それによってロータリーへの理解を深めてもらえますし、交流も深まると考えます。また奨学生の祖国と日本との交流の架け橋にもなって頂けると思ひますし、国際交流に繋がると考えています。どうぞよろしくお願い致します。



米山奨学事業現況について

(次期米山カウンセラー補佐 松下 光春)

各クラブの皆様方には、ご支援ご協力を賜っており、厚く御礼申し上げます。

昨今の会員減少と不安定な経済情勢により、最近では寄付金も減少してきています。ピーク時には20億円を越えていた寄付金が、現在では14億5,000万円となっています。この金額は奨学生に対する奨学金として、全額使われています。米山奨学会の基本財産は50億円、特別積立金が50億円近くありました。過去には1,100~1,000名の奨学生を支援していましたが、特別積立金を取り崩さずに、収入に見合った人数ということで現在は約800名となっています。当地区におきましては1億円を越えていた時もありましたが、現在は5,000万円余りになっています。このことに伴って毎年、1名ずつ奨学生も減っています。本年度は当地区で新しく採用した人は22名、継続者が6名です。

選考試験につきましては、当地区独自の方法で行っています。従来は面接試験のみでしたが、現在は電話によりやりとりや簡単な筆記試験、そして面接を行っています。全国的に見ても当地区の選考方法は注目されており、最近、大学推薦制度が定着してきており、優秀な学生を選考することが出来ています。

奨学生に中国の人が多いというご批判を受けることもあります。海外から約13万人が日本に来ており、そのうち中国人が65%を占めているというのが現状です。当地区におきましても65%が中国人で90%以上が東南アジアを含めた地域から来ています。したがって英語圏からはほとんど来られていないこととなります。採用の際にはなるべく偏らないように心がけてはいます。

また米山奨学会から、各クラブにいろんな資料が送られてきます。どうかそれらの情報を会員様にお伝え下さいますよう、よろしくお願い致します。

この7月から地区内の大学を回らせて頂き、米山奨学会の方針や現況をお伝えし、大学とのコミュニケーションを図っていきたいと考えています。

必ず守って頂きたいことは、クラブの例会に出席して奨学金を受け取るということです。その他にもいろいろな制約があり、それらに反した時には、本年度からは奨学金の打ち切りも含めて特に厳しく指導してまいりますので、ご理解をよろしくお願い致します。

次年度活動方針について

(次期米山委員長 浦口 英尚)

1952年に東京RCが米山梅吉氏の偉業を記念して始めた「米山基金」が、1967年に「財団法人ロータリー米山記念奨学会」として、全日本の地区共同事業として発展し、50年以上を経過しました。この間に世界104カ国約14,500名の奨学生をお世話し、更に今年度800名が増える日本最大の民間奨学団体となっています。数年来、制度の見直し検討が進められ、2006年度より新しい制度に移行しました。先輩達が築き国際的にも高く評価されてきた米山奨学事業を更に発展させて行き、世界平和実現の一助になり、日本がアジアのリーダーであるべく努力したいと考えています。

- ①地区の米山記念奨学委員会の組織は、ガバナーがトップに立った組織であることを明示した組織図を作成します。全クラブが目標額を達成して、地区目標を達成したいと考えます。
- ②委員会は「学友担当」・「寄付増進担当」・「奨学生選考」の3つの担当にわかれて、それぞれに計画立案を進めて頂きますが、実施に当たっては全委員が協力して行うものとします。

- ③各クラブの状況を最もよく把握されているガバナー補佐の方々に、担当クラブの米山奨学事業の理解促進と寄付増進の働きをお願いします。
- ④奨学生・学友・クラブ米山カウンセラーが参加して、本年は米山記念館を見学に行き、米山奨学金を理解します。(9月中実施の予定)
- ⑤10月米山月間には世話クラブにて米山奨学生の卓話を実施致します。世話クラブではないクラブへの卓話もご希望により実施致します。
- ⑥奨学生・学友とのコミュニケーションを計り、米山学友会を支援致します。
- ⑦地区大会に米山奨学生に参加して頂き、事業内容のポスターを掲示します。
- ⑧社会貢献活動を引き続き実施し、地域の中学生・高校生との交流を図ります。
- ⑨奨学生選考に関しては推薦大学を全て訪問し、一國に偏らない推薦をお願いし、大学推薦ならびに選考に関して、厳しい検討を重ねていきたいと思ひます。

ロータリアン1人ひとりが、米山奨学事業は「将来、日本と世界を結ぶ架け橋となって国際社会で活躍し、ロータリーの良き理解者となる人材の育成である」、更にこれが世界平和に繋がる事業であることを確信し、協力して下さることをお願い致します。

私は奨学生に対して、最低月2回はクラブに行くように言っています。そして、入り口にでも立って、会員の一人ひとりにご挨拶するように勧めています。従ってお世話クラブでは、そのようなご指導もよろしくお願い致します。また態度の悪い奨学生については、クラブからお申し出頂き、奨学金の打ち切りを行います。これによって奨学生の質も向上しているかと思ひます。社会貢献活動についてですが、クラブでの独自の事業等にも呼んで頂きたいと思ひます。



＜岬高校・ワークショップビデオ鑑賞＞

この事業は他地区にはない素晴らしい事業だと考えております。今後も継続して行っていきたく思ひますし、有田においても新規に取り組む予定にしています。この事業についても各クラブの皆様にご紹介して頂きたいと思ひます。



米山学友活動について

(次年度米山アドバイザー 河合 利晴)

私達は一生懸命行っているつもりでも文句を言われることがあります。「奨学金をばらまいているのか」、「なぜ中国人ばかりなのか」等ですが、その場で説明させて頂くようにしています。

奨学生に中国人が多い理由は、中国人の受験者数が多いからです。それはそもそも中国からの留学生が多いということです。次に韓国・台湾となっています。

ここ3年くらいで、米山は大いに変わってきたように思います。昨年からは選考試験に電話審査を実施しています。これだけでも大体はわかります。また日本語がわからないと世話クラブにご苦労をかけますので、日本語による筆記試験を行っています。その中に「あなたはロータリークラブと協力して、社会貢献活動が出来ますか？」という質問があります。原因はいろいろあるかと思いますが、あまり参加していない奨学生には地道に指導しています。

今後も米山の活動は進化していくと思います。先ほどのワークショップは今までになかったことですし、通訳活動等も行っています。ワークショップによって、学校の受験率が上がったのも1つの話題になりました。なかなか友達がなくて寂しい思いをしている奨学生もいますので、積極的に付き合ってください。

質疑応答

Q：最近の米山奨学会はクラブにとって馴染みが薄いように感じます。学友会の動きなどをもっと知って頂くと良いのではないかと思います。また選考方法もよく知られていないように思います。資料として、世話クラブのお名前を届けて頂きたいと思います。 (堺RC)

A：委員会で、どのような形で開示させて頂くかを検討したいと思います。

(浦口次期米山委員長)

Q：以前、「奨学生は自国に帰って、日本との架け橋になって欲しい」というように聞いていましたが、最近の奨学生は日本に残って仕事をする人が多いように思います。これについてどのようにお考えでしょうか。 (和泉RC)

A：現在までに約14,500人が世界に旅立たれましたが、2年ほど前ですが消息がわかっていますのは40%台です。就職について、日本で就職を希望している奨学生は多くいますが、現在の経済状況でうまくいっていないのが実状です。最近では母国に帰って、日本語の先生をされている方が多くなってきました。日本に残っている方は約20%だと思います。最近では特に奨学生には連絡を密に取り合うように指導していますので、今後は消息もかなりわかってくるものと考えています。 (松下次年度米山カウンセラー補佐)

Q：当地区では現在28名の奨学生がおられるとのことでしたが、和歌山・大阪方面でそれぞれ何名でしょうか？

A：和歌山方面では現在、和歌山大学と県立医科大学とで5、6名で、残りは大阪方面となっています。 (松下次年度カウンセラー補佐)

●
<DVD「素晴らしい仲間」鑑賞>
●

Q：世話クラブでないクラブがいろいろなプログラムに参加したり、奨学生と交流する機会を設けて頂くことは出来ますか？
(藤井寺しゅらRC)

A：現在は世話クラブ以外では、奨学生と交流の機会は全くありません。今後は検討してみたいと思います。
(浦口次期米山委員長)

Q：和歌山には4校しか対象校がないとのことですが、学校の数または留学生の数のどちらで奨学生の数を決めているのでしょうか？またどのような条件をクリアすれば良いのでしょうか？
(和歌山アゼリアRC)

A：留学生の数によって配分も決めています。また大学からの推薦がなければ試験を受けることが出来ません。

総 評

(水田 博史 カウンセラー・ガバナー補佐)

「米山とロータリー財団はお金集め」ということを耳にすることがありますが、これは誤解があると思います。その目的と趣旨をロータリアンの皆さんによく理解をして頂くことが大切です。クラブ委員長の皆さんには、どうかそのあたりをよろしくお願い致します。

(小門 薫子 次年度ガバナー補佐)

米山のカウンセラーを2回させて頂きました。世話クラブやカウンセラーを受けると、皆様からの寄付がどのように使われているか身近に感じる事によって、更に米山のことが理解出来ると思います。どうか是非、すすんで引き受けて頂けるように、よろしくお願い致します。

(山本 久 次年度ガバナー補佐)

以前の経験からですが、カウンセラーになったからには、奨学生の個人的な面倒もみる必要があると思います。資金次第で採用の人数も増えるわけですから、世話クラブになっていないクラブやカウンセラーになられていない方々におかれましても、ご寄付をよろしくお願いしたいと思います。



全体会議 部門別協議会報告と講評



司会／古谷典子：

ただ今から午後の部の全体会議を開催させていただきます。それでは順次、部門別協議の会長部門の方から進めさせていただきます。まず初めに会長部門のカウンセラーをして頂きました平尾パストガバナーからよろしくお願ひ致します。

平尾パストガバナー：



まず、会長としての心得①として小島パストガバナーが講演致しました。例会の充実について、マンネリ化しているクラブがあれば、特にクラブの独自性を出して、何とか変革して欲しい、とお願ひ致しました。

次に、私が前田ガバナー年度地区協議会の会長部門に出席した時に、前田ガバナーがおっしゃりました「リーダーたるものは度量と、勇気を持って、迷い無くご自分の思った道を進んで下さい。」というお話をさせて頂きました。

豊澤次期クラブ拡大委員長からは、「新しいクラブを作ることと一緒に考えて下さい。またクラブにも拡大委員会をお作り頂きたい。」という話がありました。

次に村上ガバナーエレクトから、ポリオの特別寄付に関するDDFのお話がありました。その後、地区協議事項を説明頂き、会長エレクトの承認を得ました。

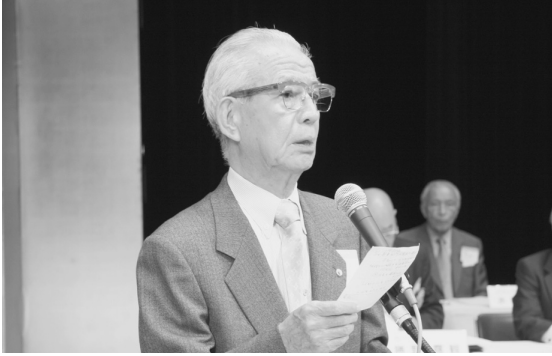
質問では、米山奨学生の選考についての質問があり、米田ガバナーノミニーから現地採用を検討している旨の説明がありました。

最後に坂口、山田両次年度ガバナー補佐の講評を頂き終了致しました。

古谷：

ありがとうございました。続きまして幹事部門より、中村パストガバナーによるしくお願い致します。

中村パストガバナー：



はじめに月山カウンセラーから、詳細にわたってクラブ幹事のやるべきことを全て説明して頂きました。特に強調されたことは、「事務的なことではあるけれど、それを心得て行わないと時に不備な点が出てくるので、最低、幹事要覧に載っているようなことは熟読して下さい。」ということでした。細部にわたりお話頂きましたので、皆さん納得されたと思います。

資料の27ページに“クラブ幹事とは！”について、箇条書きで記しておきました。幹事はクラブの肝心・要で、「幹事はクラブの情報の交差点である」ということを申し上げました。また次年度のテーマについて、若干ガバナーエレクトと違った解釈の点も申し上げました。決議 23-34 の5項に相当する“R1といえども、クラブの自主性を侵すことは出来ない。”という言葉、次年度のテーマに適用して頂きたいと思えます。

上野山次期情報・規定アドバイザーからは、さらに細かくクラブ幹事としての役割について、また規定審議会で議論されたことの情報も吸収するようにと、ご説明がありました。

西尾次期情報・規定委員長からは次年度のロータリー情報規定委員会の活動方針、特に「2010年規定審議会案件の整理検

討」についての説明をして頂きました。現在、地区から2件の案件を制定案として出していますが、その1点についてR1からクレームが来ました。それを検討した上で、クレームを拒否しました。そのことについて、私から説明申し上げました。

例年、幹事部門は質問が多く出るのですが、次年度の各クラブの幹事さんは大変穏やかですので、おそらく次年度は安泰だろうという自信を深めました。

古谷：

ありがとうございました。続いてクラブ奉仕部門から成川パストガバナー、よろしくお願い致します。

成川パストガバナー：



開会にあたり私から、地区協議会の目的や責務、そして協議会の終了まで席を立たないように、ということの話させて頂きました。そして委員長さんの就任前と就任後の責務や会員増強の支援源について話を致しました。

続きまして小林次期会員増強アドバイザーより、地区の現況を詳しくお話頂きました。今年度末で1クラブが脱会されるのにはショックを受けています。

倉次期会員増強委員長からは、会員増強のあり方について説明とお願いがありました。

次に私が担当させて頂きましたワークショップでは、前もってアンケートをさせて頂いておりましたので、それについて発表致しました。また各クラブの現況について、そ

れそれぞれご意見も頂きました。その後、事例研究ということで、テーブル別に意見交換を行って頂き、それぞれ発表して頂きました。

“「本当に裕福な人とは何か？知りたいのなら、どれだけのお金を持っているのかではなく、どれだけの友人を持っているのかを考えるべきだ。」という定義によると、ロータリアンは世界中で最も裕福な人々ではないでしょうか。32,000のロータリークラブに所属する120万人の友人が世界中に存在しているのですから。”

古谷：

ありがとうございました。続きましてクラブ奉仕部門より平岡パストガバナー、よろしくお願い致します。

平岡パストガバナー：



雑誌・広報委員会ならびにIT委員会を担当させて頂きました。

まず河合次期雑誌・広報委員長よりご説明頂き、次に大村次期IT委員長にお話して頂きました。手続要覧によると5つの常任委員会の1つになっており、重要な部門になっていると思います。広報活動を行うには各クラブや地区の活動を充実させなければ、広報しても意味がありません。広報活動を行うことによって、クラブ内の活力を高めることが出来ると思います。

我々の1番大きな悩みは会員増強です。今回の会議に出席させて頂き、広報活動やITを充実させていくことによって、新たな会員層を発掘出来るのではないか、とい

う印象を持ちました。ロータリーはもう若い人達の時代ではないか、と感じています。当地区では、まだまだITを利用される人のパーセントは低いですが、各クラブからの支援の要望等にも取り組まれるとのこと

古谷：

ありがとうございました。続きまして職業奉仕部門より勝野ガバナー、よろしくお願いします。

勝野ガバナー：



まず北岡次期職業奉仕委員長より、次年度活動方針・アンケート結果報告がありました。そしてIM別に討論会を行い、角谷次期職業奉仕アドバイザー、松生次期ガバナー補佐より講評を頂きました。

職業奉仕は非常に大切なもので、本年度も最も強調している事項の1つです。実践的な側面を強くして、各ロータリアンの職業上の問題について語り合う場を持たないのか、またもっと進んだ異業種交流の場があっても良いのではないかと、という具体的な行動についても考えて頂きたいということです。

皆さん、「四つのテスト」を重んじられており、英語版を読み直して考えてみようということでした。統一した和訳を地区から提出してほしいという要望がありました。また地区から職業奉仕についてのスピーカー派遣の要望もございました。

世のため、人のために活動することは素晴らしいことと思いますが、そのためには

まず、自分の職業をしっかりと確立しておかなければなりません。その職業が社会で正しく評価される職業であり、尊敬される職業であることが根本になると思います。職業奉仕で大切なことは、一言で言えば“信用”です。そして“恥を知る”ことです。以前は日本人として当然持っていたものでしたが、昨今においては忘れてしまっています。今後とも、職業奉仕の大切さを浸透させていく努力を続けていかなければならないと思います。

1番良い職業奉仕は、クラブの例会等において自分の職業体験を話すことであり、有意義なものになると考えています。

古谷：

ありがとうございました。続きまして社会奉仕部門から前窪パストガバナー、よろしくお願い致します。

前窪パストガバナー：



まず前田パストガバナーから、決議 23-34 についてお話がありました。2人のパストガバナーからは、手続要覧の社会奉仕に関する部分を熟読して下さい、と話をしました。それに則って、各クラブの社会奉仕を進めて頂きたいと要望致しました。社会奉仕が無ければ広報活動が出来ませんので、ロータリーの1つの根幹であるということをご認識下さい。地域社会にどれだけ認めて頂けるか、ということも社会奉仕にかかっています。

谷脇次期社会奉仕委員長より、委員会の方針を説明して頂きました。特に次年度は

地震問題ならびに防災対策について取り組むことになっています。

質疑応答では、“ロータリー 100 年の森林”についてや、環境問題に関する質問がありました。

防災は“安全”と“安心”と言えると思いますので、そこを上手く捉えて進めて頂きたいと思います。

古谷：

ありがとうございました。引き続き新世代部門から平原パストガバナー、よろしくお願い致します。

平原パストガバナー：



まず丸山次期青少年・ライラ委員長から説明がありました。例年のゴールデンウィークから3月に開催時期が変更したこと、場所の変更についての話がありました。

中西次期ローターアクト委員長からは、地区のWCSとの連携を考えてはどうかという話がありました。また17年間、新しいクラブが出来ていけませんので、和歌山南部で作りたいということでした。3月13・14日、全国ローターアクト研修会が愛知で開催されます。これは理解を深める上で素晴らしい会議ですので、多くのご参加をお願いします。

竈インターアクト委員長からは、毎年末に海外研修を行います。新型インフルエンザの関係で思案中との話がありました。

青少年は我々の未来であり宝物ですから、“しっかりと自分の意見を言える”、“人の意見をしっかりと聞ける”青少年を育てる

ための先輩方の長年の努力を継承していこうではありませんか。困難なこともありますが、工夫をして、知恵を出し合って、身の丈に合った活動を続けていこう、という結論でした。

古谷：

ありがとうございました。次に国際奉仕部門より中島パストガバナー、よろしくお願い致します。

中島パストガバナー：



国際奉仕部門には2つの非常に優れたプログラムがあり、世界社会奉仕と青少年交換です。皆様方のクラブでは国際奉仕委員会から国際奉仕の機会を提供致しますので、積極的に乗って頂きたいと思います。青少年交換は1年間と短期とありますが、1年間外国へ行くと本当に成長します。このような機会を是非、皆様方の地域社会の若者に与えて頂きたいと思います。このプログラムはロータリアンの子どもさんでも行くことが出来ます。

世界社会奉仕は特にアジア地域で、非常に困っている方々に手を差し伸べるプロジェクトを行っています。次年度はインドネシアへ行く計画を立てています。実際に現地に行って、ニーズを見て手を差し伸べ、現地の人々の喜ぶ顔を見ると感動しますし、帰ってからも話をして頂き、感動を分かち合っ頂きたいと思います。

本日はここに各クラブの理事会のメンバーがおられます。国際奉仕担当の理事からそのような提案がありましたら、積極的に支

援して頂きたいと思います。

古谷：

ありがとうございました。次にロータリー財団部門より三軒パストガバナー、よろしくお願い致します。

三軒パストガバナー：



次年度よりきっちりしたロータリー財団委員会にしたいということで、岩本次期財団委員長が指名されました。ロータリー財団は年度がいろいろ出てきますので、ややこしく思われがちです。

まず亀岡パストガバナーよりロータリー財団について全体像をお話頂きました。しかしロータリー財団も財政的に危機に陥っていますので、現行のプログラムがこの先、行われるかは疑問です。すでに4年後には“未来の夢計画”ということで、新しいプログラムに移行されることになっています。それについての説明をして頂きました。

吉野財団奨学金小委員会アドバイザーより、国際親善奨学金についてお話頂きました。

財団研究グループ交換についてですが、将来、職業研修グループとなります。山本次期財団研究グループ交換小委員会副委員長より説明がありました。次年度は交換を実施し、相手はニューヨーク近くの7150地区になります。団長以下、団員は全員女性です。来年の当地区の地区大会に合わせて、こちらにも来られます。その際は、奇数のIMが受け入れの担当になっていますので、ご協力よろしくお願い致します。

財団学友については、川端次期財団学友小委員会委員よりご説明があり、学友の活動を今後ますます活発にしたいとお話がありました。

財団の寄付金の収支についてのご質問を頂きました。昨年度まではプラスでしたが、今年度は来年の1月にならないとわかりませんが、おそらくマイナスになると思われます。またポリオ・プラスのプラスの意味合いについての質問もございました。

クラブ財団委員長会議を9月5日に開催しますので、その時にはもっと詳しくディスカッションしたいと考えております。

古谷：

ありがとうございます。続いて米山部門より水田パストガバナー、よろしくお願い致します。

水田パストガバナー：



松下次年度米山カウンセラー補佐より米山奨学事業の現況について説明して頂き、浦口次年度米山委員長から次年度の活動方針のお話をして頂きました。今年は高校生と米山奨学生との交流が活発に行われたことについて報告されました。また学友会の活動を活発化するという事で具体的に動いていますので、また皆様方のご協力もよろしくお願い致します。

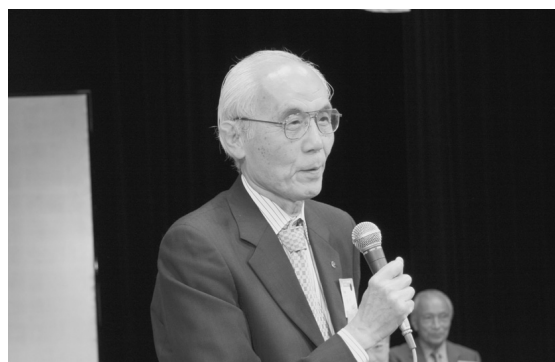
質疑応答では、「奨学生との交流を深めるには、どうすれば良いか？」という質問がありました。世話クラブの方ではなかったのですが、前向きなお考えで非常にありがたく感じました。

米山の趣旨について、もっとロータリアンに理解を深めて頂くための啓発活動が必要と思っています。昨今は会員の減少もあり、寄付金の関係で米山奨学生も減らさざるを得ません。前向きに取り組んでいきたいと考えていますので、どうぞよろしくご協力をお願い申し上げます。

古谷：

では会議の締めくくりと致しまして、講評をお願いしたいと思います。まず小島パストガバナー、よろしくお願い致します。

小島パストガバナー：



どうぞ皆さん、ロータリーはクラブ、会員さんが1番上にあります。皆さんが、どうすれば良い方向に行くのかを考えて頂いて、次年度のクラブの活動方針を決めて頂くことが重要と思います。20数年間、RIが考えていることは同じことです。次年度のテーマの通り、まさに皆様方の肩にかかっていますので、良いクラブを作って頂きたいと思います。

古谷：

ありがとうございました。続いて月山パストガバナーにお願い致します。

月山パストガバナー：



幹事部門のカウンセラーをさせて頂きました。幹事はクラブの運命を左右するくらい大切だと考えています。昔は年に2回、幹事の教育が行われましたし、また幹事だけは何年も続けてされた方がおられました。どうも最近の幹事は事務員任せになっているように感じますので、危惧しています。全ての責任は幹事が負うもののご認識下さい。

皆さん、帰られましたら各クラブでクラブ協議会を開催して頂き、本日のご報告をして頂きたいと思えます。

古谷：

ありがとうございました。続きまして前田パストガバナー、お願い致します。

前田パストガバナー：



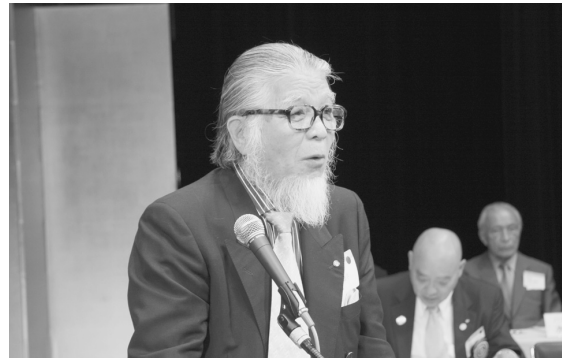
部門別協議会では、社会奉仕部門に加えて頂きましたが、非常に熱心に、時間いっぱい実りのある会合になりました。本日は天候にも恵まれ、幸先の良い次年度へのスタートがきれることと思えます。しかし世界経済は非常に混迷しておりますが、ロータリーとして当地区の次年度の方針“歴史

に学び、変革と進歩を”を心として、乗り越えていきたいと思う次第です。

古谷：

ありがとうございました。続きまして大澤パストガバナーにお願い致します。

大澤パストガバナー：



まもなくこの勉強会も終了しますが、お車でおいでの皆様は、帰りの高速道路はどんな状況か、とお考えのことと思えます。本日はこの後、ガバナーエレクトが思いやりの心で懇親会の企画をされています。高速道路で混雑に巻き込まれるよりは、ここでゆっくりと皆さんで話をして頂きたいということです。

本日は、お疲れ様でした。

古谷：

ありがとうございました。つづきまして亀岡パストガバナー、お願い致します。

亀岡パストガバナー：



お亡くなりになりました榎本パストガバナーが、田辺で会合をされた時に、ガーデンホテル・ハナヨへ行かせて頂きました。

当時は財団奨学金委員長をしておりまして、本日も財団部門の担当で、そこへ行かせて頂き非常に懐かしく感じました。

本日の会議、当初は幹事部門の担当と言われてましたので、構想を練っていました。扇を思い浮かべて頂きたいと思いますが、幹事は扇の要に相当する、という切り口から話をさせて頂くつもりでしたが、財団部門に変更になりました。

財団部門は、ベテランの方はよくご存知ですが、初めて来られる方は財団の全体像が掴めなければ財団を理解出来ないだろう、ということで私は全体像を話させて頂きました。

古谷：

ありがとうございました。最後に米田ガバナーノミニー、お願い致します。

米田ガバナーノミニー：



私は会長部門に出席させて頂きました。第1回PETS、第2回PETS、そして今回と3回にわたり一緒に勉強させて頂きましたが、皆様、風格も備わっておられまして、大変落ち着いておられました。

次の地区協議会は私が主催させて頂く立場にあります。本日は村上ガバナーエレクト

トの了承を得まして、私の年度の大きな会議の予定を会長部門でお配りさせて頂きました。皆様のクラブの行事計画と併せて、お考え頂ければと思います。

本日は皆様、大変お疲れ様でした。

古谷：

ありがとうございました。それではロータリーソング『手に手つないで』をご唱和願いたいと思いますので、その場でお立ちになって隣の方と手をつないで頂きたいと思います。ご唱和よろしくお祈いします。

(ロータリーソング『手に手つないで』唱和)

古谷：

ありがとうございました。それでは最後に閉会の謝辞と点鐘を村上ガバナーエレクト、よろしくお祈いします。

村上ガバナーエレクト：



早朝から一日中、本当にご苦労様でした。本日の会議で議論されたことを十分にご自分の身に着けて頂いて、そして7月からの新年度に備えて下さい。来年1年間、どうぞよろしくお祈い申し上げます。(点鐘)



2009-10年度 国際ロータリー第2640地区 組織図

2009. 5. 12

RI 会長 ジョン・ケニー【スコットランド・グランジマウスRC】
RI 会長エレクト レイ・クリンギンズミス【カークスビルロータリークラブRC】
理事 小沢 一彦【横須賀RC】 黒田 正宏【八戸南RC】
事務総長 エド H・フタ【米国ハワイ州・ホノルルRC】

地区諮問委員会《パストガバナー》
 月山 和男(和歌山南) 中島 治一郎(泉大津) 平岡 正巳(羽衣) 瀬戸 新一(御坊)
 大澤 徳平(堺) 楠 公延(高野山) 中村 幸吉(富田林) 亀岡 弘(泉南)
 成川 守彦(有田) 水田 博史(岸和田東) 前田 孝道(和歌山東南)
 小島 哲(泉大津) 前窪 貴志(和歌山南) 平尾 寧章(海南東)
 三軒 久義(河内長野東) 平原 祥彰(粉河) 勝野 露観(和泉)

RI 会長賞・意義ある業績賞選考委員会
 ◎勝野 露観(和泉) 平原 祥彰(粉河)

ガバナーエレクト
 米田 眞理子(堺フェニックスRC)

ガバナー補佐
 1組 矢倉 甚兵衛(串本) 坂口 富茂(田辺はまゆう) 2組 川村 克人(有田) 沖殿 正博(海南)
 3組 小門 篤子(和歌山アゼリア) 神谷 尚孝(和歌山東南) 4組 西山 利昭(高野山)
 5組 山本 正明(堺野) 辻 知昭(河内長野東) 6組 山本 昇三(泉南) 小西 喜代一(貝塚)
 7組 榎本 主税(大阪金剛) 松生 満(志岡)
 8組 山田 義夫(堺) 山本 久(海南) 三村 文男(堺フェニックス)

地区協議会ホスト
 堺フェニックスRC

インターシティーミーティング担当クラブ
 第1組 白浜 御坊 第3組 和歌山
 第4組 粉河 松原 第6組 りんくう泉佐野
 第7組 和泉南 堺東南 第8組

ガバナー
村上 有司
 (田辺RC)

地区ガバナー指名委員会
 ◎ 平原 祥彰(粉河) 月山 和男(和歌山南) 中島 治一郎(泉大津)
 平岡 正巳(羽衣) 瀬戸 新一(御坊) 大澤 徳平(堺)
 楠 公延(高野山) 中村 幸吉(富田林) 亀岡 弘(泉南)
 成川 守彦(有田) 水田 博史(岸和田東) 前田 孝道(和歌山東南)
 小島 哲(泉大津) 前窪 貴志(和歌山南) 平尾 寧章(海南東)
 三軒 久義(河内長野東) 勝野 露観(和泉)

地区幹事
地区代表幹事 吉田 透(田辺)
地区副代表幹事 高橋武雄 津村寛司 坪井敏行 廣本喜亮 古久保和彦
地区幹事 矢野好洋 柴田隆至 中松村夫 榎野吉信 長井保夫 玉井洋司
 植田英明 竹中幸一 朱洋子 市木栄之助 三前剛 横田達夫
 伊賀久記 竹内正巳 木村頼文 稲田大門 新井康司 竹本達也
 寒川真典 三谷昌平 大木誠治 皆瀬正夫 古谷典子 小川豊介
 野村富也 辻啓次郎 山本博章 三前洋 多屋隆夫 木下幾雄
 矢田篤司(田辺はまゆう) 泉房次朗(田辺東)
 桃田隆彦(和泉) 楠玲子(堺フェニックス)

地区財務委員会 ◎ 荷福 實 **地区監査** 前芝 正典

ロータリーの友 地区委員
 廣本 喜亮(田辺)

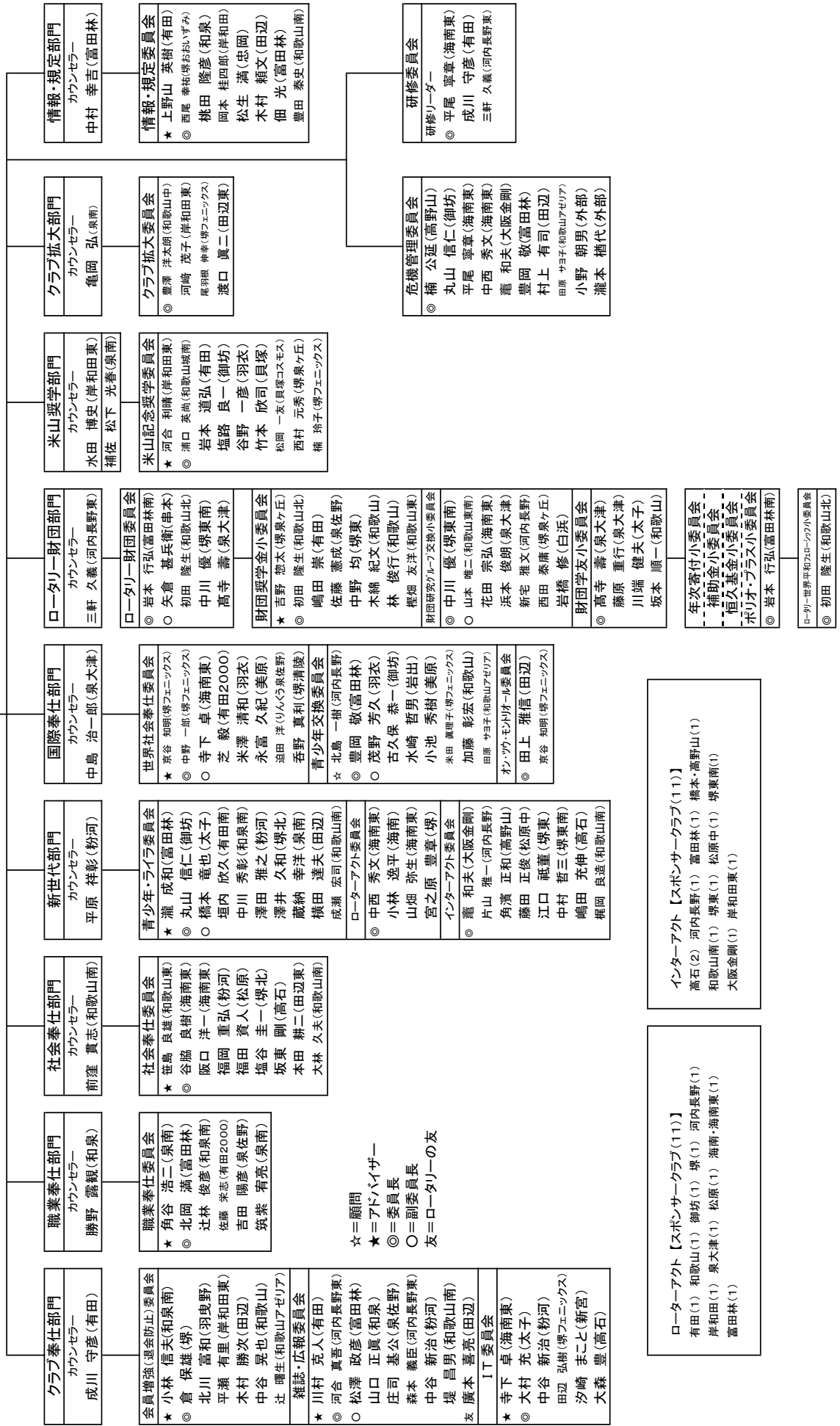
地区大会 2010. 4/17~18
 ◎ 畑地 浩 渡部 正義 廣本 喜亮 川内 潔
ゴルフ大会 2010. 4/5
 ◎ 長野 羊 ゴルフ同好会一同

地区委員会

2009～2010年度国際ロータリー 第2640地区委員会組織表

2009. 6. 8現在

地区委員会



ガバナー補佐 一覽

2009. 3. 15 現在

IM組	お名前	クラブ名	担当クラブ
1組	矢倉甚兵衛	串本	串本・那智勝浦・新宮
	坂口 富茂	田辺はまゆう	白浜・田辺・田辺はまゆう・田辺東
2組	川村 克人	有田	有田・有田南・御坊・御坊南・海南東
	沖殿 正博	海南	有田 2000・御坊東・海南・海南西
3組	小門 薫子	和歌山アゼリア	和歌山東・和歌山城南・和歌山北・和歌山南
	神谷 尚孝	和歌山東南	和歌山・和歌山アゼリア・和歌山中・和歌山西・和歌山東南
4組	西山 利昭	高野山	橋本・橋本紀ノ川・岩出・粉河・高野山
5組	山本 正明	羽曳野	藤井寺しゅら・羽曳野・松原・松原中・美原
	辻 知昭	河内長野東	河内長野・河内長野東・大阪狭山・太子・富田林・富田林南
6組	小西喜代一	貝塚	岸和田・岸和田東・岸和田北・岸和田南・貝塚・貝塚コスモス
	山本 昇三	泉南	阪南・泉佐野・関西国際空港・りんくう泉佐野・泉南
7組	櫻本 主税	大阪金剛	羽衣・忠岡・高石・高師浜
	松生 満	忠岡	和泉・和泉南・泉大津・大阪金剛
8組	山田 義夫	堺	堺・堺東・堺北・堺フェニックス
	山本 久	堺南	堺南・堺西・堺おおいずみ・堺泉北・堺東南
	三村 文男	堺フェニックス	堺北西南西・堺泉ヶ丘・堺中・堺清陵

2009－10 年度 IM 担当クラブ

IM担当クラブ・予定				
	ホストクラブ名	日程	場所	ゼネラルリーダー
1 組	白浜 RC	2009. 11. 14 (土)	コガノイベイホテル	勝野 露観
2 組	御坊 RC	2010. 1. 24 (日)	御坊市民会館	亀岡 弘
3 組	和歌山 RC	2009. 10. 3 (土)	和歌山県民文化会館小ホール	三軒 久義
4 組	粉河 RC	2009. 11. 21 (土)	粉河ふるさとセンター	中島治一郎
5 組	松原 RC	2009. 10. 31 (土)	松原市文化会館	前田 孝道
6 組	りんくう泉佐野 RC	2009. 11. 28 (土)	全日空ゲートタワーホテル	成川 守彦
7 組	和泉南 RC	2009. 11. 7 (土)	テクスピア大阪	水田 博史
8 組	堺東南 RC	2009. 9. 26 (土)	リーガロイヤルホテル堺	楠 公延

ガバナー公式訪問に際しての お願い

- ・クラブ協議会・・・ガバナー補佐が公式訪問 2 週間前までに行う。
公式訪問 1 週間前までに、クラブ協議会の報告書・週報 各 1 部をご提出ください。
- ・会長・幹事懇談会（例会 前後 約 1 時間）

2009 - 10 年度 公式訪問予定表

		(昼の部)		(夜の部)	
		開始時間	クラブ名	開始時間	クラブ名
8月					
26日	水	12:30~	和泉		
29日	土			18:30~	泉佐野・りんくう泉佐野・関西国際空港
9月					
1日	火	12:30~	和歌山・和歌山アゼリア・和歌山西		
3日	木	13:00~	岸和田南	18:30~	堺東南
4日	金	12:30~	御坊	18:30~	和歌山中・和歌山東南
7日	月			18:30~	海南東
8日	火	12:30~	御坊南		
9日	水	12:30~	海南	19:00~	有田2000
10日	木	12:30~	堺・堺西	18:30~	羽衣
11日	金	12:30~	堺北		
15日	火	12:30~	堺東		
16日	水	12:30~	田辺東	19:00~	御坊東
19日	土			18:30~	阪南・泉南
24日	木			18:30~	大阪金剛
25日	金	12:30~	白浜		
29日	火	12:30~	堺北西南西		
10月					
1日	木	12:30~	岩出		
2日	金	12:30~	高野山		
5日	月			19:00~	太子
7日	水	12:30~	粉河		
8日	木	12:30~	忠岡・高師浜	18:30~	和歌山東・和歌山北
9日	金	13:00~	岸和田東		
13日	火	12:30~	松原	18:30~	松原中
14日	水	12:30~	堺おおいずみ	18:30~	河内長野東
15日	木	12:30~	有田	18:30~	堺フェニックス
20日	火			18:30~	堺泉ヶ丘
21日	水	16:00~	羽曳野		
22日	木			18:30~	和歌山南・和歌山城南
27日	火	12:30~	有田南		
28日	水	12:30~	貝塚コスモス	18:30~	堺中
29日	木			19:00~	海南西
11月					
4日	水	12:30~	新宮		
5日	木	12:30~	那智勝浦・串本		
10日	火	12:30~	貝塚	19:00~	橋本紀ノ川
12日	木	12:30~	大阪狭山	18:00~	堺清陵
13日	金	12:30~	美原		
24日	火	12:30~	岸和田北		
25日	水	12:30~	岸和田		
26日	木	12:30~	富田林・富田林南	19:00~	藤井寺しゅら
27日	金	12:30~	河内長野		
12月					
3日	木	12:30~	橋本		
4日	金			18:00~	泉大津
7日	月	12:30~	堺南		
8日	火			18:30~	田辺はまゆう
10日	木			18:00~	和泉南
15日	火	12:30~	高石		
17日	木	12:30~	田辺		



国際ロータリー第2640地区 ガバナー事務所

〒640-8215 和歌山市橋丁23 サイバーリンクスN-4ビル2F

TEL.073-428-2640

FAX.073-428-2643

E-mail:info@rid2640g.org

URL:<http://www.rid2640g.org/murakami/>